Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

取扱説明書

アドバンストシステム編

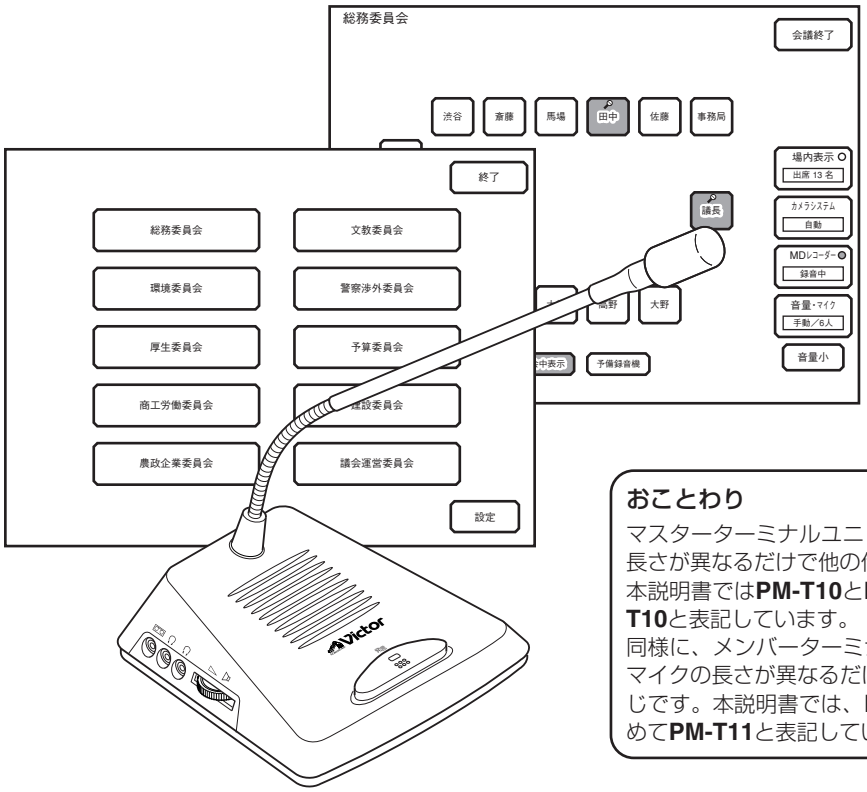
準備

使いかた

主な仕様

デジタル会議システム

PM-1000シリーズ



おことわり

マスターターミナルユニット**PM-T10L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T10**と同じです。本説明書では**PM-T10**と**PM-T10L**をまとめて、**PM-T10**と表記しています。
同様に、メンバーターミナルユニット**PM-T11L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T11**と同じです。本説明書では、**PM-T11**と**PM-T11L**をまとめて**PM-T11**と表記しています。

－お買い上げありがとうございます－

ご使用の前にこの**「取扱説明書」**をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

私たちは環境・資源をたいせつにしています。
この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙（古紙100%）を使用しています。

SS961524-002

もくじ　取扱説明書　アドバンストシステム編

おことわり

マスターターミナルユニット**PM-T10L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T10**と同じです。本説明書では **PM-T10** と **PM-T10L** をまとめて、**PM-T10** と表記しています。
同様に、メンバーターミナルユニット**PM-T11L**は、マイクの長さが異なるだけで他の仕様は**PM-T11**と同じです。本説明書では、**PM-T11** と **PM-T11L** をまとめて **PM-T11** と表記しています。

正しくお使いいただくために

準備

1　デジタル会議システムについて 1-1
1.1　デジタル会議システムの構成機器について 1-1
1.2　マイク動作モードとその使いかた 1-5
1.3　デジタルコントロールユニット **PM-M110** の各部のなまえとはたらき 1-9
1.4　マスターターミナルユニット **PM-T10** の各部のなまえとはたらき 1-11
1.5　メンバーターミナルユニット **PM-T11** の各部のなまえとはたらき 1-14
1.6　MD レコーダー **PM-R30** の各部のなまえとはたらき 1-17
2　操作画面について 2-1
2.1　操作手順の概要 2-1
2.2　タッチパネルディスプレイについて 2-3

使いかた

1　デジタル会議システムの接続のしかた 1-1
1.1　デジタルコントロールユニット **PM-M110** の接続 1-1
1.2　ターミナルユニット **PM-T10/T11** の接続 1-2
2　デジタル会議システムの電源の入れかた 2-1
2.1　デジタル会議システムの電源の入れかた 2-1
2.2　操作画面（会議コントロールソフト）を起動する 2-2
3　操作画面（会議コントロールソフト）の使いかた 3-1
3.1　会議の準備を行うには 3-1
3.1.1 マイク動作モードおよびマイク動作の設定値を変更するには 3-4
3.1.2 議長名、参加者名を変更するには 3-5
3.1.3 議員数を変更するには 3-6
3.1.4 会議名を変更するには 3-7
3.1.5 ターミナルユニット **PM-T10/T11** の自動点検 3-8
3.1.6 MD レコーダー **PM-R30** の準備と自動点検 3-9
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うには 3-12
3.1.8 設定値のダウンロード 3-16
3.2　会議を開始するには 3-17
3.3　ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクを入／切するには 3-19
3.3.1 手動発言モード時 3-19
3.3.2 後押し発言モード時 3-20
3.3.3 自動発言モード時 3-21
3.3.4 発言申請モード時 3-22
3.4　音量を調節するには 3-23
3.5　外部機器を制御するには 3-25
3.6　発言残時間を表示するには 3-26
3.6.1 発言残時間の減算を開始するには 3-26

もくじ(つづき)　取扱説明書　アドバンストシステム編

3.6.2 発言残時間の減算を終了するには 3-27
3.6.3 発言残時間の減算を一時停止／続行するには 3-28
3.7 出席議員数を変更するには 3-29
3.8 MD レコーダー **PM-R30** の動作について 3-30
3.9 自動追尾カメラシステムの動作について 3-32
3.10 休憩に入るには／再開するには 3-33
3.11 会議を終了するには／会議記録ファイルを保存するには 3-34
3.12 エラーメッセージと対処法 3-36

4 デジタルコントロールユニット PM-M110 の使いかた 4-1
4.1 アドバンストシステムでの動作について 4-1
4.2 音量の調節 4-1

5 マスターターミナルユニット PM-T10 の使いかた 5-1
5.1 発言するには 5-1
5.2 現在の発言を終了させるには 5-2
5.3 マイクの音量を調節するには 5-3

6 メンバーターミナルユニット PM-T11 の使いかた 6-1
6.1 発言するには 6-1
6.2 マイクの音量を調節するには 6-2

7 MD レコーダー PM-R30 の使いかた 7-1
7.1 自動録音時の動作について 7-1
7.2 手動による録音のしかた 7-4
7.3 録音済みディスクの交換 7-5
7.4 再生と消去のしかた 7-6
7.5 会議記録ファイルについて 7-8
7.6 エラーメッセージとその対処法 7-9

8 デジタル会議システムの電源の切りかた 8-1
8.1 操作画面（会議コントロールソフト）を終了する 8-1
8.2 デジタル会議システムの電源の切りかた 8-2

9 非常放送時には 9-1

主な仕様

1 デジタルコントロールユニット PM-M110 1
2 マスターターミナルユニット PM-T10/T10L 2
3 メンバーターミナルユニット PM-T11/T11L 3
4 MD レコーダー PM-R30 4
5 延長ケーブル PM-CN5/CN10 5
6 システムソフトウェア PM-S110 5

保証とアフターサービス

廃棄について、省エネについて

正しくお使いいただくために

■ 安全上のご注意

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、または物的傷害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることをお知らせするものです。
図の中や近傍に具体的な注意内容が示されています。

⃠ 記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容が示されています。

⚠警告

- 万一、煙がでている、へんなにおいがするときは、すぐに電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。その後、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口に修理をご依頼ください。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードの継ぎ足しはしない。火災や感電の原因となります。

- セット内部に触れることは危険なうえ故障の原因となります。内部の点検・調整は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へお任せください。

分解禁止

- 機器の通風孔をふさがない。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり火災の原因になることがあります。

- 本機は日本国内専用です。
必ず商用電源 AC100V 50/60Hz でご使用ください。

- 万一、水や異物が機器の内部に入った場合は、まず機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。その後、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- この機器の開口部（通風孔、MDの挿入口など）から内部に金属類 や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしない。
火災・感電の原因となります。

- 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。その後、お買い上げ販売店およびビクターサービス窓口にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

- この機器を分解・改造しない。
火災・感電の原因となります。

分解禁止

- この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器、または小さな金属物を置かない。こぼれたり、中に入った場合、 火災・感電の原因となります。

- 雷が鳴り出したら、機器に接続されている接続線（アンテナ線、電話線、その他の接続線）や電源プラグには触れない。感電の原因となります。

接触禁止

- モニターテレビなどの機器のふたは外さない。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご依頼ください。

■ 安全上のご注意（つづき）

⚠注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらない。かならずプラグを持って抜いてください。
- 製品に悪い影響を与えますので、ほこりや振動の多い所には置かない。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近付けない。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 機器間の接続線に足など引っかけないようご注意ください。つまずいてけがの原因となることがあります。
- 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にする。突然大きな音がでてスピーカーを破損したり聴力障害などの原因となることがあります。
- 長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。
- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜くか、またはブレーカーを切る。
- 移動させる場合は、電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続線など外部の接続線を外す。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜くこと

電源プラグをコンセントから抜くこと

電源プラグをコンセントから抜くこと

■ 使用上のご注意

- 無停電電源装置（UPS）内のバッテリーの充電が不足していると、万一のときに十分な停電保護ができません。バッテリーの充電は、無停電電源装置（UPS）が商用電源で入電しているとき行われますので、以下のことを守ってください。

  （1）配電盤のブレーカーなどによりシステム全体の電源を切る場合は、本書の「8. デジタル会議システムの電源の切りかた」のように、無停電電源装置（UPS）の電源を切り、その後、配電盤のブレーカーを切ってください。

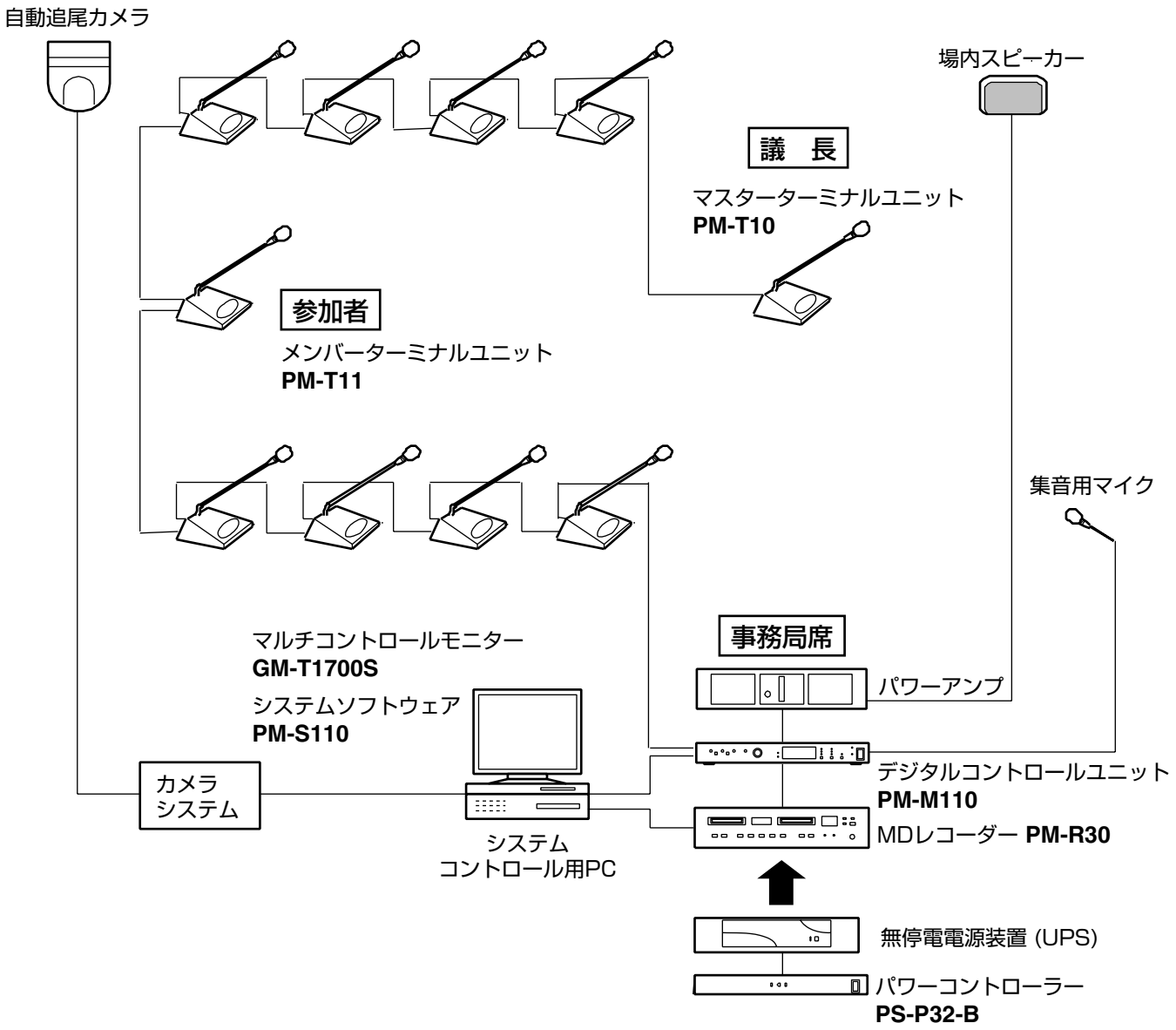
  （2）無停電電源装置（UPS）のバッテリーは自然放電しますので、長時間このシステムをご使用にならなかった場合は、使用の数時間前から電源を入れ無停電電源装置（UPS）のバッテリーを充電してください。（無停電電源装置（UPS）の仕様により、3～6ヶ月ごとに、数時間の充電を行なってください。）
- 機器を接続するときは、必ず電源を切った状態で行なってください。
  機器の故障や誤動作の原因となることがあります。

準　　備

1. デジタル会議システムについて

1.1 デジタル会議システムの構成機器について

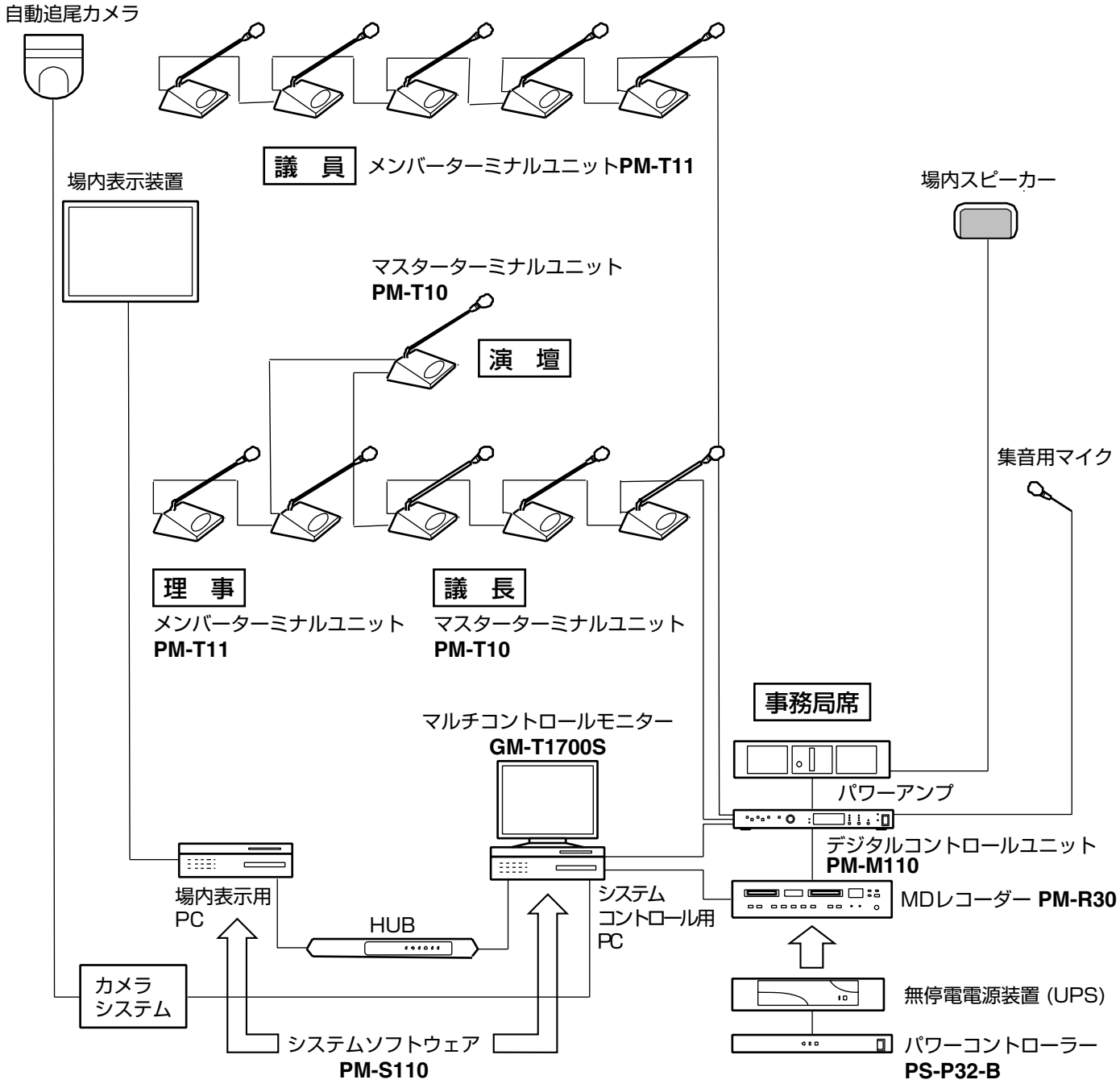
■ 会議室におけるシステム例



1. デジタル会議システムについて

1.1 デジタル会議システムの構成機器について（つづき）

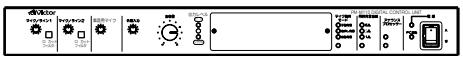
■ 本会議場におけるシステム例



1.1 デジタル会議システムの構成機器について（つづき）

■ デジタルコントロールユニット PM-M110 EIA 1H

事務局が操作するタッチパネルディスプレイの指示に従い、ターミナルユニット**PM-T10/T11**を制御するコントローラーです。内部のデジタルミキサー（デジタルアナウンスプロセッサー、デジタルハウリングサプレッサー等）により、ターミナルユニットのマイク、集音用マイク等の音声を選択またはミキシングし、明瞭・快適な音に変換したあと、ターミナルユニットのモニター、MD レコーダー **PM-R30**、パワーアンプへ出力します。

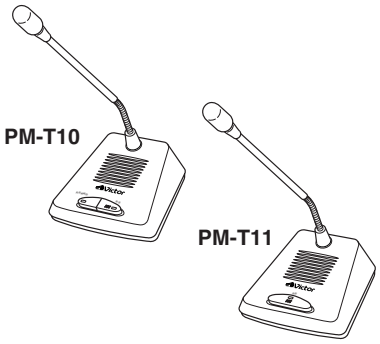


■ マスターターミナルユニット PM-T10

議長、進行役用のユニットです。発言ボタン、発言用マイク、モニタースピーカーと事務局の操作なしに議長以外のユニットのマイクをすべて切ることができる発言者解除ボタンを装備しています。

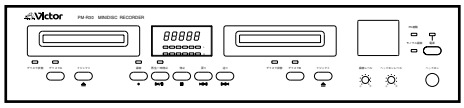
■ メンバーターミナルユニット PM-T11

参加者用のユニットで発言ボタン、発言用マイク、モニタースピーカーを装備しています。



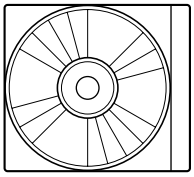
■ MD レコーダー PM-R30 EIA 2H

会議を録音するダブルMDレコーダーです。事務局の操作により、会議の発言内容を2枚のディスクに交互録音することで長時間の記録ができます。



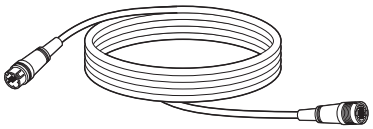
■ システムソフトウェア PM-S110

デジタル会議システムを事務局で制御する場合に必要なプログラムソフトです。
システムコントロール用 PC にインストールする会議コントロールソフトと場内表示用 PC にインストールする場内表示ソフトが入っています。



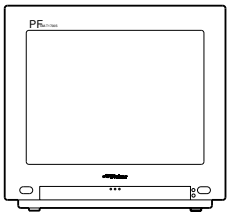
■ 延長ケーブル PM-CN5/CN10

ターミナルユニット**PM-T10/T11**の会議ライン出力ケーブルの長さが短いときに使用する延長ケーブルです。5mと10mのケーブルがあります。



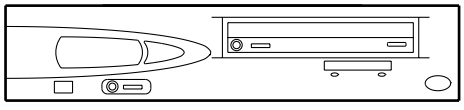
■ マルチコントロールモニター（タッチパネルディスプレイ）GM-T1700S

事務局が操作するタッチパネルディスプレイです。ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクの入／切、MD レコーダー **PM-R30** の録音開始／停止等を操作できます。
（タッチパネルを動作させるには、タッチパネルドライバーソフト **TS-C17T1** が必要です。）



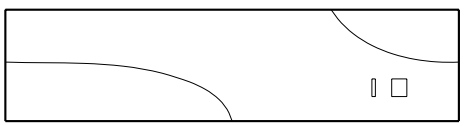
■ システムコントロール用 PC

事務局で使用するパソコン（PC）です。タッチパネルディスプレイ、デジタルコントロールユニット **PM-M110**、MD レコーダー **PM-R30**、自動追尾カメラシステムを制御します。



■ 無停電電源装置（UPS）

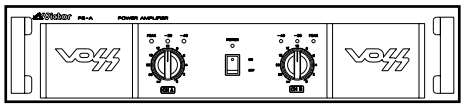
停電時にシステムコントロール用PC、デジタルコントロールユニット **PM-M110**、MD レコーダー **PM-R30** に電源（AC100V）を供給するためのユニットです。



1.1 デジタル会議システムの構成機器について（つづき）

■ パワーアンプ

場内や傍聴席スピーカーへ音声を出力するためのパワーアンプです。

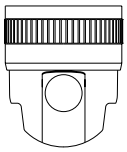


■ パワーコントローラー **PS-P32-B** EIA 1H

機器に必要な電源(AC 100V)を供給する電源ユニットです。

■ 自動追尾カメラシステム

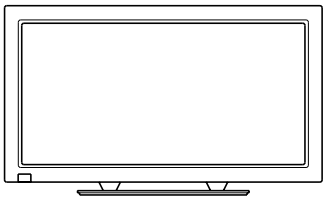
ターミナルユニット**PM-T10/T11**のマイクの入／切に追従して自動的にカメラが発言者を映すシステムです。

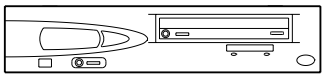


■ 場内表示装置

■ 場内表示用 PC

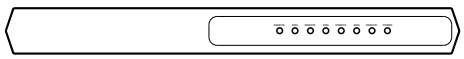
発言残時間、出席議員数を表示します。





■ HUB

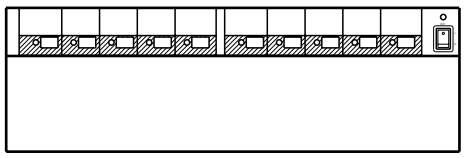
システムコントロール用PC、場内表示用PCをネットワーク接続するために必要なユニットです。



■ マルチスピーカーコントローラー **EM-X33**

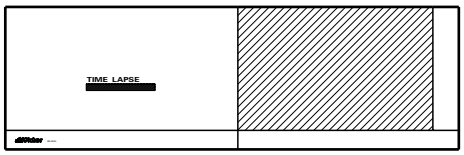
操作部 EIA 1H 制御部 EIA 2H

マイクの入／切と連動して場内のスピーカーを制御し、ハウリングを防止します。



■ バックアップ用 VTR

MD レコーダー **PM-R30** の録音バックアップ用として使います。
また、自動追尾カメラシステムの映像を同時に記録することで会議の記録ができます。



1.2 マイク動作モードとその使いかた

デジタル会議システム **PM-1000** シリーズでは、マイクの入／切の方法やマイクの優先度により４つのマイク動作モード（手動発言モード、後押し発言モード、自動発言モード、発言申請モード）があります。

■ 手動発言モード

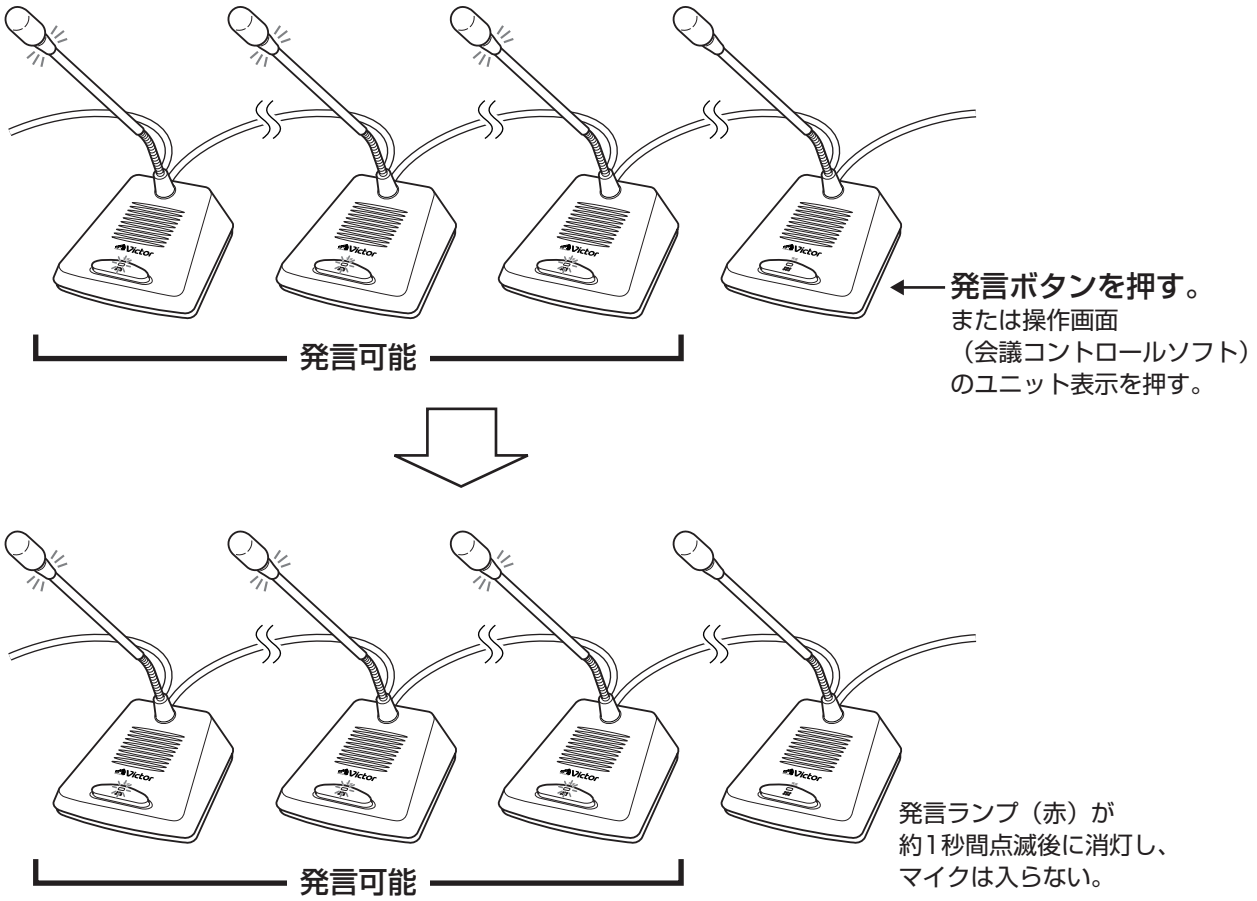
マスターターミナルユニット PM-T10 の動作

発言ボタンまたは操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
同時発言者数には含まれず、制限も受けません。

メンバーターミナルユニット PM-T11 の動作

発言ボタンまたは操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
発言者数が設定した同時発言者数に達している場合はあらたに追加発言できません。

（例）同時発言者数3人の場合



1.2 マイク動作モードとその使いかた（つづき）

■ 後押し発言モード

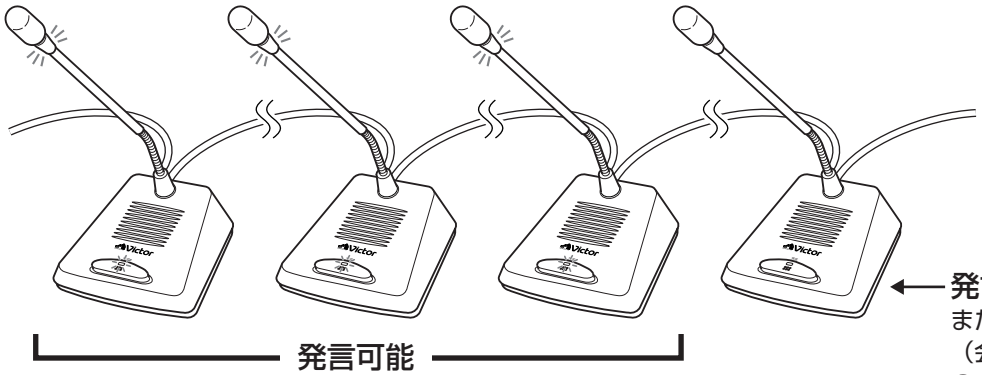
マスターターミナルユニット PM-T10 の動作

発言ボタンまたは操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
同時発言者数には含まれず、制限も受けません。

メンバーターミナルユニット PM-T11 の動作

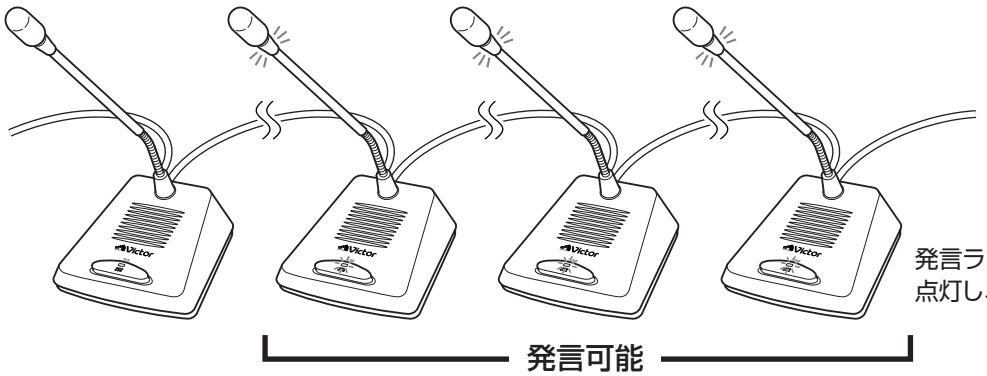
発言ボタンまたは操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクを入／切します。
マイクが入っているときは、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。
発言者数が設定した同時発言者数に達している場合はあらたに発言ボタンを押したメンバーターミナルユニット**PM-T11**の発言が可能になり、かわりに最初から使用していたメンバーターミナルユニット **PM-T11** の発言が解除されます。

（例）同時発言者数3人の場合



発言可能

発言ボタンを押す。
または操作画面
（会議コントロールソフト）
のユニット表示を押す。



発言ランプ(緑)、マイクリングが
点灯し、マイクが入る。

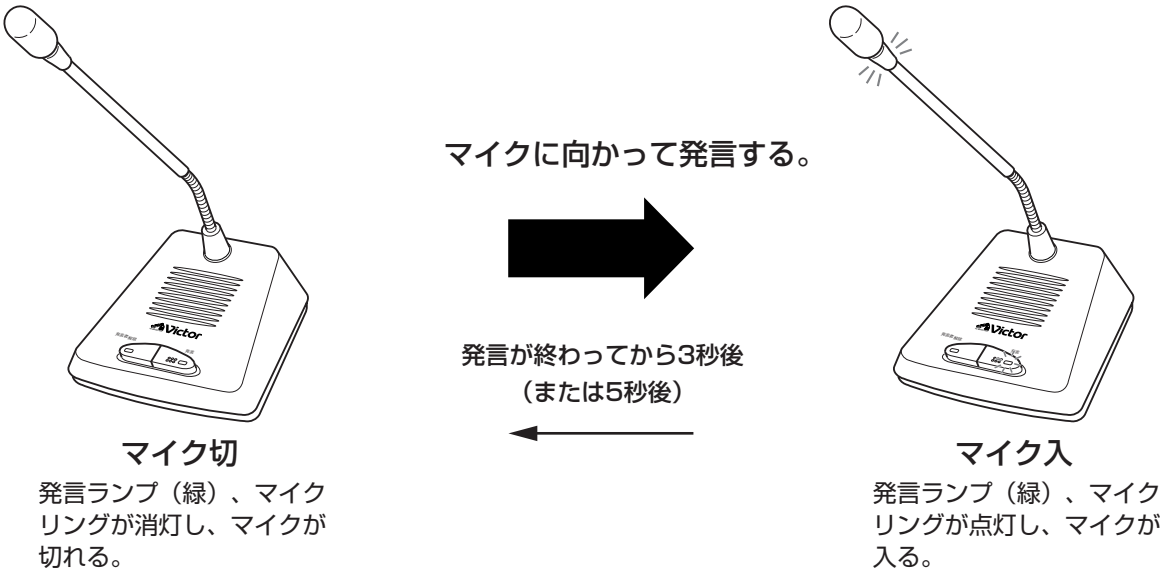
発言可能

1番最初にマイクが入っていたメンバーターミナルユニット**PM-T11**の発言ランプ（緑）、マイクリングが消灯し、マイクが切れる。

1.2 マイク動作モードとその使いかた（つづき）

■ 自動発言モード

マイクで集音した音声を感知してマイクが入ります。数秒間、マイクに音声が入らないとマイクは自動的に切れます。マイクが入っている場合、マイクリング、発言ランプ(緑)が点灯します。操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことによりマイクを入／切することも可能です。
マスターターミナルユニット **PM-T10**、メンバーターミナルユニット **PM-T11** ともに同じ動作です。



自動発言モードを使用するにあたって

・自動発言モードでは、マイクへの入力音声を感知することによって、マイクが入ります。発言者はマイクから 20cm ～ 30cm の距離から発言してください。

・自動発言モードでは、ハウリングを防ぐために自動的にオートゲイン機能とコンプレッサー機能が動作します。
同時に複数の発言者がいる場合は、オートゲイン機能により発言者の音声が小さくなります。また、発言者が大きな声で発言しても、コンプレッサー機能によりモニタースピーカーや場内スピーカーの音量は一定の音量まで下がります。

オートゲイン機能：同時に複数のターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクが入っているときに、入っているマイクの本数によりマイクのゲインを下げる機能です。

コンプレッサー機能：ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクに入った大きい音を、一定の音量まで小さくする機能です。

・録音した時に、発言の始まりが切れてしまうことがあります。また、主となる発言者以外の発言音声を録音してしまうことがあります。**重要な会議では、手動発言モード、後押し発言モードまたは発言申請モードをご使用ください。**

設置上の注意

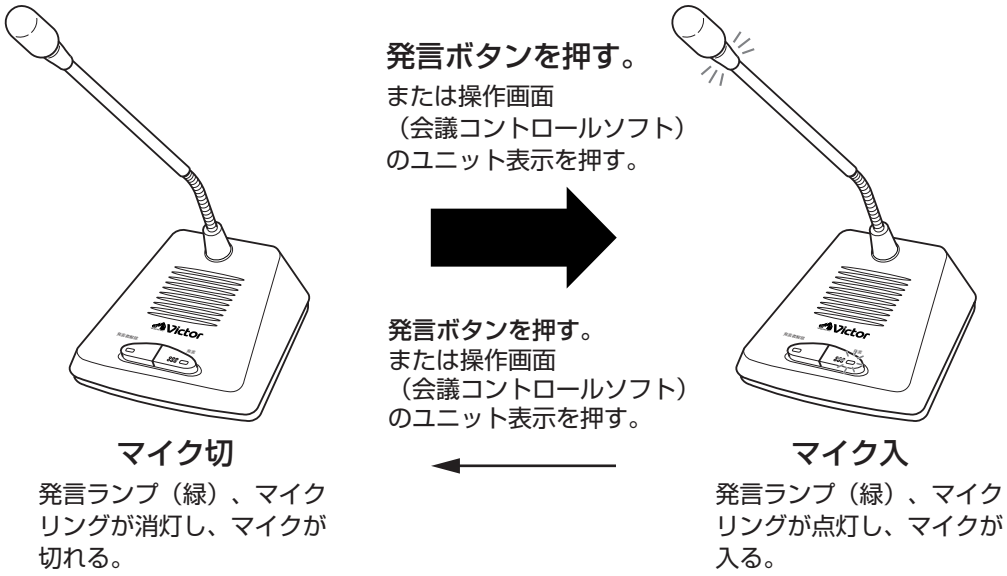
・周囲の発言を感知しないように、それぞれのターミナルユニット **PM-T10/T11** の間隔を十分とって設置してください。
・モニタースピーカーや場内スピーカーの音声を感知しないように、操作画面（会議コントロールソフト）の主音量ボリュームを調節してご使用ください。

1.2 マイク動作モードとその使いかた（つづき）

■ 発言申請モード

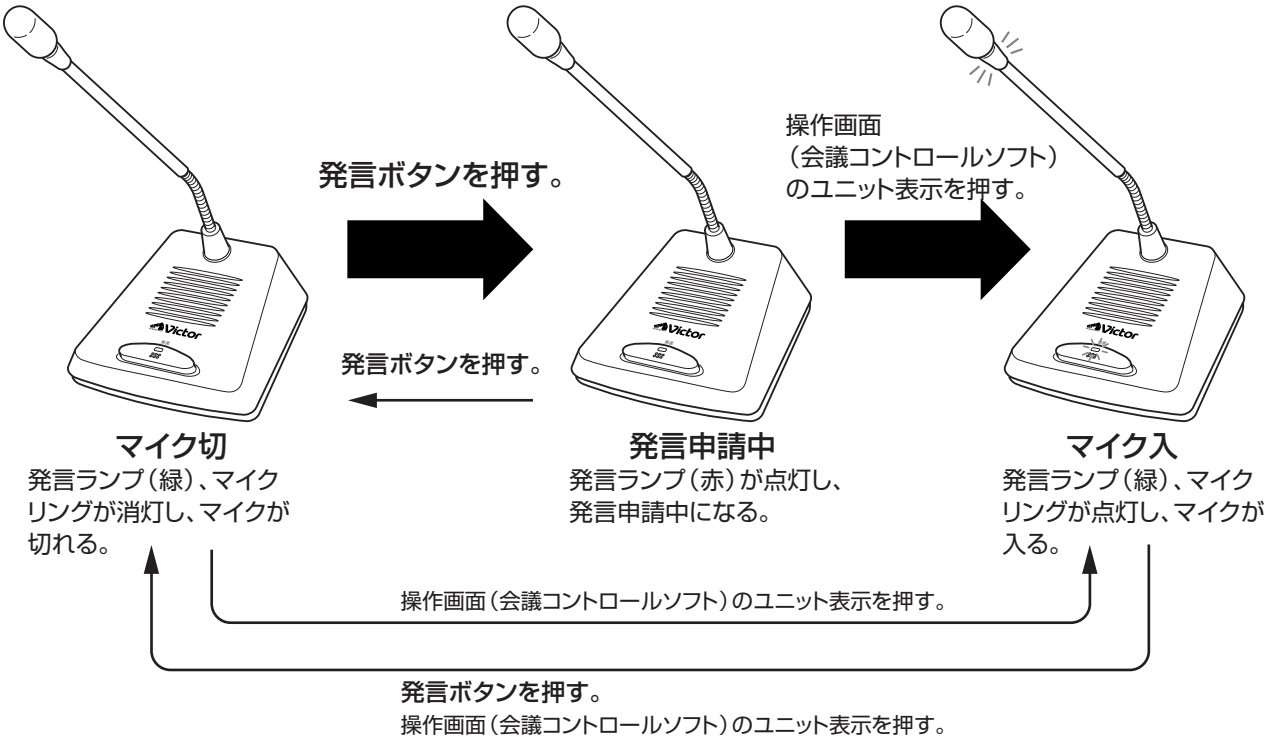
マスターターミナルユニット PM-T10 の動作

発言ボタンまたは操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクを入／切します。
同時発言者数には含まれず、制限も受けません。



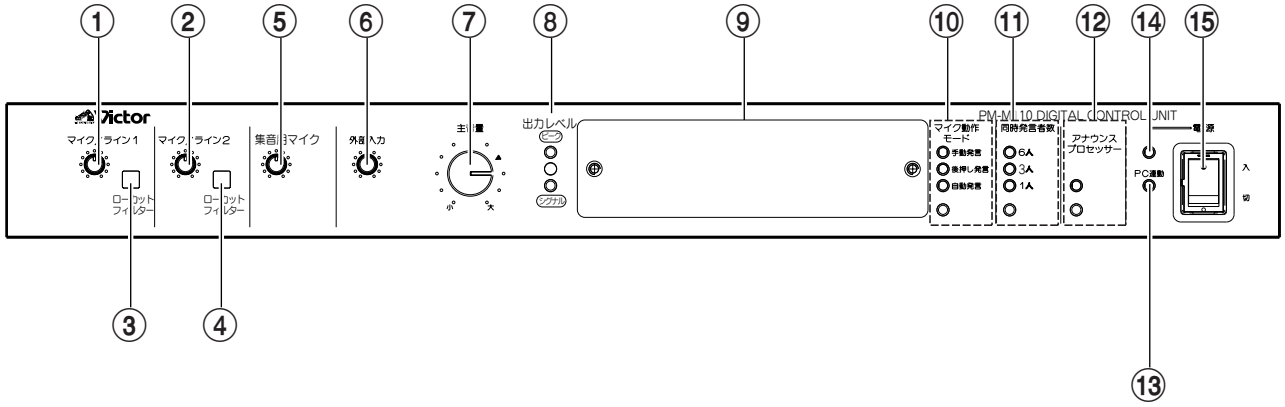
メンバーターミナルユニット PM-T11 の動作

発言ボタンで発言を申請し、操作画面(会議コントロールソフト)のユニット表示を押すことでマイクが入ります。
発言申請中は発言ランプ(赤)が点灯し、マイクが入るとマイクリングと発言ランプ(緑)が点灯します。



1.3 デジタルコントロールユニット **PM-M110** の各部のなまえとはたらき

■ フロントパネル部



①、② マイク／ライン 1,2 ボリューム
マイク／ライン入力 1,2 の音量を調節します。

③、④ ローカットフィルター 1,2 スイッチ
マイク／ライン入力 1,2 にマイクを接続するときに使用し、聞きやすい音声にします。

⑤ 集音用マイクボリューム
集音用マイクの音量を調節します。

⑥ 外部入力ボリューム
外部入力のレベルを調節します。

⑦ 主音量ボリューム
使用しません。操作画面(会議コントロールソフト)内で音量調節します。

⑧ 出力レベル表示
会議ラインモニター出力のレベルを表示します。
緑ランプ 2 個が点灯するレベルが基準です。

点灯レベル：	ランプ 3 個(緑 2 赤 1) 12dBs 以上
	ランプ 2 個(緑 2) 2dBs ～ 12dBs
	ランプ 1 個(緑 1) -18dBs ～ 2dBs

⑨ カバーパネル
ボリューム、スイッチの調整、設定値を保護するパネルです。

⑩ マイク動作モードボタン、ランプ
使用しません。操作画面(会議コントロールソフト)で操作します。ランプは消灯します。

⑪ 同時発言者数ボタン、ランプ
使用しません。操作画面(会議コントロールソフト)で操作します。ランプは消灯します。

⑫ デジタルアナウンスプロセッサーボタン、ランプ
使用しません。操作画面(会議コントロールソフト)で操作します。ランプは消灯します。

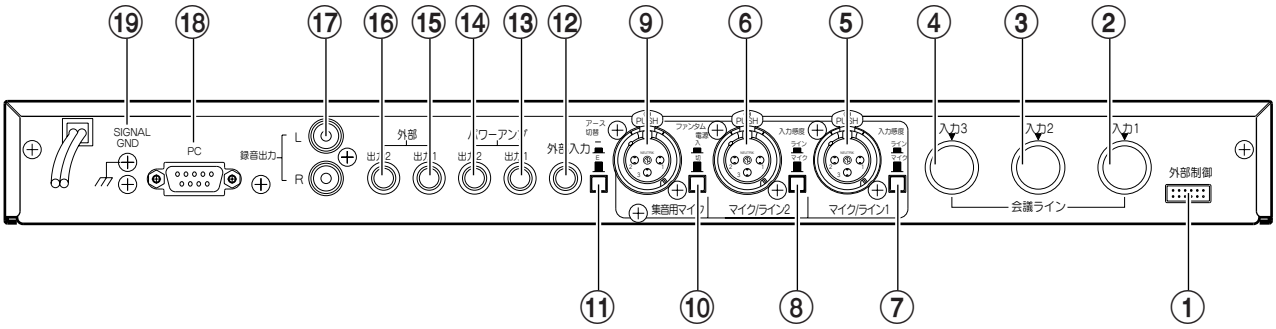
⑬ PC 連動ランプ
PC連動モードのとき点灯します。このランプが点灯中は、⑦主音量ボリュームは無効となり音量調節できません。操作画面(会議コントロールソフト)で音量調節をしてください。

⑭ 電源ランプ
入電後しばらく点滅した後、点灯します。点滅中は接続確認しているため、使用できません。(ターミナルユニット **PM-T10/T11** を 20 台接続時、約 20 秒間点滅します。)

⑮ 電源スイッチ
本機とターミナルユニット **PM-T10/T11** の電源が入ります。

1.3 デジタルコントロールユニットPM-M110の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ リアパネル部



① 外部制御コネクター
添付のコネクターワイヤーを使って、外部の機器と必要に応じて接続します。

②～④ 会議ライン入力１～３コネクター
ターミナルユニット**PM-T10/T11**を順送り接続します。1個のコネクターに接続できるターミナルユニット**PM-T10/T11**は20台までです。

⑤、⑥ マイク／ライン 1,2 入力
ターミナルユニット**PM-T10/T11**のマイク以外にマイクを設置する場合、ここに接続します。またオーディオミキサーなどの出力も接続することができます。

⑦、⑧ マイク／ライン切換スイッチ（マイク：-60dBs　2kΩ平衡　ライン：-10dBs　10kΩ平衡）
マイク／ライン入力に接続する機器により適合レベルを選択します。

⑨ 集音用マイク入力（-60dBs　2kΩ平衡）
集音用マイク（エアーモニターマイク）を接続します。

⑩ ファンタム電源スイッチ
集音用マイクのH.C端子にファンタム電圧（DC12V）が加わります。コンデンサマイク等のファンタム電源供給用のマイクを使用する際は、**入**にします。

⑪ アース切換スイッチ
E（押さない状態）で回路アースとシャーシアースが接続され、**ー**（押した状態）で切り離されます。本機を他の機器とともにラックマウントする設置形態で、他の機器でアースがとられる場合には、**ー**にします。
本機を机上に置くなど他の機器とアースが独立する場合には**E**にします。

⑫ 外部入力（-10dBs　10kΩ平衡）
テレビ会議システム、ワイヤレスチューナーなどを接続します。

⑬、⑭ パワーアンプ出力 1,2（+4dBs　100Ω平衡）
ターミナルユニットのスピーカー以外に、場内スピーカーを設置する場合のパワーアンプに接続します。

⑮ 外部出力１（+4dBs　100Ω平衡）
オーディオミキサーなどに接続します。

⑯ 外部出力２（-10dBs　100Ω平衡）
テレビ会議システム、オーディオミキサー、録音機などに接続します。

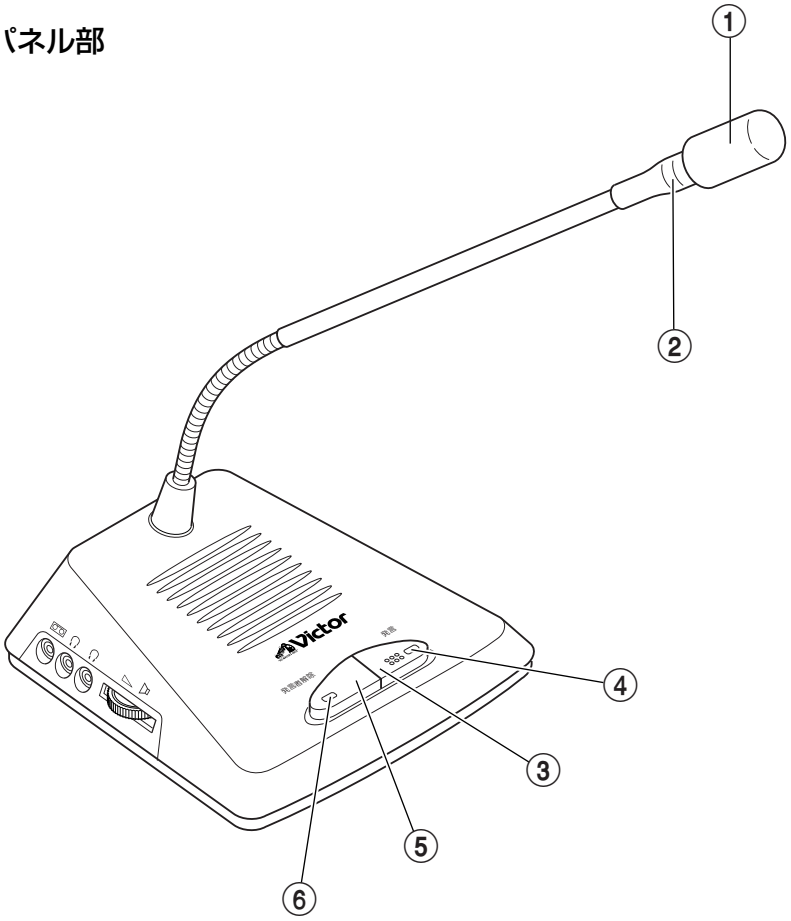
⑰ 録音出力（-10dBs　100Ω平衡）
MDレコーダー**PM-R30**またはその他の録音機に接続します。

⑱ PCコネクター
PCを接続して本システムをコントロールします。

⑲ SIGNAL GND端子
本システムをラックに組み込む場合、他の機器のアース端子と接続します。安全アースではありません。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき

■ マイク部、メインパネル部



① マイク

このマイクにむかって発言します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合、音声を感知して自動的にマイクが入ります。

② マイクリング

発言できるときに緑色に点灯します。

③ 発言ボタン

発言するときに押します。
発言ランプ(緑)が点灯し、マイクが入ります。
発言ランプ(緑)が点灯中に押すと、マイクが切れ発言ランプ(緑)が消灯します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合は使用しません。

④ 発言ランプ

発言できるときに緑色に点灯します。

⑤ 発言者解除ボタン

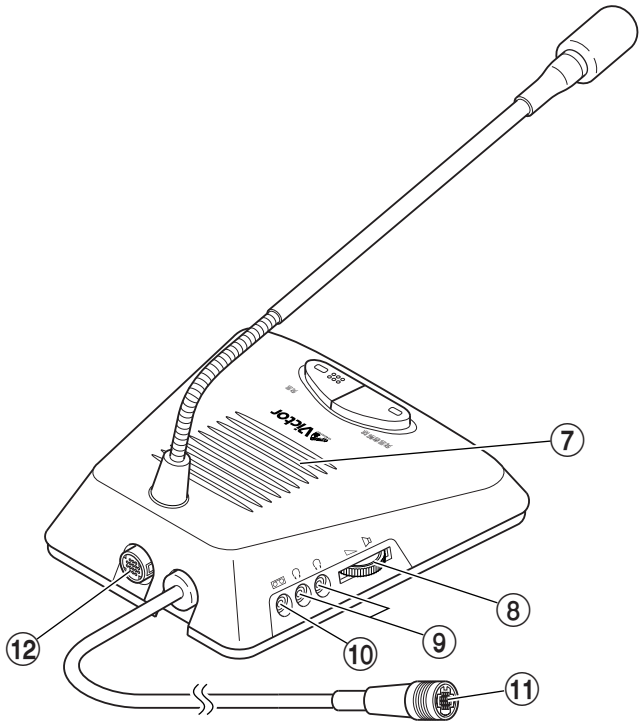
議長以外の発言を取り消すときに押します。(全てのメンバーターミナルユニット **PM-T11** のマイクを切ります。)

⑥ 発言者解除ランプ

発言者解除ボタンを押したときに約３秒間緑色に点灯します。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ メインパネル部



⑦ モニタースピーカー
発言者の声が聞こえます。
音量はモニターボリュームで調節できます。

⑧ モニターボリューム
モニタースピーカーの音量を調節します。
ヘッドホンを使用しているときは、ヘッドホンの音量を調節します。

⑨ ヘッドホン出力端子（適合負荷：8 Ω以上　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
ヘッドホンを接続します。

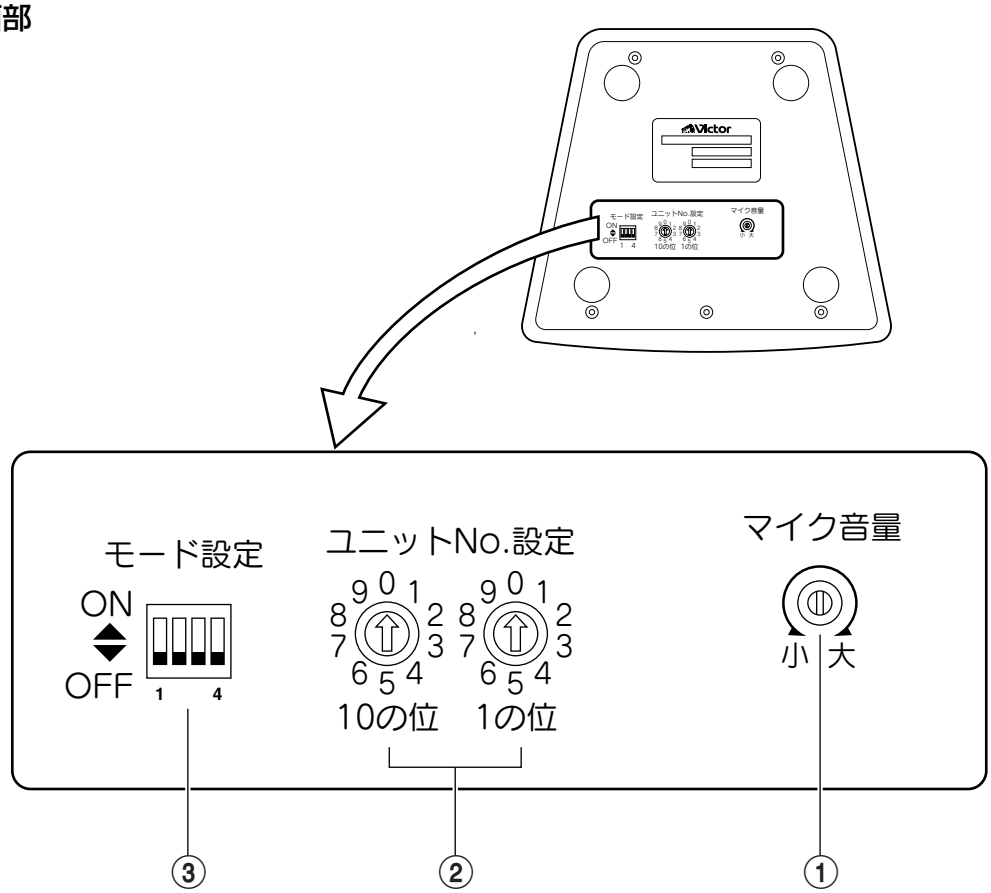
⑩ 録音出力端子（出力レベル：0dBs　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
会議内容を録音したいときに、カセットレコーダーや MD レコーダーなどの録音機器（入力ボリューム付）を接続します。

⑪ 会議ライン出力
デジタルコントロールユニット **PM-M110** の会議ライン入力、またはデジタルコントロールユニット **PM-M110** 側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン入力へ接続します。

⑫ 会議ライン入力
末端側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン出力を接続します。

1.4 マスターターミナルユニット PM-T10 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ ベース裏面部



① マイクボリューム

マイクの音量を調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用してください。

② ユニット No. 設定スイッチ

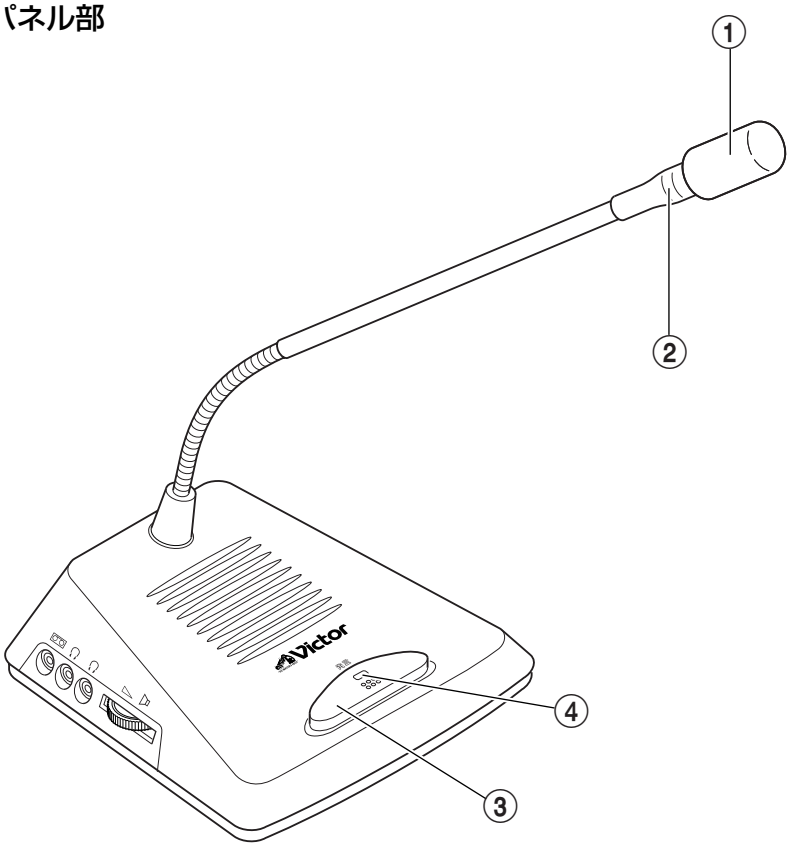
本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

③ モード設定スイッチ

本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき

■ マイク部、メインパネル部



① マイク

このマイクにむかって発言します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合、音声を感知して自動的にマイクが入ります。

② マイクリング

発言できるときに緑色に点灯します。

③ 発言ボタン

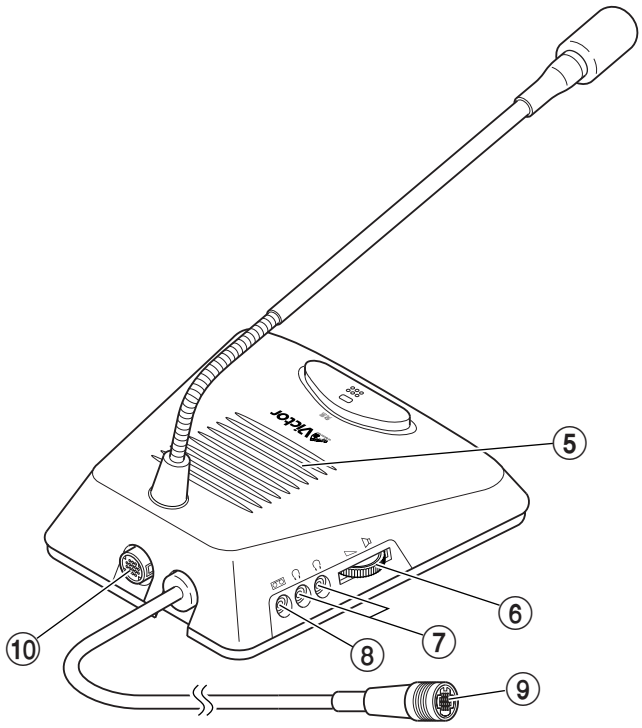
発言したいときに押します。
発言ランプ(緑)が点灯し、マイクが入ります。
発言ランプ(緑)が点灯中に押すと、マイクが切れ発言ランプ(緑)が消灯します。
マイク動作モードが“自動発言モード”の場合は使用しません。

④ 発言ランプ

発言できるときに緑色に点灯します。
同時発言者数の制限で発言できないときは、赤色が約 1 秒間点滅し消灯します。
発言申請時には赤色に点灯します。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ メインパネル部



⑤ モニタースピーカー
発言者の声が聞こえます。
音量はモニターボリュームで調節できます。

⑥ モニターボリューム
モニタースピーカーの音量を調節します。
ヘッドホンを使用しているときは、ヘッドホンの音量を調節します。

⑦ ヘッドホン出力端子（適合負荷：8 Ω以上　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
ヘッドホンを接続します。

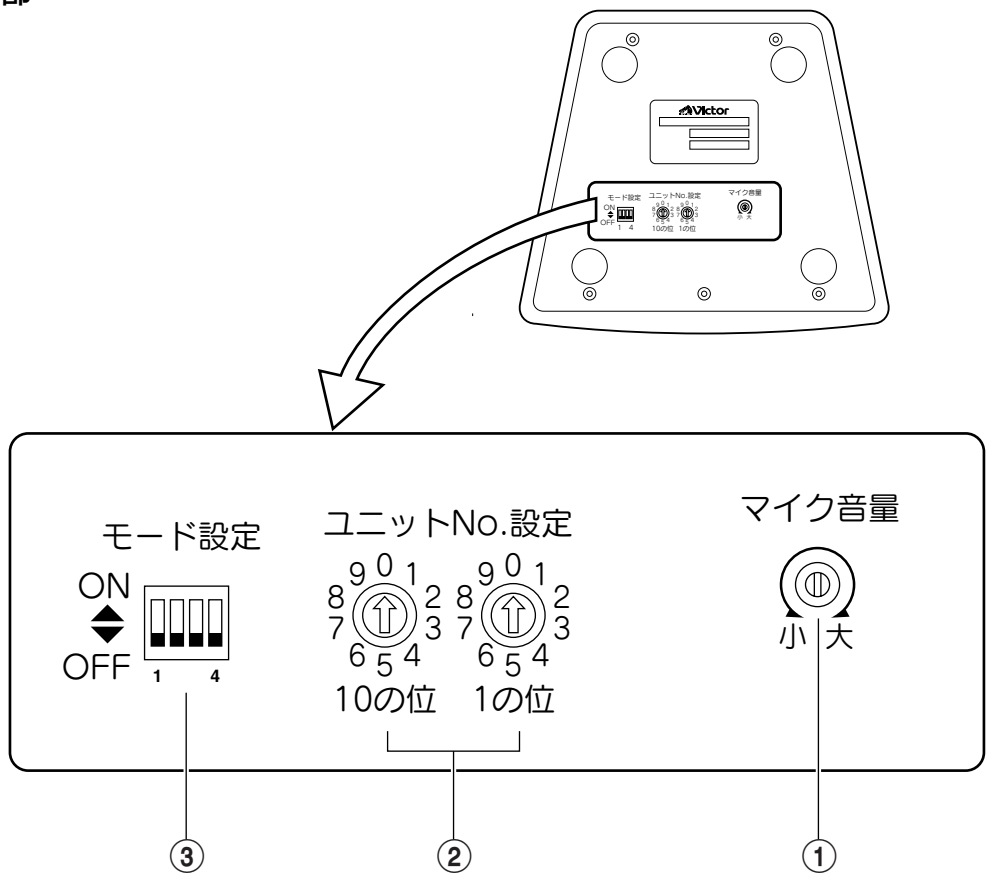
⑧ 録音出力端子（出力レベル：0dBs　適合プラグ：ステレオミニプラグ［Φ 3.5］）
会議内容を録音したいときに、カセットレコーダーや MD レコーダーなどの録音機器（入力ボリューム付）を接続します。

⑨ 会議ライン出力
デジタルコントロールユニット **PM-M110** の会議ライン入力、またはデジタルコントロールユニット **PM-M110** 側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン入力へ接続します。

⑩ 会議ライン入力
末端側のターミナルユニット **PM-T10/T11** の会議ライン出力を接続します。

1.5 メンバーターミナルユニット PM-T11 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ ベース裏面部



① マイクボリューム

マイクの音量を調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用してください。

② ユニット No. 設定スイッチ

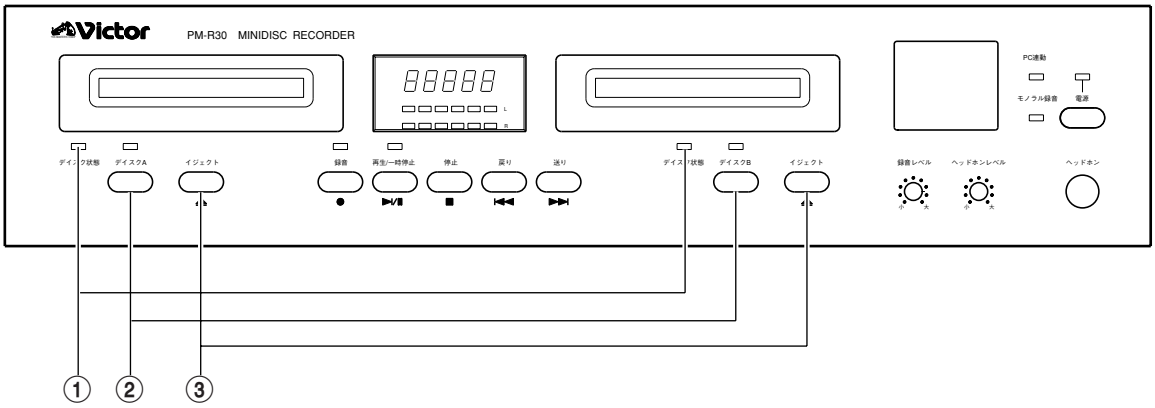
本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

③ モード設定スイッチ

本機の動作を設定するスイッチです。
誤動作の原因となりますので、操作しないでください。

1.6 MD レコーダー PM-R30 の各部のなまえとはたらき

■フロントパネル部



① ディスク状態ランプ

ディスクがないとき　・・消灯
録音可能なとき　・・・・緑色に点灯
録音不可能なとき　・・・赤色に点灯

> **ご注意**
> 録音はブランクディスクのみ使用可能です。ディスク状態表示ランプが緑から赤に変わるディスクは使用できません。
> 本機は議事録音用としての使用を考慮し、一部分でも録音されているディスクは記録できません。

② ディスクドライブ A，B 選択ボタンと表示ランプ（選択時緑点灯）

ディスク A または、B のボタンで操作するディスクドライブを選択します。

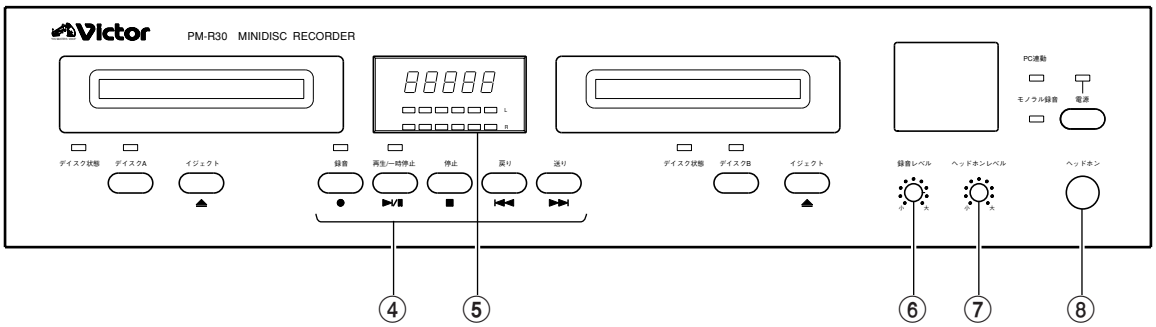
③ イジェクトボタン

ディスクをディスクドライブから取り出す時に押します。

> **ご注意**
> ディスクドライブが動作中は、ディスクの取り出しはできません。操作は停止中に行なってください。

1.6 MD レコーダー PM-R30 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■フロントパネル部



④ ディスクドライブ操作ボタン

(1)録音ボタン

録音を行なうときに再生／一時停止ボタンとともに押します。
録音時はボタンの上のランプが赤色に点灯します。

(2)再生／一時停止ボタン

MD の再生および録音開始と一時停止を行ないます。録音、再生時はボタンの上のランプが緑に点灯、一時停止時は点滅します。

(3)停止ボタン

録音や再生を停止するときに押します。

(4)戻しボタン

停止中、録音番号を選ぶときに押し、1 回押すごとに録音番号が 1 つずつ減少します。

(5)送りボタン

停止中、録音番号を選ぶときに押し、1 回押すごとに録音番号が 1 つずつ増加します。

⑤ レベルメーター L，R

録音入力レベルと再生時の音声出力レベルを表示します。
赤色のランプが 1 個点灯した状態が、最大入力レベルです。

⑥ 録音レベルボリューム

使用しません。操作画面(会議コントロールソフト)内で音量調節します。

⑦ ヘッドホンレベルボリューム

録音と再生のモニターができます。⑧のヘッドホン端子の出力レベルの調整を行います。

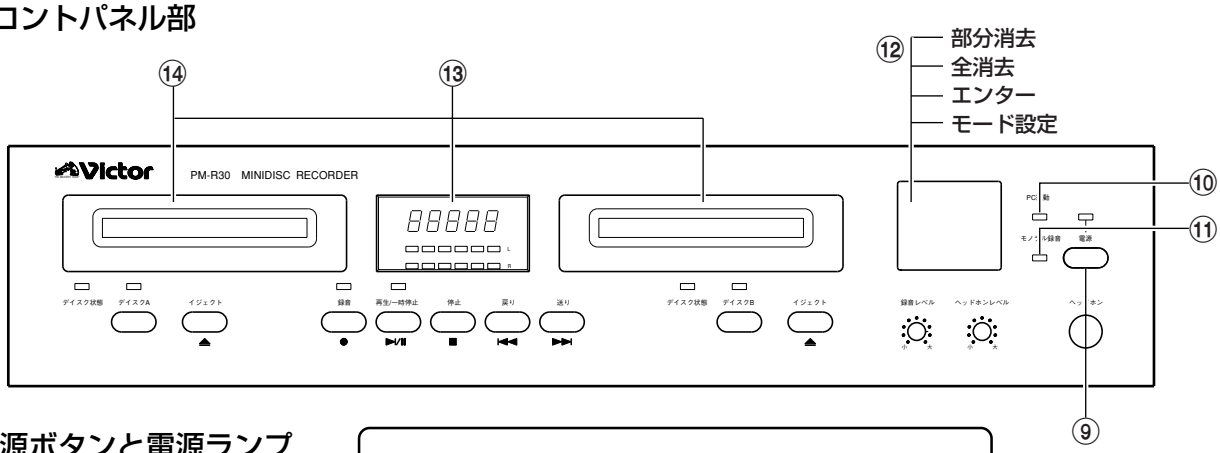
⑧ ヘッドホン端子(適合負荷：8 Ω以上 適合プラグ：ステレオ標準プラグ)

ヘッドホンを接続します。

> **ご注意**
> 大音量で耳を痛めないように、接続するときや電源を入れるときは⑦のヘッドホンレベルボリュームを下げてヘッドホンをつけない状態で行なってください。

1.6 MD レコーダー PM-R30 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■フロントパネル部



⑨ 電源ボタンと電源ランプ

電源を入／切するときに押します。
電源入..... 緑色点灯
電源切..... 赤色点灯

ご注意
・MD が動作中は電源を切ることができません。
必ず停止中に行なってください。
・記録したディスクが入っている場合は、必ず取り出したあとに電源を切ってください。

⑩PC 連動ランプ

会議中など、PC から制御されているときランプ(緑)が点灯します。

PC 連動動作時には手動操作はできません。停止時のディスク交換のみ可能です。

⑪ モノラル録音ランプ

モノラル録音(長時間モード)中に、ランプ(緑)が点灯します。

⑫ ポケット内操作ボタンとスイッチ

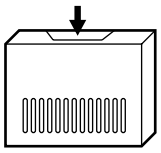
(1)部分消去ボタン
指定した録音番号の録音内容を消去するときに使用します。

(2)全消去ボタン
ディスクに録音されている内容を全て消去しブランクディスクにします。

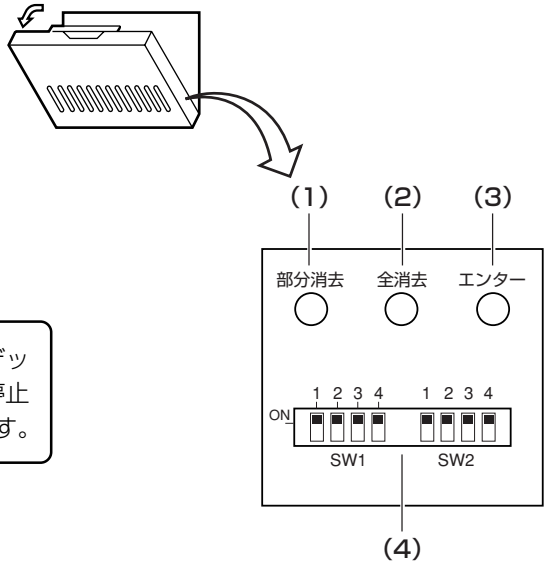
(3)エンターボタン
部分消去と全消去の実行ボタンです。

(4)モード設定スイッチ
操作しないでください。誤動作の原因となります。

ポケットカバーのはずしかた



ペン先でロック部を押しながら軽く手前に引いてください。
ロックがはずれます



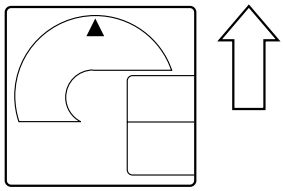
⑬ 録音残り時間／録音番号（インデックス No.）表示

録音時には録音残り時間、再生時には録音番号を表示します。

録音番号(インデックスNo.)の最大数は254です。255番目のインデックスが打たれると録音番号254(インデックスNo.254)のディスクは停止し、新しいディスクが録音番号1(インデックスNo.1)で録音開始します。

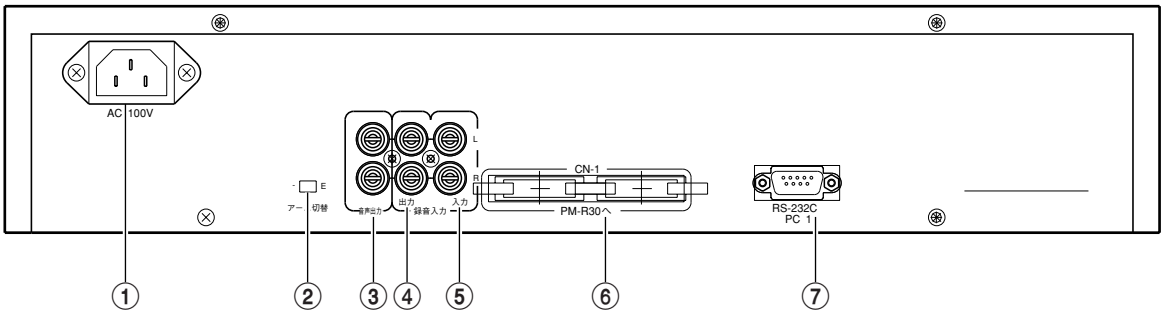
⑭ ディスク挿入口

図の方向にディスクを入れます。



1.6 MD レコーダー PM-R30 の各部のなまえとはたらき（つづき）

■ リアパネル部



①AC コネクター

MD レコーダー **PM-R30** の添付の電源ケーブルを接続します。必ず AC100V、50 ／ 60Hz 電源を使用してください。電源が入ると電源ランプが緑色に点灯し、電源入の状態になります。またディスクドライブにディスクが入っているときは自動的に排出されます。

② アース切換スイッチ

E 側でシャーシアース、ー側でフローティングになります。デジタルコントロールユニット **PM-M110** と組み合わせて使用する場合は全ての MD レコーダー **PM-R30** は、ー側（フローティング）にしてください。

③ 音声出力　L,R（-6dBs　100 Ω 不平衡）

録音時と再生時の音声を出力します。
（フルビット時 ＋ 4dBs）

④ 録音出力　L,R

録音入力の順送り出力です。次に接続される MD レコーダー **PM-R30** の録音入力に接続します。

⑤ 録音入力　L,R（-10dBs　5kΩ 不平衡）

デジタルコントロールユニット **PM-M110** の録音出力に接続します。

⑥CN-1

MDレコーダー**PM-R30**を2台以上使用する場合に本機に添付のケーブルでMDレコーダー**PM-R30**間を接続してください。

⑦PC コネクター

MD レコーダー **PM-R30** の No.1（マスター機）に設定したユニットからシステムコントロール用 PC の RS-232C 端子に接続します。

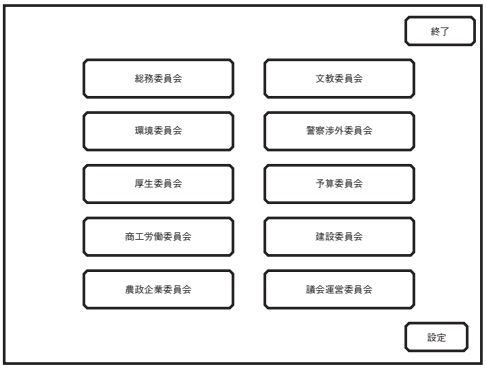
2. 操作画面について

2.1 操作手順の概要

① 電源を入れます。

システムコントロール用 PC の電源を入れると、会議コントロールソフトが起動し、**スタート画面**が表示されます。
（使いかた **2. デジタル会議システムの電源の入れかた**をご覧ください。）

スタート画面

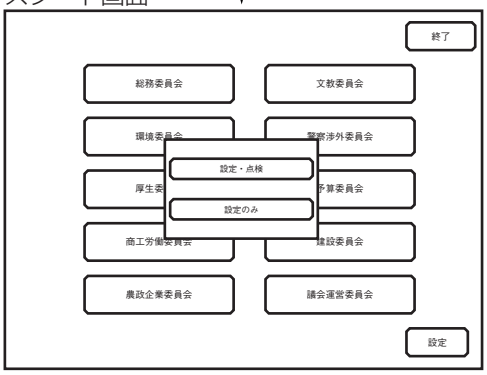


設定 を押します。

② 会議の準備を行います。

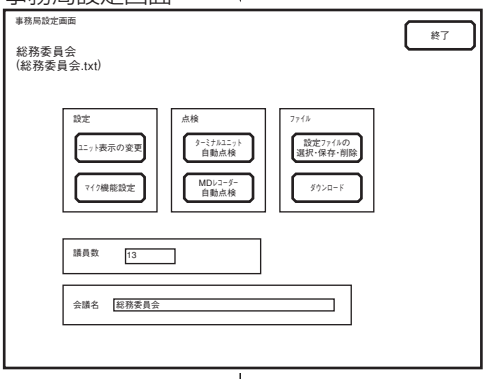
会議を始める前に、ターミナルユニット **PM-T10/T11** と MDレコーダー**PM-R30**の自動点検や表示名の変更などを行います。
（使いかた **3.1 会議の準備を行うには**をご覧ください）

スタート画面



設定・点検 を押します。

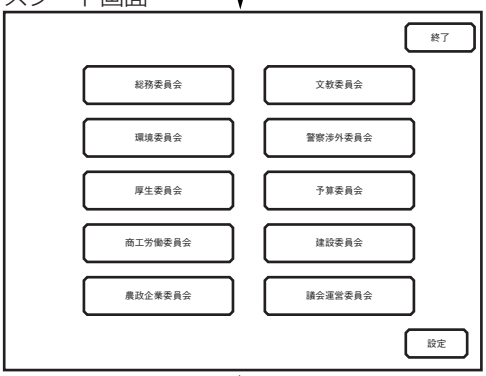
事務局設定画面



終了 を押します。

必要な設定や、点検が終了したら、**スタート画面**へ戻ります。

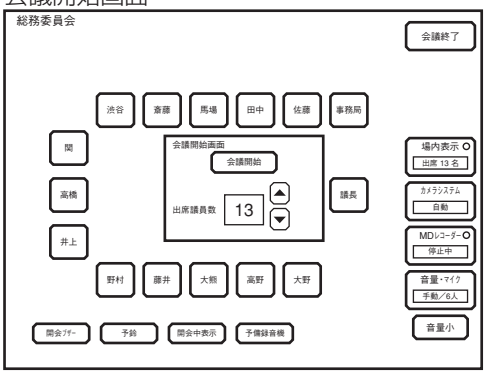
スタート画面



2.1 操作手順の概要（つづき）

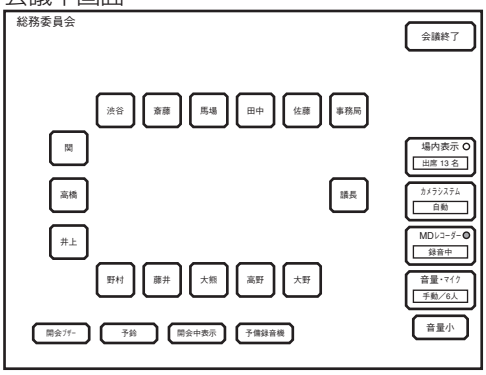
③ 会議を開始します。
（使いかた **3.2 会議を開始するには～3.10 休憩に入るには／再開するには**をご覧ください）

会議開始画面



会議開始 を押します。

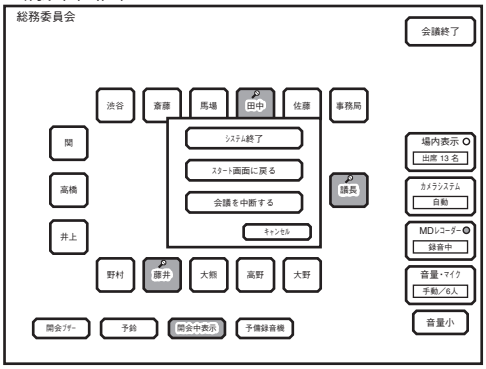
会議中画面



④ 会議を終了します。
（使いかた **3.11 閉会するには**をご覧ください）

会議終了 を押します。

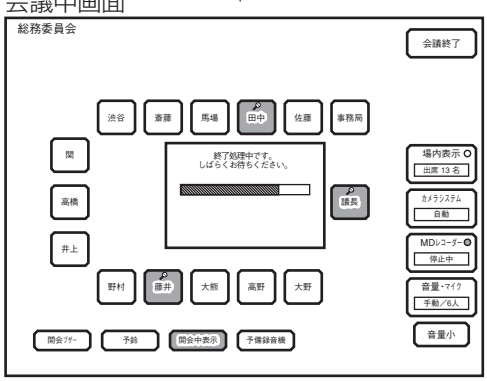
会議中画面



⑤ 電源を切ります。
会議コントロールソフトが終了し、PCの電源が切れます。

システム終了 を押します。

会議中画面

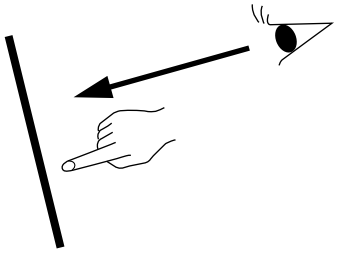


2.2 タッチパネルディスプレイについて

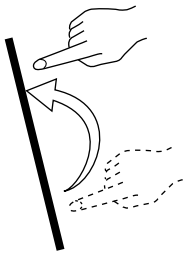
■ マルチコントロールモニター GM-T1700S について

● 操作のしかた

画面に表示されているボタンを直接指などで触れることにより選択して操作することができます。
操作するときには、できるだけ画面を正面から見て操作するようにしてください。斜めから見て操作すると正しくボタンを選択できなくなります。



光学式タッチパネルのため、連続してボタンを選択する場合には、必ず一度画面より指を離してから（1cm以上）つぎのボタンを選択するようにしてください。
また、同時にふたつの操作はできませんのでひとつずつボタンを操作するようにしてください。

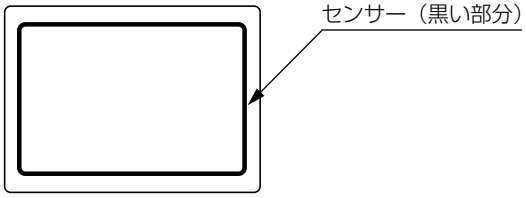


● 電源を入れるときのご注意

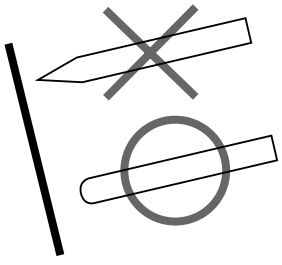
電源を入れるときには、メニュー画面が表示されるまでの間、画面に触れないように注意してください。画面周囲のセンサーを遮るものがあると、タッチパネルの初期設定が正しくできなくなります。

● 操作上のご注意

光学式タッチパネルのため、画面周囲のセンサーを遮るものがあると操作できなくなります。
センサー部分にペンなどのものを置いたり、本や紙などがセンサーに誤ってかからないようにご注意願います。



タッチパネルは、ボールペン等、先が細く尖ったものでは操作できません。指で直接操作しない場合も指先程度の太さのもので操作してください。
先端が尖ったものや堅いもので操作すると画面の表面に傷がつくおそれがありますのでご注意ください。

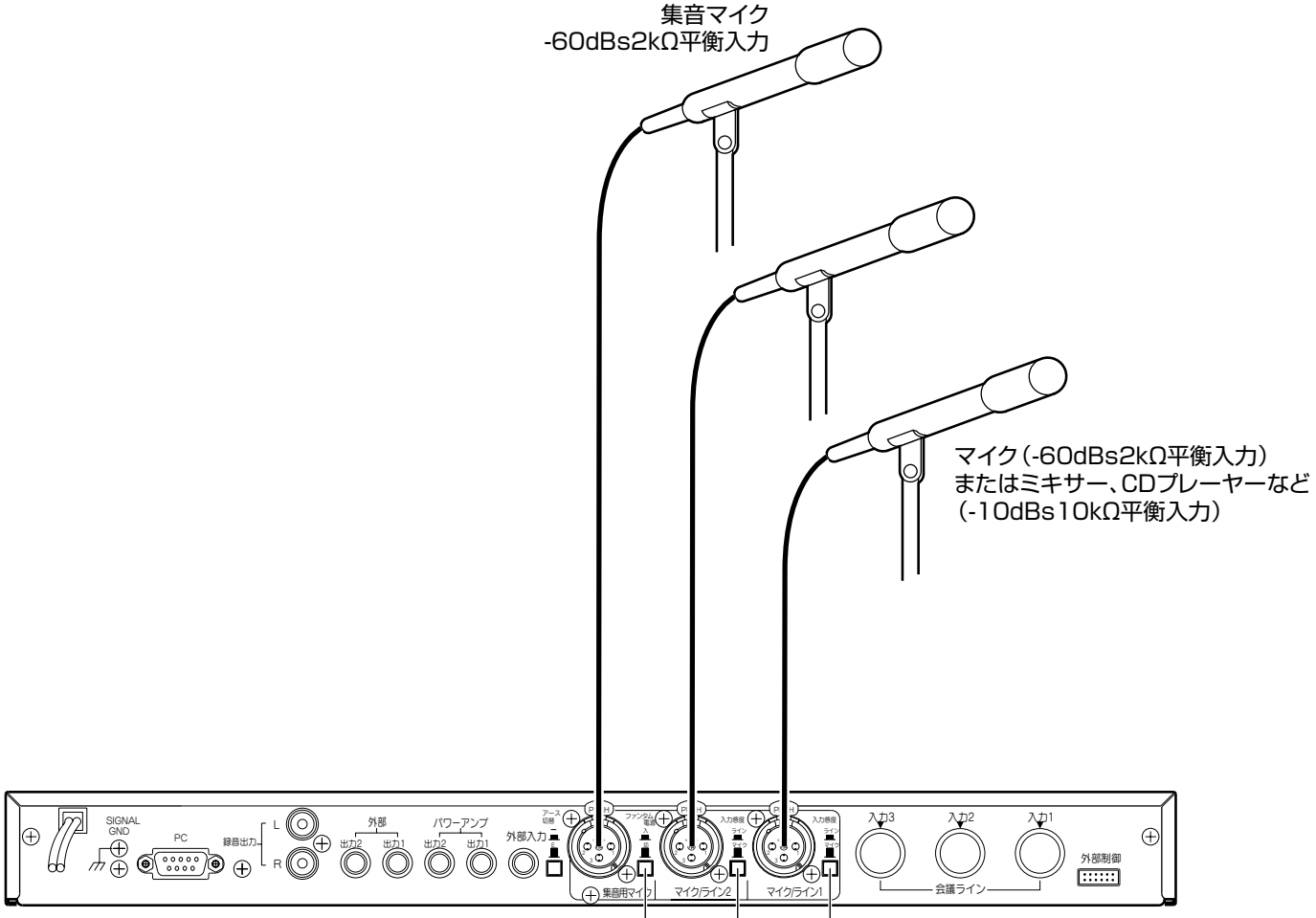


使いかた

1. デジタル会議システムの接続のしかた

1.1 デジタルコントロールユニットPM-M110の接続

接続は必ず電源を切った状態で行なってください。
機器の故障や誤動作の原因になることがあります。



マイク／ライン切換スイッチ
マイク／ライン入力1,2に接続する機器により適合レベルを選択します。

マイク
：–60dBs入力

ライン
：–10dBs入力

ファンタム電源スイッチ
集音用マイクのH.C端子にファンタム電圧（DC12V）が加わります。コンデンサマイク等のファンタム電源供給用のマイクを使用する際は、入にします。

切
：ファンタム電源　切

入
：ファンタム電源　入

⚠注意	ファンタム電源スイッチの入 / 切は、必ず本機（デジタルコントロールユニット **PM-M110**）の電源を切った状態で行なってください。 スピーカーやパワーアンプ の破損の原因になることがあります。

1.2 ターミナルユニットPM-T10/T11の接続

接続は必ず電源を切った状態で行なってください。
機器の故障や誤動作の原因になることがあります。

■ ターミナルユニットPM-T10/T11の設置

必ずターミナルユニット接続シートに基づいて、設置してください。
なお、議長の場合、マスターターミナルユニット**PM-T10**を設置し、参加者の場合、メンバーターミナルユニット**PM-T11**を設置します。

会議ライン1

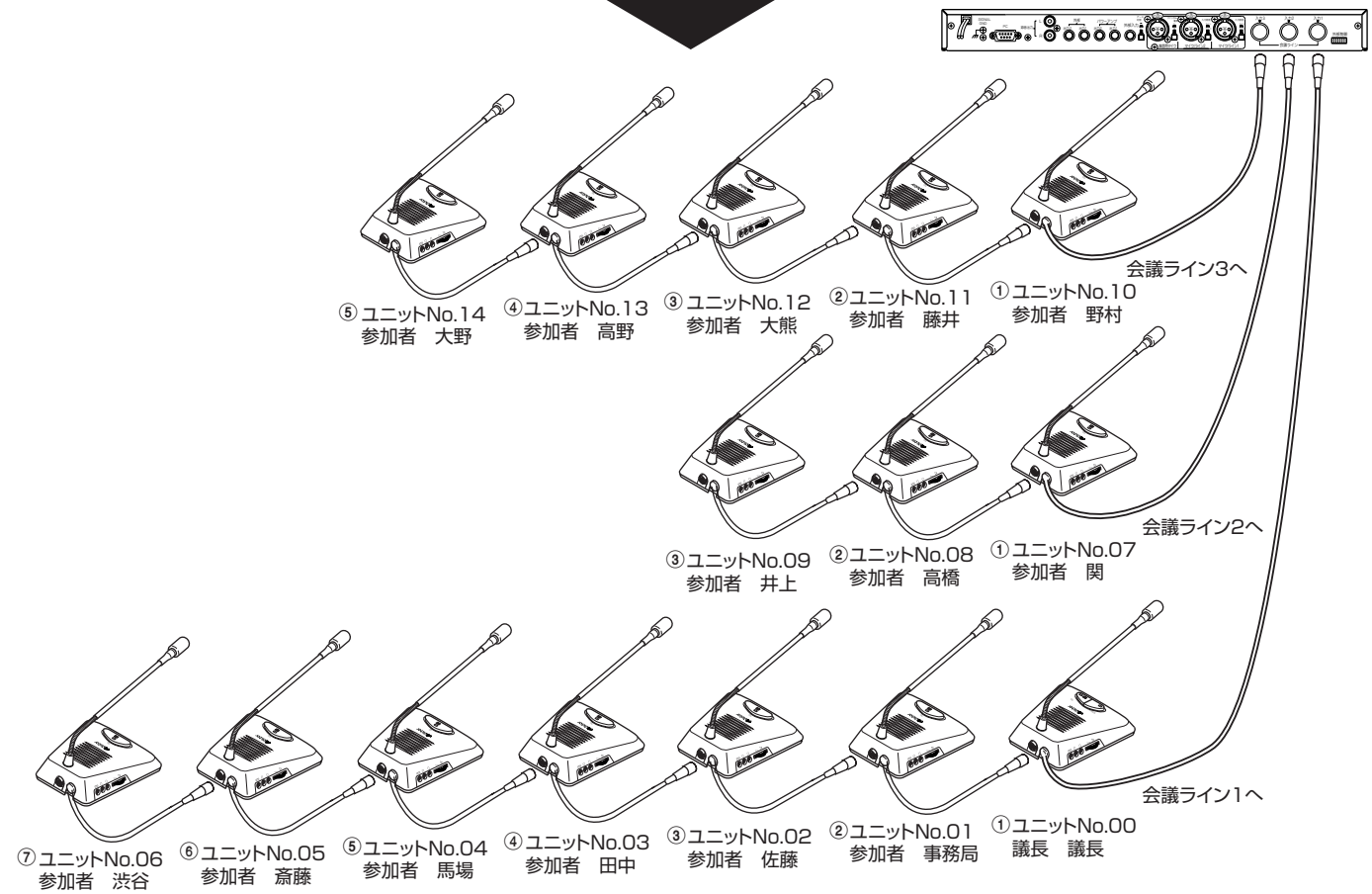
	ユニット	表示名	議長	参加者
①	No.00	議長	○	
②	No.01	事務局		○
③	No.02	佐藤		○
④	No.03	田中		○
⑤	No.04	馬場		○
⑥	No.05	斎藤		○
⑦	No.06	渋谷		○
⑧	No.			

会議ライン2

	ユニット	表示名	議長	参加者
①	No.07	関		○
②	No.08	高橋		○
③	No.09	井上		○
④	No.			
⑤	No.			
⑥	No.			
⑦	No.			
⑧				

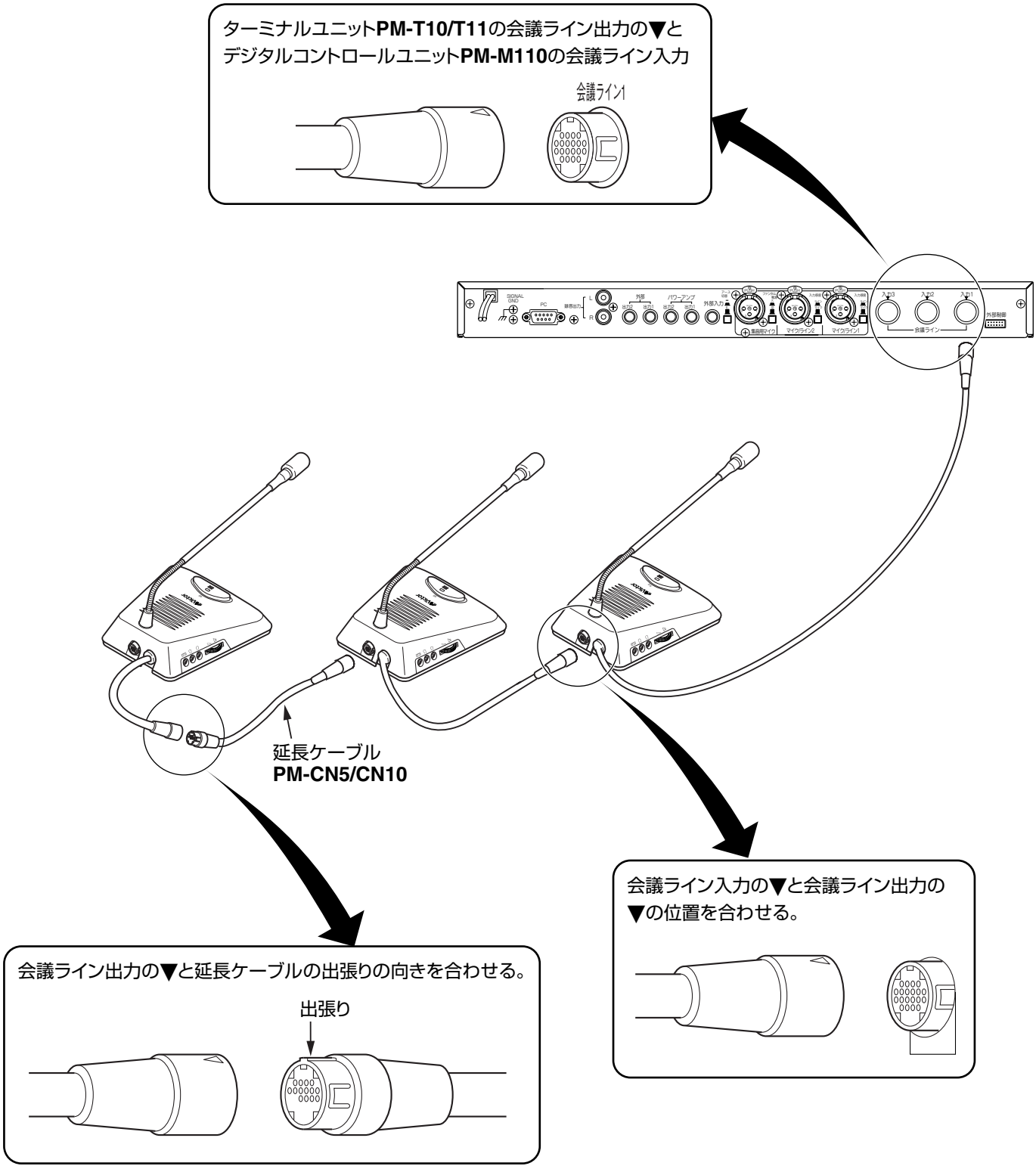
会議

①
②
③
④
⑤
⑥
⑦
⑧



1.2 ターミナルユニットPM-T10/T11 の接続（つづき）

■ 接続上の注意

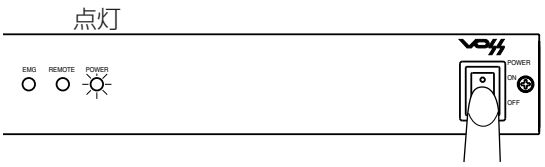


2. デジタル会議システムの電源の入れかた

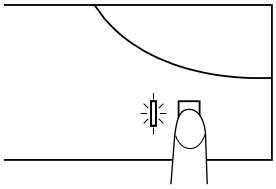
2.1 デジタル会議システムの電源の入れかた

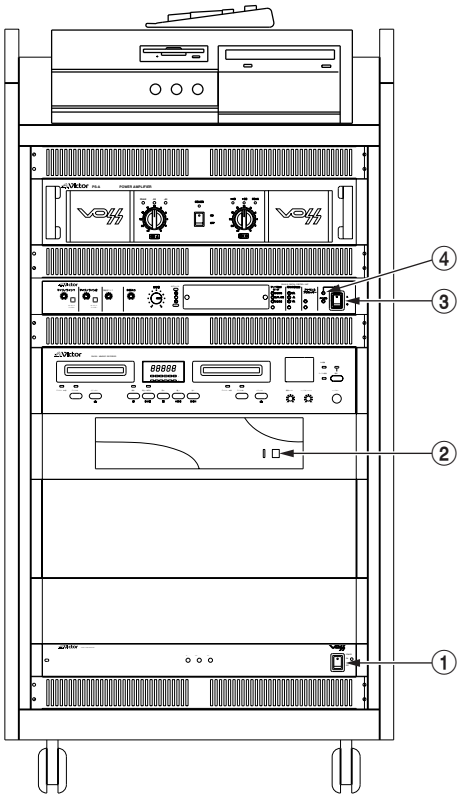
システムの機器構成や接続方法によって、電源の入れかたが異なる場合があります。
お買い上げ販売店とご相談のうえ取り扱ってください。

① パワーコントローラー **PS-P32-B** の電源を入れます。

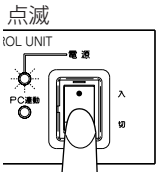


② 無停電電源装置（**UPS**）の電源を入れます。

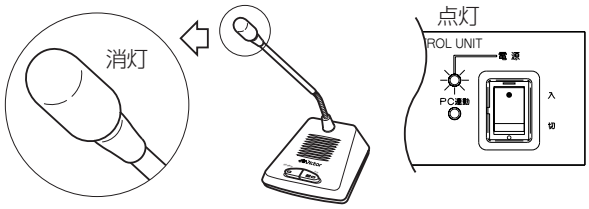




③ デジタルコントロールユニット**PM-M110**の電源スイッチを**入**にします。
デジタルコントロールユニット **PM-M110**、ターミナルユニット **PM-T10/T11** などの電源が入ります。



④ デジタルコントロールユニット**PM-M110**の電源ランプが点滅から点灯に変わり、接続されているすべてのターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクリングが点滅から消灯に変わる。

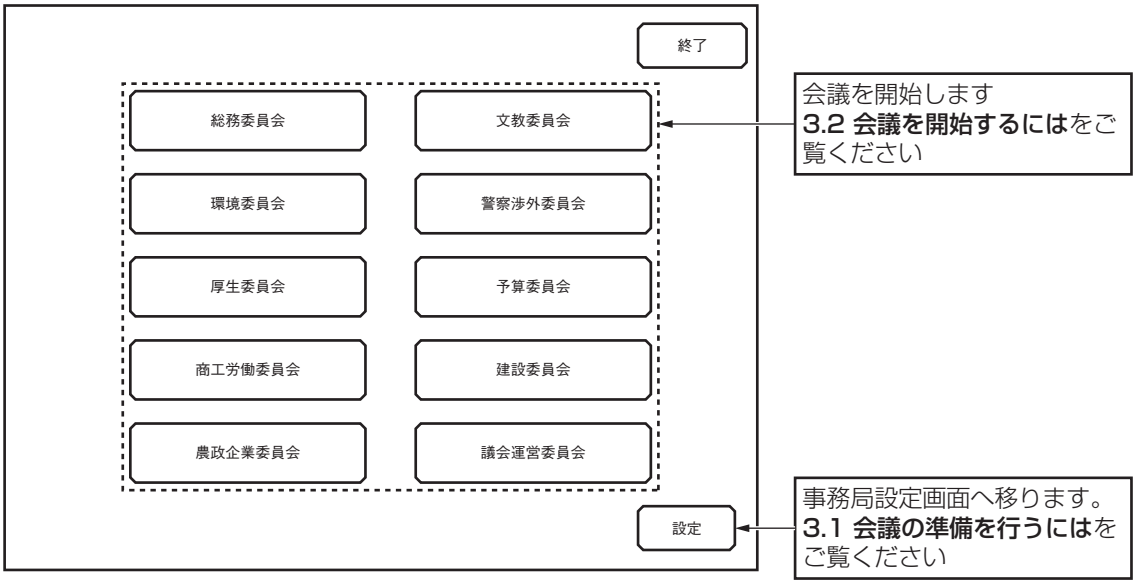


⑤ システムコントロール用 PC、パワーアンプなどの電源を入れます。

2.2 操作画面（会議コントロールソフト）を起動する

システムコントロール用ＰＣの電源を入れると、操作画面（会議コントロールソフト）が起動し、**スタート画面**が表示されます。

スタート画面



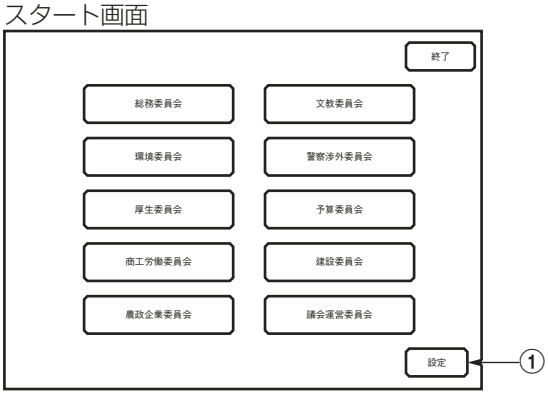
3. 操作画面(会議コントロールソフト)の使いかた

3.1 会議の準備を行うには

システムコントロール用ＰＣの電源を入れると、スタート画面が表示されます。

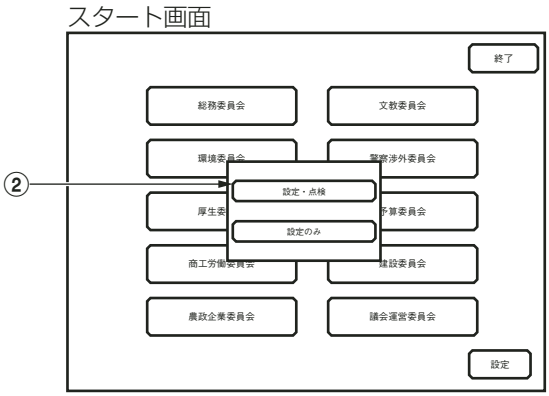
① **設定** を押します。

スタート画面

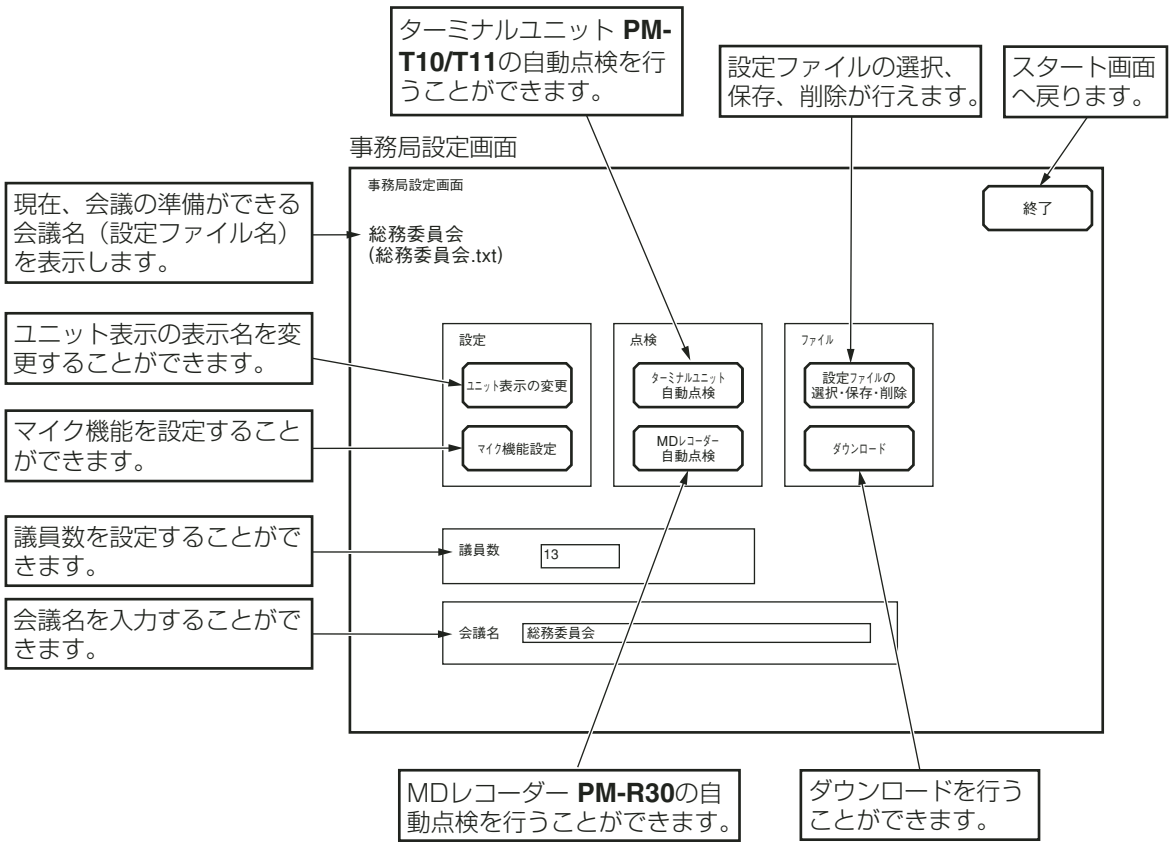


② **設定・点検** と **設定のみ** を選択する ダイアログが表示されます。
設定・点検 を押します。

スタート画面



③ **事務局設定画面**が表示されます。
この画面では、次のようなことができます。

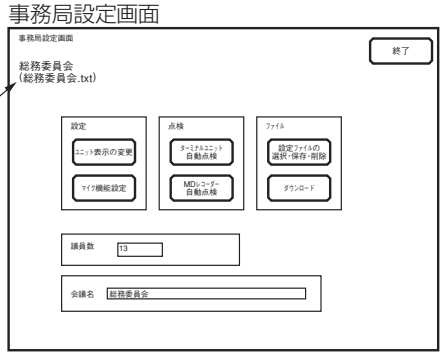


3.1 会議の準備を行うには（つづき）

複数の会議選択ボタンがある場合

準備をしたい会議名(設定ファイル名)と**事務局設定画面**の会議名(設定ファイル名)が異なっている場合は、次のような設定ファイルの選択が必要です。

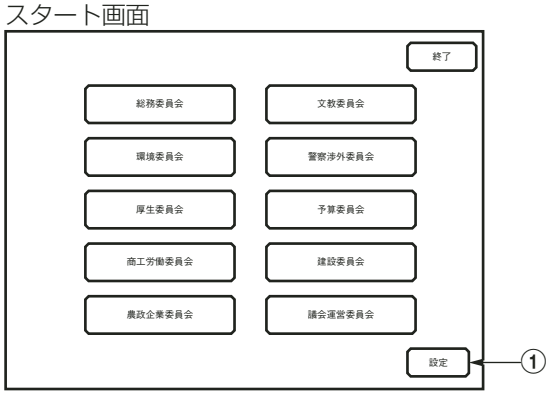
事務局設定画面



現在、準備ができる会議名を表示します

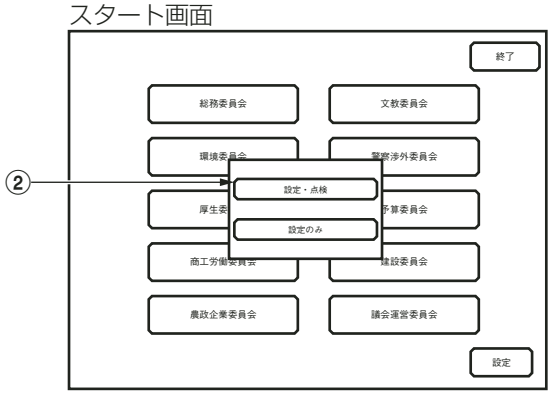
① **設定** を押します。

スタート画面



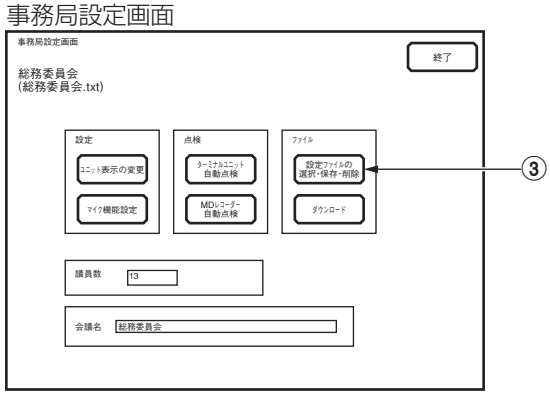
② **設定・点検** と **設定** のみを選択するダイアログが表示されます。
設定・点検 を押します。

スタート画面



③ **事務局設定画面**が表示されます。
設定ファイルの選択・保存・削除 を押します。

事務局設定画面



3.1 会議の準備を行うには（つづき）

④ **設定ファイルの選択・保存・削除画面**が表示されます。
設定ファイルを選択し、選択 を押します。

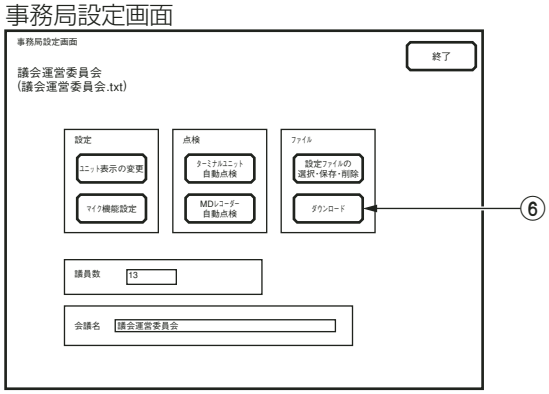
設定ファイルの選択・保存・削除画面

⑤ 終了 を押します。

設定ファイルの選択・保存・削除画面

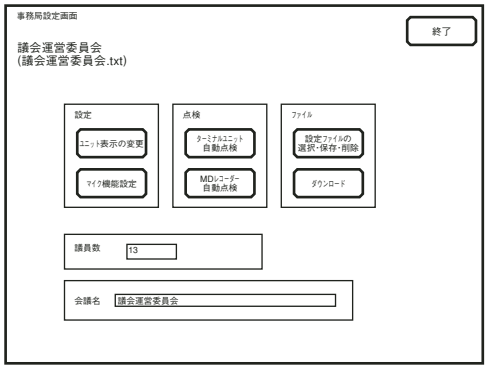
⑥ **事務局設定画面**が表示されます。
ダウンロード を押します。

事務局設定画面



⑦ 以上で、設定ファイルの選択が終了しました。

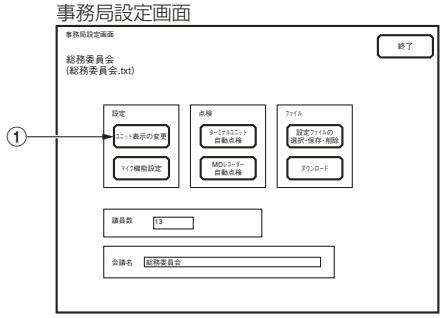
事務局設定画面



3.1.1 マイク動作モードおよびマイク動作の設定値を変更するには

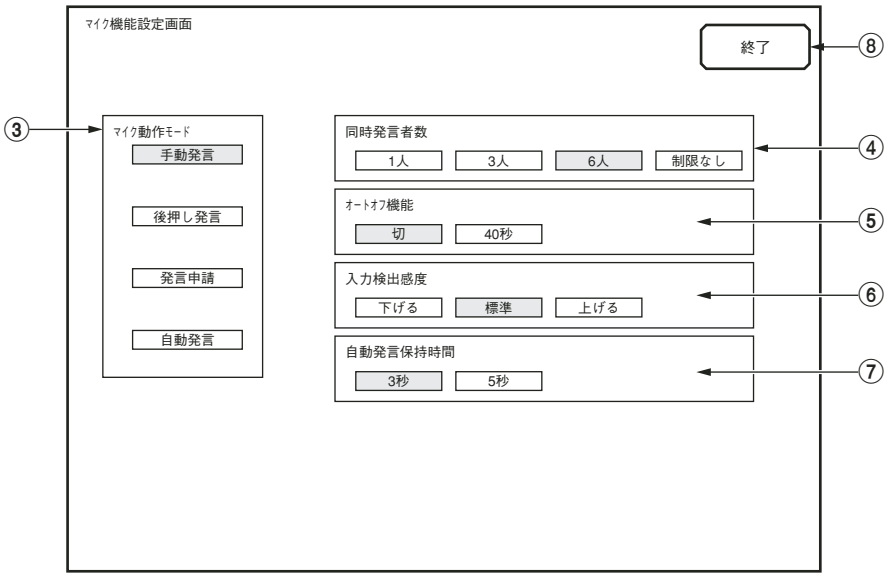
① マイク機能設定 を押します。

事務局設定画面



② **マイク機能設定画面**が表示されます。

マイク機能設定画面



③ マイク動作モードを選択します。
手動発言モード、後押し発言モード、発言申請モード、自動発言モード、から選択します。

④ 同時発言者数を設定します。
同時にマイクを入れることができるメンバーターミナルユニット **PM-T11** の台数を選択します。
必要最低限の数に設定したほうが発言が聞きとりやすくなります
手動発言モード　：1人、3人、6人、制限なし、 から選択します。
後押し発言モード：1人、3人、6人、から選択します。
発言申請モード　：1人、3人、6人、制限なし 、から選択します。
自動発言モード　：同時発言者数の選択はできません。制限なし に設定されています。

⑤ オートオフ機能を設定します。
手動発言モード、後押し発言モード、発言申請モードにおいて、音声が切れてから約40秒後に自動的にマイクを切る機能です。マイクの切り忘れを防止します。自動発言モードでは、設定できません。

⑥ 入力検出感度 を設定します。
自動発言モードでは、ここで設定した検出感度で音声を検出し、自動的にマイクが入ります。手動発言モード、後押し発言モード、発言申請モードでは、ここで設定した感度で音声を検出しオートオフ機能を動作させます。

⑦ 自動発言保持時間 を設定します。
自動発言モード時に、音声が切れてからマイクが切れるまでの時間を選択します。
手動発言モード、後押し発言モード、発言申請モードでは、選択できません。

⑧ 設定が終了したら、終了 を押します。
マイク機能の設定を終了し、**事務局設定画面**へ移ります。

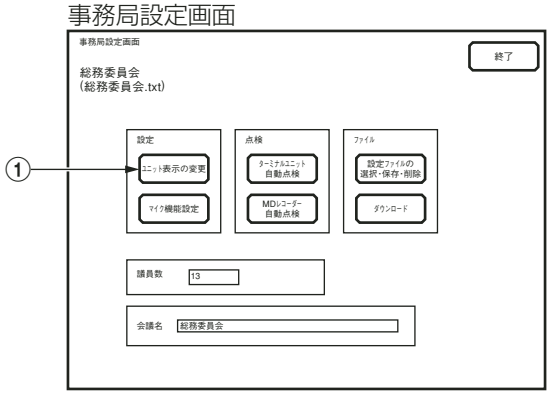
⑨ 設定値を保存するために、設定ファイルを保存します。
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うにはの■**設定ファイルの保存のしかた**をご覧ください。

⑩ 連動機器に記憶している設定値を変更するため、設定値のダウンロードを行います。
3.1.8 設定値のダウンロードをご覧ください。

3.1.2 議長名、参加者名を変更するには

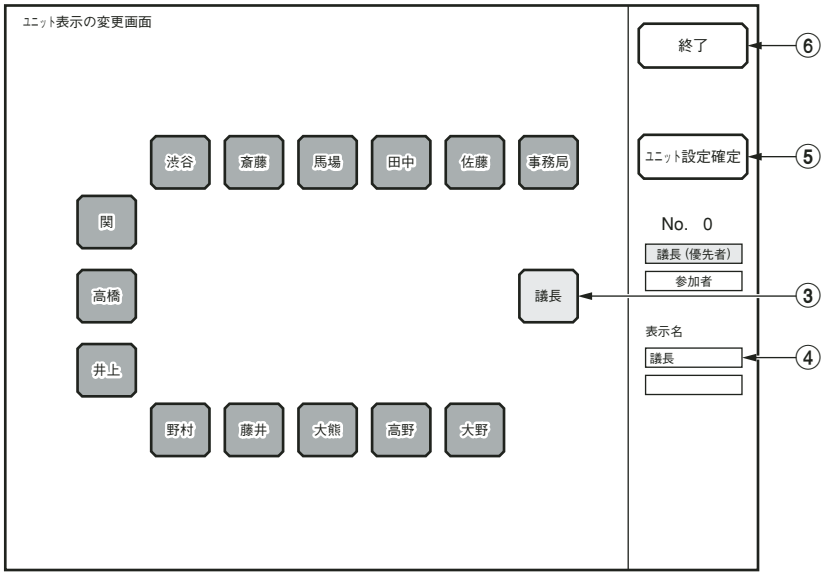
① ユニット表示の変更 を押します。

事務局設定画面



② **ユニット表示の変更画面**が表示されます。

ユニット表示の変更画面



③ 変更するユニット表示を押します。

④ 表示名を入力します。

⑤ ユニット設定確定 を押します。
変更した表示が記憶されます。

⑥ 設定が終了したら 終了 を押します。
ユニット表示の変更を終了し、**事務局設定画面**へ移ります。

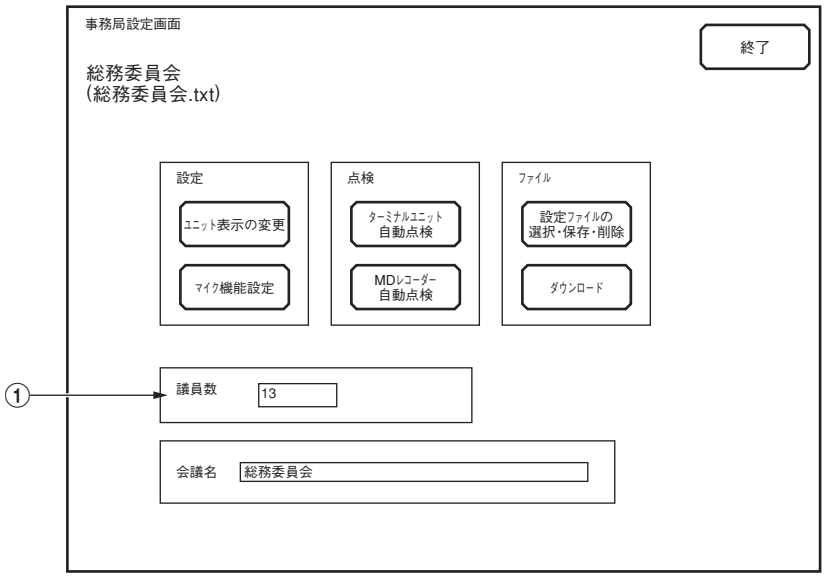
⑦ 設定値を保存するために、設定ファイルを保存します。
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うにはの**■設定ファイルの保存のしかた**をご覧ください。

⑧ 連動機器に記憶している設定値を変更するため、設定値のダウンロードを行います。
3.1.8 設定値のダウンロードをご覧ください。

3.1.3 議員数を変更するには

場内表示装置に表示される出席議員数の初期値を設定します。
場内表示装置を使用しない場合、設定する必要はありません。

事務局設定画面



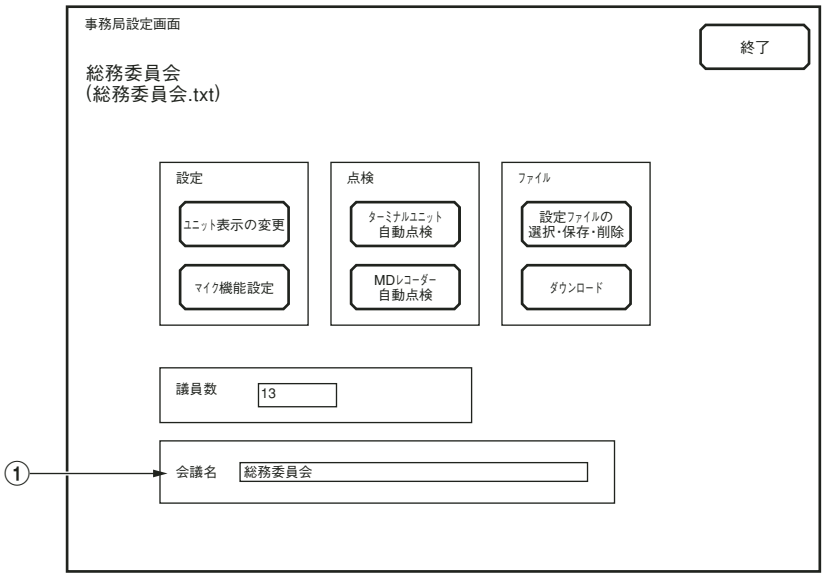
① 議員数を入力します。

② 設定値を保存するために、設定ファイルを保存します。
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うにはの**■設定ファイルの保存のしかた**をご覧ください。

③ 連動機器に記憶している設定値を変更するため、設定値のダウンロードを行います。
3.1.8 設定値のダウンロードをご覧ください。

3.1.4 会議名を変更するには

事務局設定画面



① 会議名 を入力します。全角 16 文字まで入力できます。
会議選択ボタンと操作画面の左上に表示される会議名が変更されます。

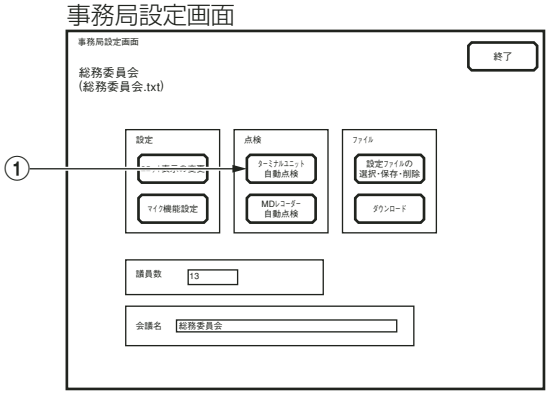
② 設定値を保存するために、設定ファイルを保存します。
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うにはの**■設定ファイルの保存のしかた**をご覧ください。

③ 連動機器に記憶している設定値を変更するため、設定値のダウンロードを行います。
3.1.8 設定値のダウンロードをご覧ください。

3.1.5 ターミナルユニットPM-T10/T11の自動点検

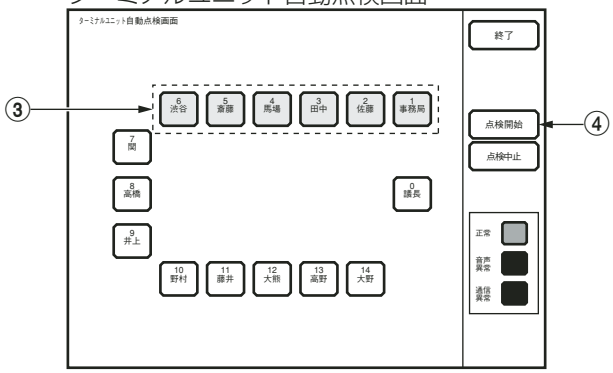
① **ターミナルユニット自動点検** を押します。

事務局設定画面



② **ターミナルユニット自動点検画面**が表示されます。

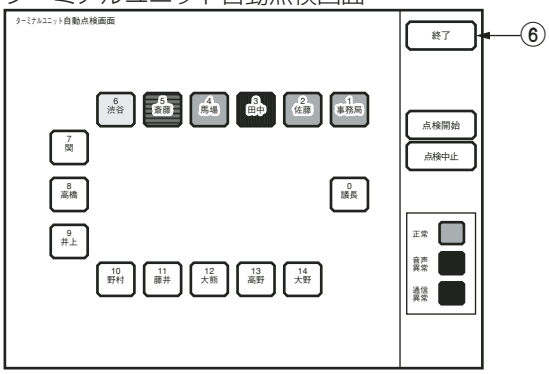
ターミナルユニット自動点検画面



③ 特定のターミナルユニット**PM-T10/T11**の自動点検を行う場合には、点検するユニット表示を押し、黄色にします。
すべてのターミナルユニット**PM-T10/T11**の自動点検を行う場合には、なにも押す必要はありません。

④ **点検開始** を押すと、自動点検を開始します。
複数のターミナルユニット**PM-T10/T11**の自動点検を行う場合は、ユニットNo.順に行われます。

ターミナルユニット自動点検画面



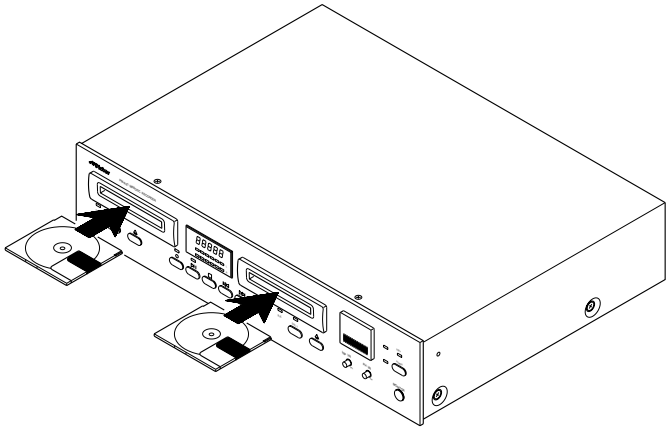
⑤ 点検結果 を表示します。
正常のターミナルユニット**PM-T10/T11**は緑色、音声異常の場合は橙色、通信異常の場合は赤色になります。
点検中のターミナルユニット**PM-T10/T11**は青色で表示されます。

⑥ **終了** を押します。
ターミナルユニット自動点検画面を終了し、事務局設定画面へ戻ります。

3.1.6 MD レコーダー PM-R30 の準備と自動点検

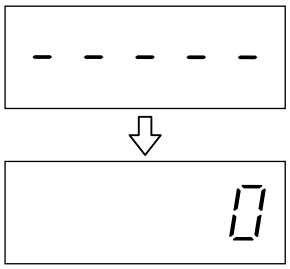
■ MD レコーダー PM-R30 の準備

① すべての MD レコーダー **PM-R30** のディスクドライブ A, B にブランクディスクを入れます。



ディスクの矢印のある面を上にしてその矢印の方向に差し込みます。
ディスクは自動的に中に引き込まれます。

② ブランクディスクをいれたら次の表示を確認してください。



点滅（点滅中に TOC を読んでいます。数秒かかります）

点滅が終了するとブランクディスクでは録音番号 0 が表示されます

ディスク A ボタンまたはディスク B ボタンを押してディスク A, B とも録音番号が 0 であることを確認してください

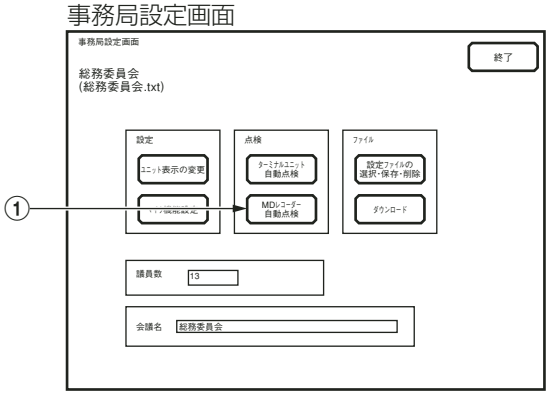
すべての MD レコーダーのディスクドライブ A, B が TOC を読み終わり録音番号が 0 になっていることを確認してから自動点検の操作を行なってください。

3.1.6 MD レコーダー PM-R30 の準備と自動点検（つづき）

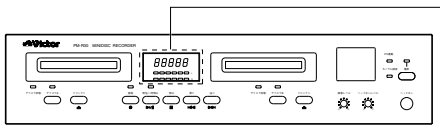
■ MD レコーダー PM-R30 の自動点検を行う

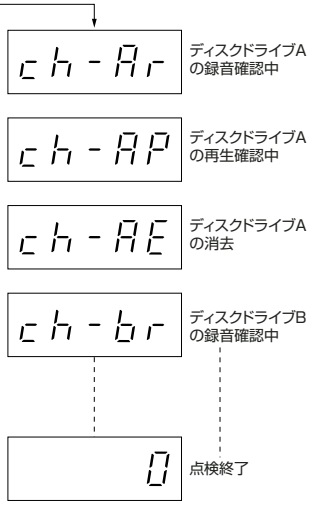
① MDレコーダー自動点検 を押します。
MD レコーダー自動点検画面が表示されます。

事務局設定画面

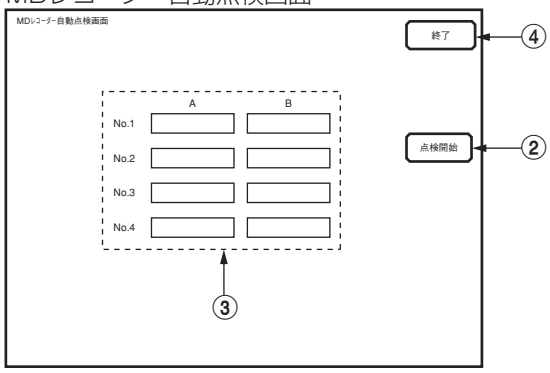


② 点検開始 を押します。
＊ 途中で点検を中止する場合は、点検中止 を押してください。





MDレコーダー自動点検画面



③ 点検結果を表示します。
表示内容は次のとおりです。（接続台数に関係なく No.4 まで表示します）

正常	正常に動作しています。
接続なし	接続されていません。 またはMDレコーダーがスタンバイ状態になっています。 MDレコーダーの電源ランプが緑色になっているか確認してください。
ブランクディスクなし	ディスクが挿入されていないか、すでに記録されたディスクが挿入されています。 ブランクディスクを挿入してください。
再生異常	MDレコーダーの再生動作に異常があります。 他のブランクディスクに交換してください。
録音異常	MDレコーダーの録音動作に異常があります。 他のブランクディスクに交換してください。

ディスクを交換しても、再生異常、録音異常が再度表示される場合は、お買い上げ販売店、または、
ビクターサービス窓口にご相談ください。

④ 終了 を押します。
事務局設定画面へ戻ります。

3.1.6MD レコーダー PM-R30 の準備と自動点検（つづき）

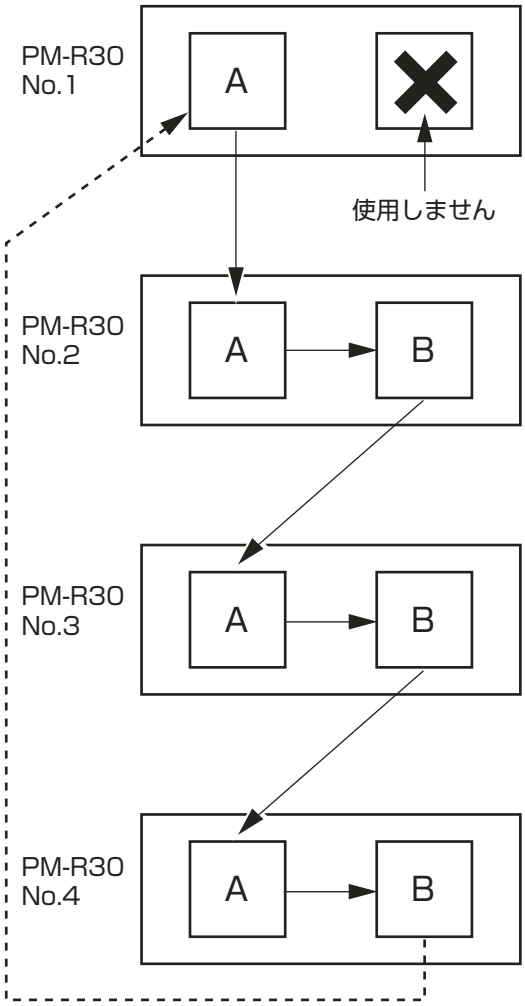
■ MD レコーダーの異常

万一、自動点検で異常が発生し、ディスク交換でも修復できないときや PC 連動音中に復旧できないエラーが発生しても、正常な側のディスクドライブまたは、正常なレコーダーを自動的に選んで録音します。

● エラー発生時の録音の順序

（例1）

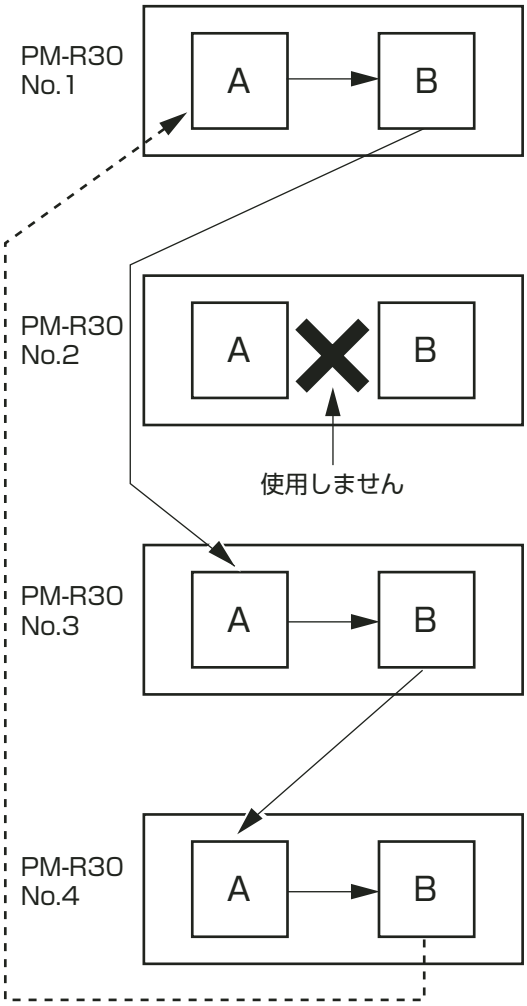
PM-R30 No.1のディスクドライブBに
エラー発生



No.4のBまで終了するとすでにディスク交換されているディスクドライブへ続けて録音します。
ディスクが交換されていない場合は、No.4のBで停止します。

（例2）

PM-R30 No.2に
エラー発生



No.4のBまで終了するとすでにディスク交換されているディスクドライブへ続けて録音します。

3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うには

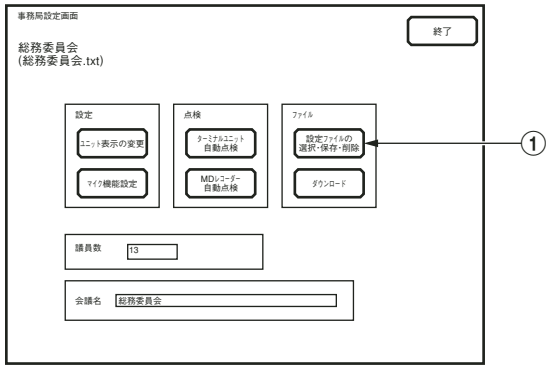
設定・点検画面で設定したデータは、設定ファイルとして、記憶したり、読み込んだりすることができます。

設定値を保存するとき	→■保存のしかた
保存されている設定ファイルを選択し、 　点検・確認や設定値の変更を行うとき	→■選択のしかた
保存されている設定ファイルを削除するとき	→■削除のしかた
スタート画面に表示する会議選択ボタンを追加・削除するとき	→■スタート画面の会議選択ボタンについて

■ 保存のしかた

① **設定ファイルの選択・保存・削除** を押します。

事務局設定画面

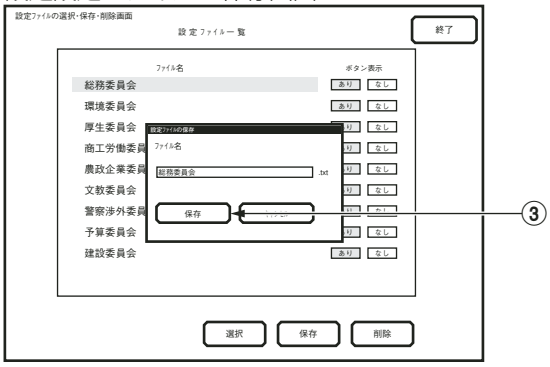


② **設定ファイルの選択・保存・削除画面**が表示されます。
保存 を押します。

設定ファイルの選択･保存･削除画面

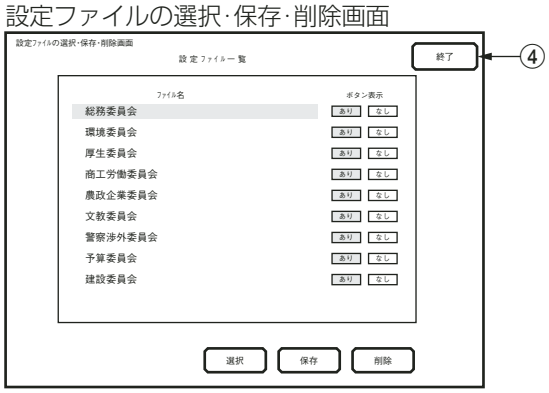
③ ファイル名を入力するダイアログが表示されます。
ファイル名を入力し、**保存** を押します。

設定設定ファイルの保存画面



④ 保存したファイル名が表示されたら **終了** を押します。

設定ファイルの選択･保存･削除画面

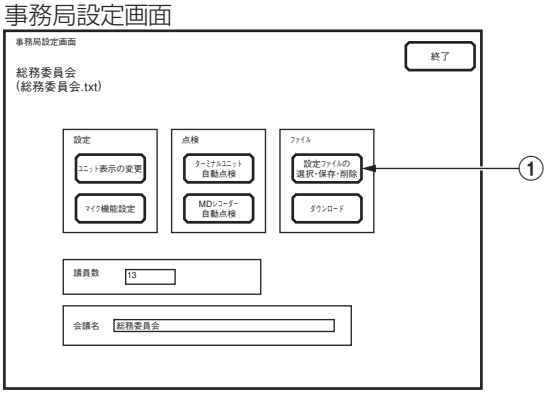


3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うには （つづき）

■ 選択のしかた

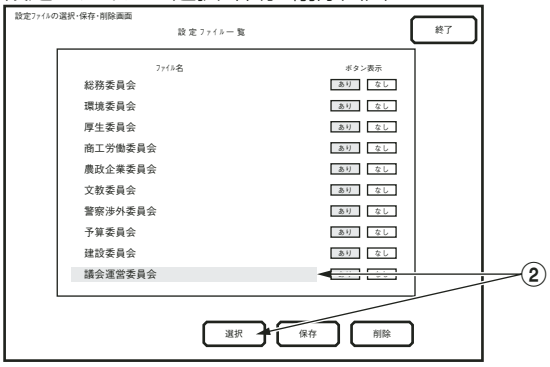
① 設定ファイルの選択・保存・削除 を押します。

事務局設定画面



② **設定ファイルの選択・保存・削除画面**が表示されます。
ファイル名を選択し、選択 を押します。

設定ファイルの選択･保存･削除画面



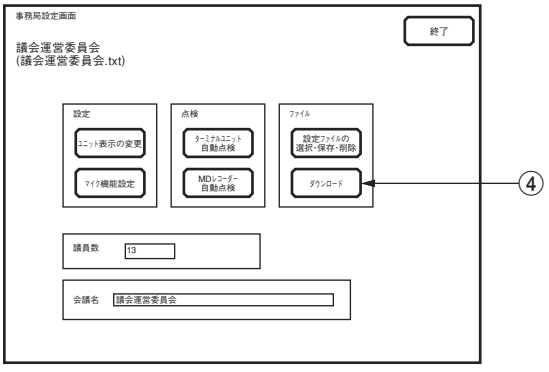
③ 選択されたファイルの設定値が、会議コントロールソフトに読み込まれます。終了 をします。

設定ファイルの選択･保存･削除画面

④ ダウンロード を押します。
会議コントロールソフトに読み込まれた設定値 を、デジタルコントロールユニット **PM-M110** へ送信します。

この操作により、設定値の変更や点検･確認ができるようになります。

事務局設定画面

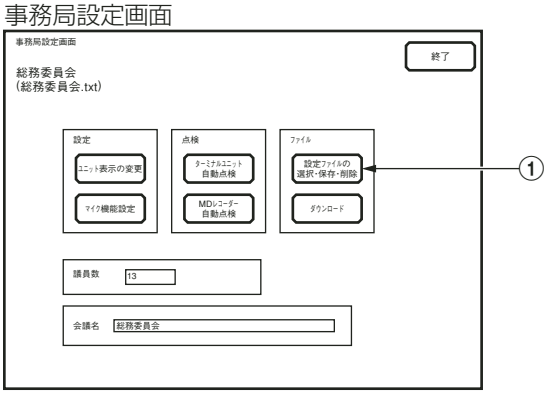


3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うには （つづき）

■ 削除のしかた

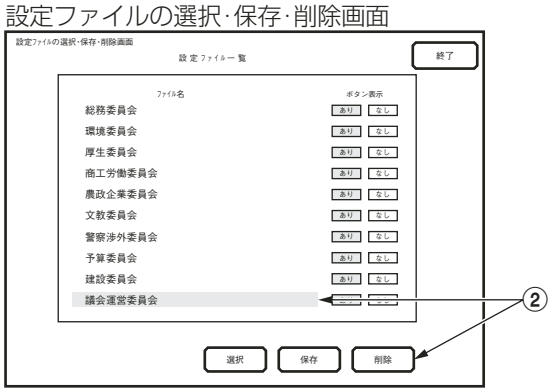
① **設定ファイルの選択・保存・削除** を押します。

事務局設定画面



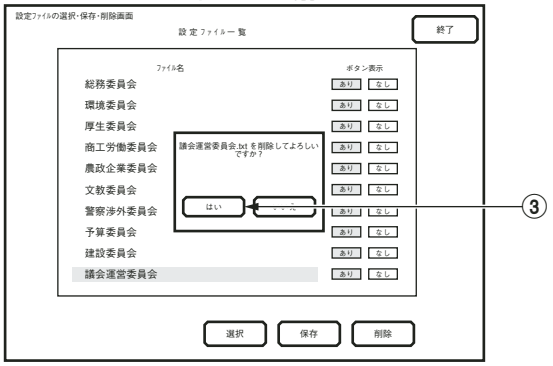
② **設定ファイルの選択・保存・削除画面**が表示されます。削除するファイルを指定し、**削除** を押します。

設定ファイルの選択･保存･削除画面



③ 確認用のダイアログが表示されます。
はい を押してください。

設定ファイルの選択･保存･削除画面



④ 削除したファイル名が消えたら **終了** を押します。

設定ファイルの選択･保存･削除画面

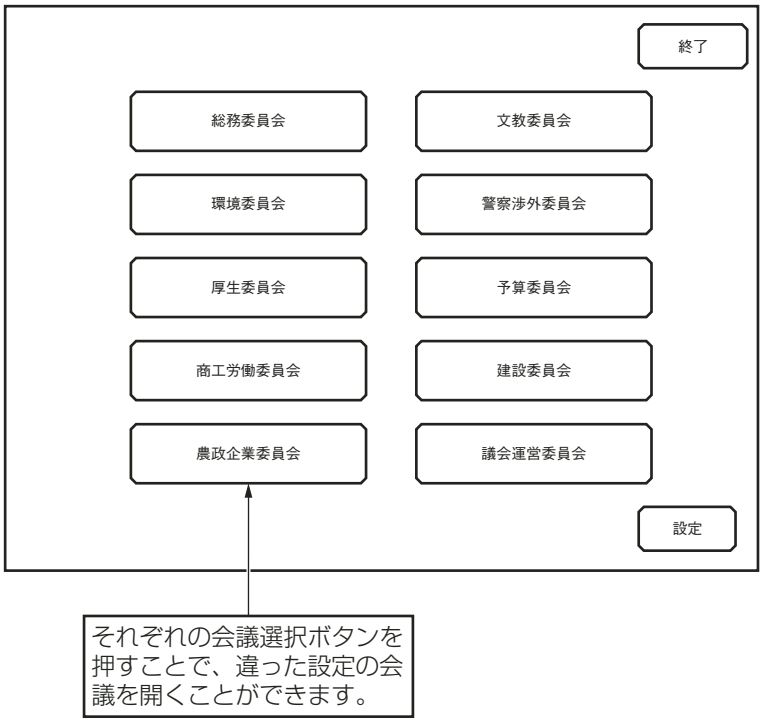
3.1.7 設定ファイルの選択・保存・削除を行うには（つづき）

■ スタート画面の会議選択ボタンについて

設定ファイルの選択・保存・削除画面のボタン表示 **あり** **なし** の設定を **あり** にすると、会議名を表示した会議選択ボタンが**スタート画面**に表示されます。
この会議選択ボタンを押すと、その設定値で会議を開始することができ、状況に応じて様々な設定での会議を行うことができます。
会議選択ボタンは、最大 10 個まで表示可能です。

設定ファイルの選択･保存･削除画面

スタート画面



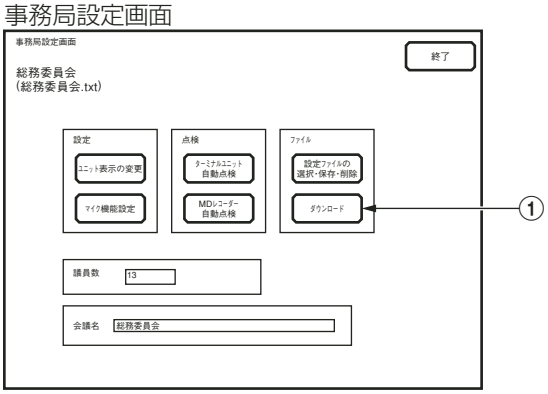
3.1.8 設定値のダウンロード

次の場合には、システムコントロール用ＰＣとデジタルコントロールユニット**PM-M110**の設定値を合わせる為、ダウンロードを行なってください。
・設定が終了した場合
・設定値を変更した場合
・選択していたファイルを変更した場合

■ ダウンロードのしかた

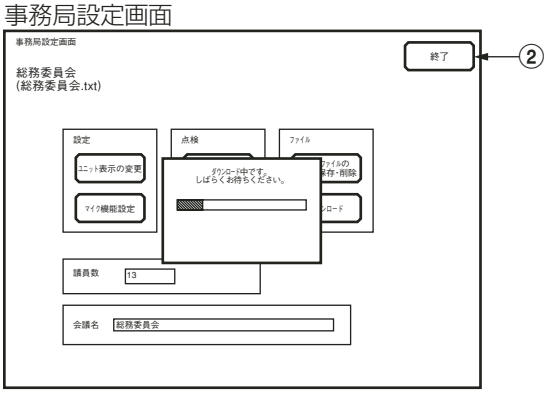
① ダウンロード を押します。

事務局設定画面



② ダウンロード が行われ、ダウンロード経過表示のダイアログが表示されます。
ダウンロードが終了したら、終了 を押します。

事務局設定画面

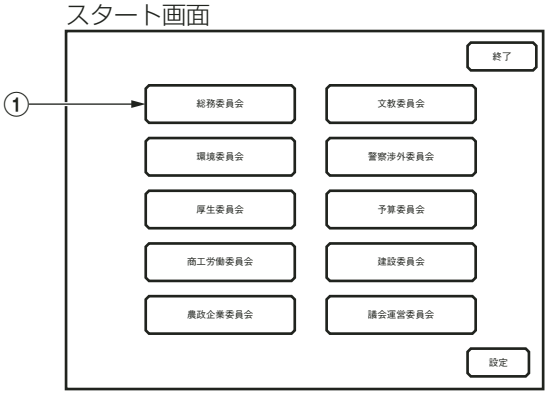


3.2 会議を開始するには

システムコントロール用ＰＣの電源を入れると、**スタート画面**が表示されます。

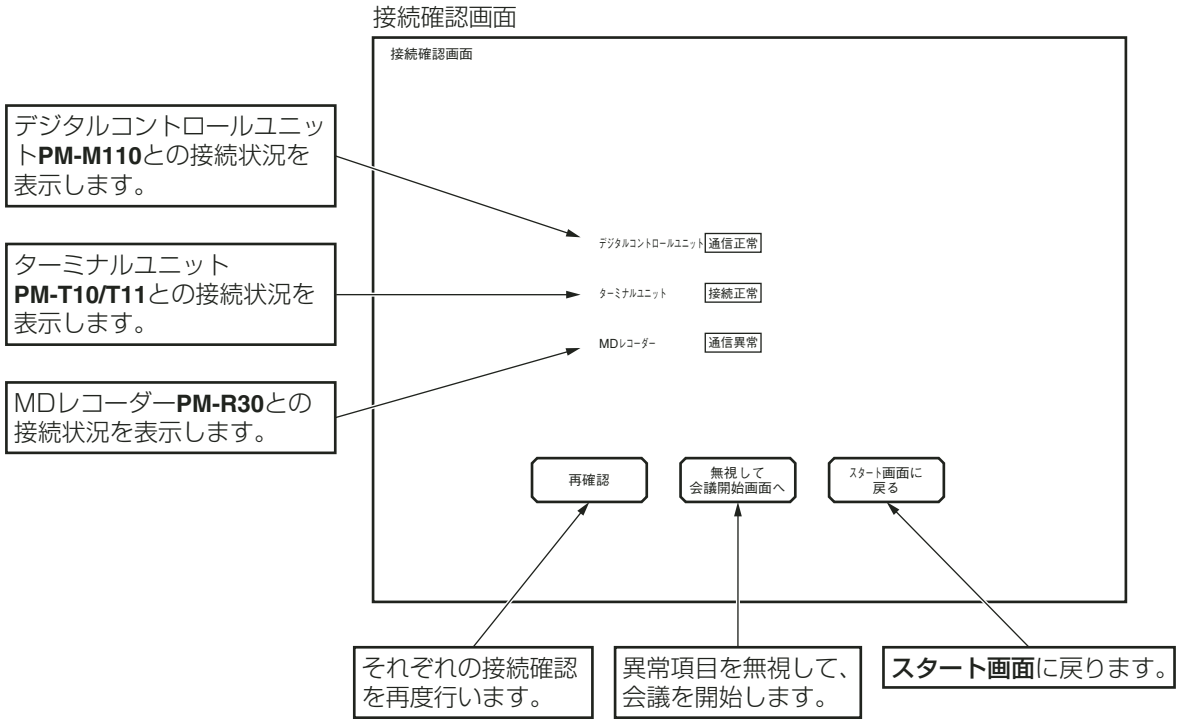
① 開催する会議選択ボタンを押します。
会議名は、10ボタンまで表示できます。変更するときは、3.1.7 をご覧ください。

スタート画面



② デジタルコントロールユニット **PM-M110**、ターミナルユニット **PM-T10/T11**、MDレコーダー **PM-R30** と接続確認を行います。
異常な項目が検出されると、下の画面が表示されます。
通信異常と表示された場合は、ケーブルの接続、機器の電源を確認した後、**再確認** を行なってください。

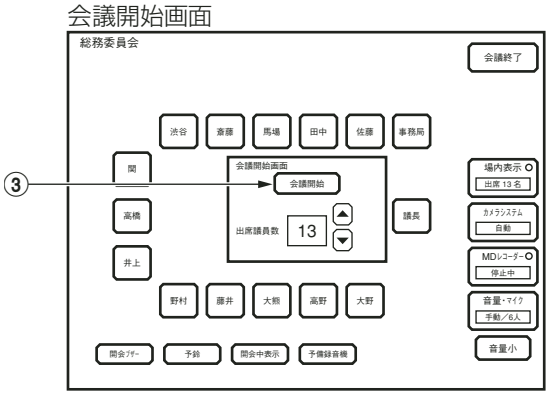
接続確認画面



3.2 会議を開始するには （つづき）

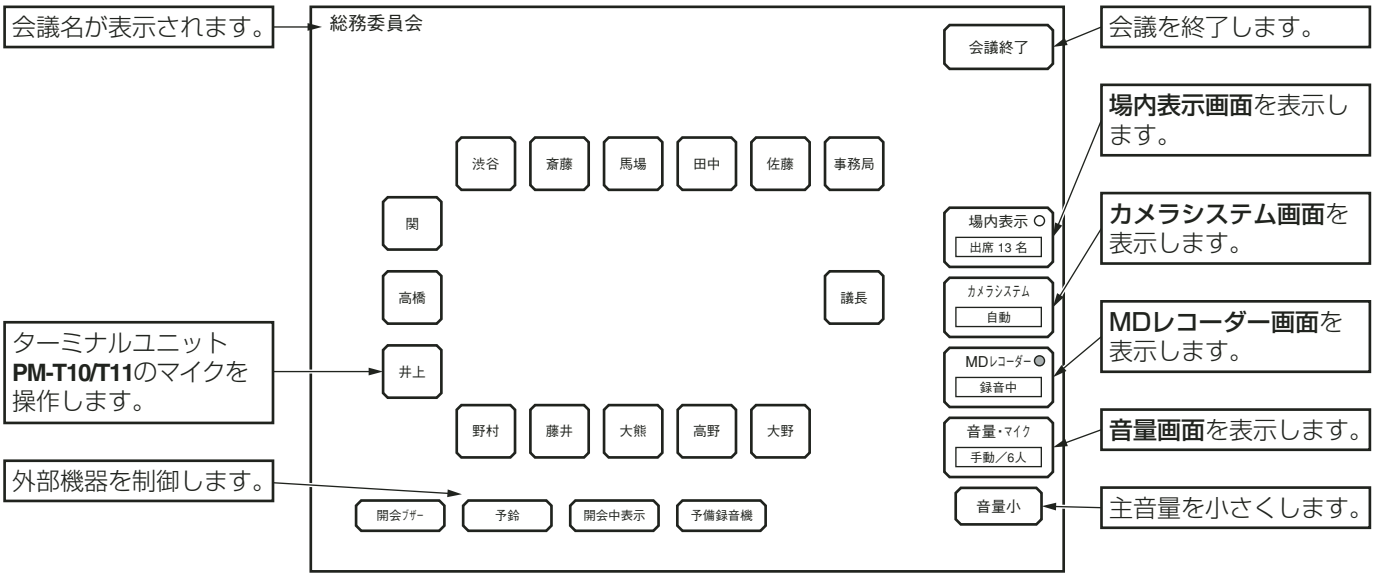
③ **会議開始画面**が表示されます。
会議開始 を押します。

会議開始画面



④ **会議中画面**になり、会議が始まります。
このとき、自動的に MD レコーダーの録音が開始されます。
設定によっては、**会議開始画面**が表示されず会議中画面に移る場合があります。
その場合は、自動的に MD レコーダーの録音が開始しません。会議が始まったら **MD レコーダー画面**を表示し、録音ボタンを押します。

会議中画面



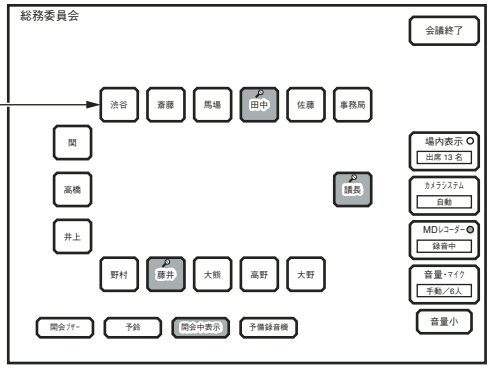
3.3 ターミナルユニット PM-T10/T11 のマイクを入／切 するには

3.3.1 手動発言モード時

■ マイクを入れるには

① 渋谷 を押します。
黒色
マイクが入り、ユニット表示が 緑色になります。 渋谷
緑色

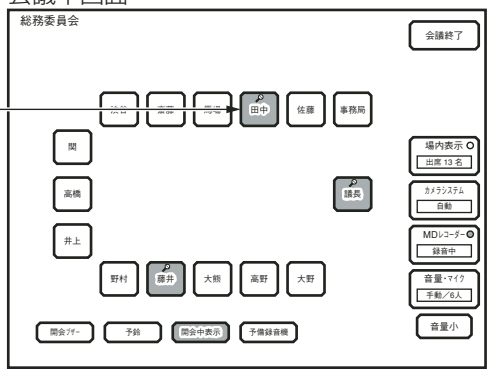
会議中画面



■ マイクを切るには

① 田中 を押します。
緑色
マイクが切れ、ユニット表示が黒色になります。 田中
黒色

会議中画面



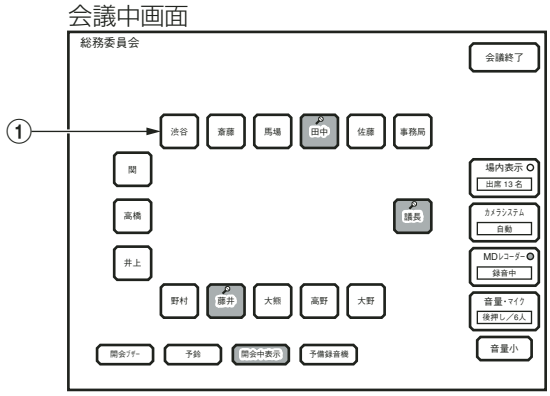
マイクが入っているメンバーターミナルユニット**PM-T11**が、同時発言者数の設定と同数になると、それ以上のマイクを入れることができません。
マスターターミナルユニット **PM-T10** は、同時発言者数とは関係なく、マイクを入れることができます。

3.3.2 後押し発言モード時

■ マイクを入れるには

① 渋谷 を押します。
黒色
マイクが入り、ユニット表示が 緑色になります。 渋谷
緑色

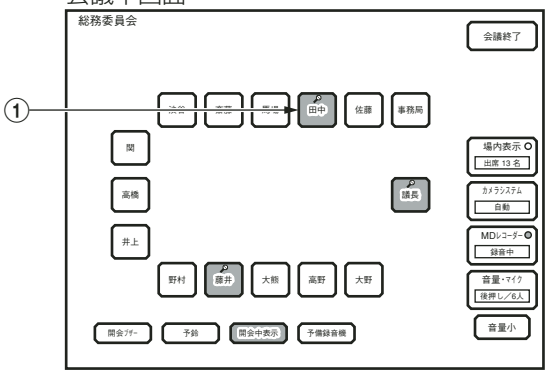
会議中画面



■ マイクを切るには

① 田中 を押します。
緑色
マイクが切れ、ユニット表示が黒色になります。 田中
黒色

会議中画面



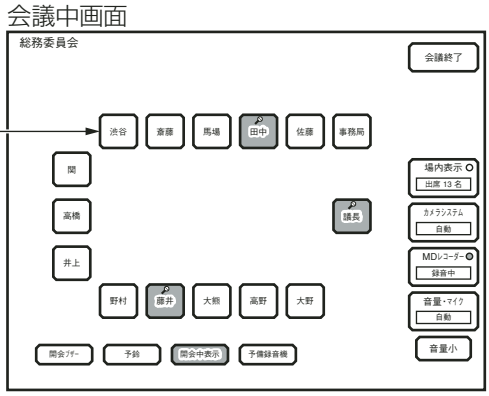
マイクが入っているメンバーターミナルユニット**PM-T11**が、同時発言者数の設定より多くなると、一番先にマイクが入ったメンバーターミナルユニット **PM-T11** のマイクが切れます。
マスターターミナルユニット **PM-T10** は、同時発言者数とは関係なく、マイクを入れることができます。

3.3.3 自動発言モード時

■ マイクを入れるには

① 渋谷 を押します。
黒色
マイクが入り、ユニット表示が 緑色になります。 渋谷
緑色

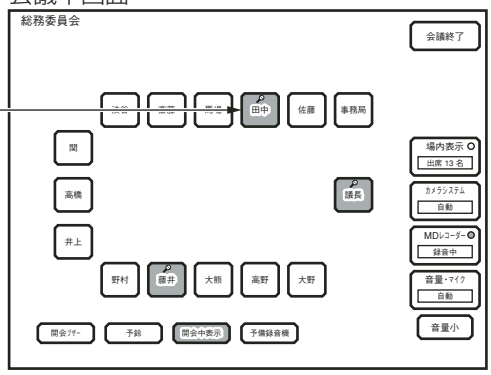
会議中画面



■ マイクを切るには

① 田中 を押します。
緑色
マイクが切れ、ユニット表示が黒色になります。 田中
黒色

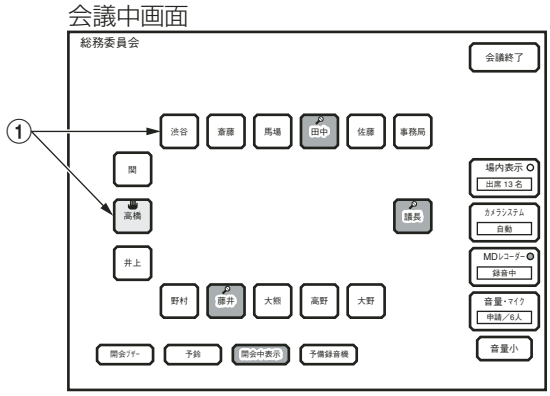
会議中画面



3.3.4 発言申請モード時

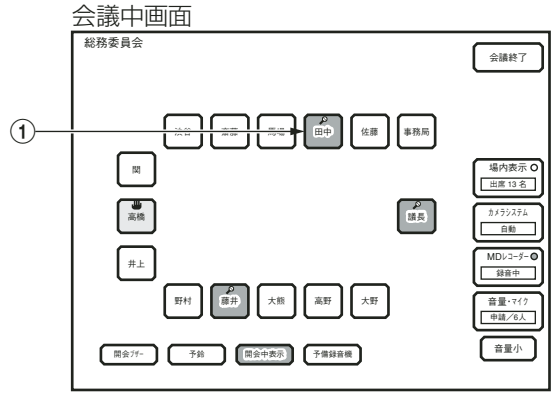
■ マイクを入れるには

① 渋谷 または 高橋 を押します。
黒色　　黄色
マイクが入り、ユニット表示が 緑色になります。 渋谷 高橋
緑色　緑色



■ マイクを切るには

① 田中 を押します。
緑色
マイクが切れ、ユニット表示が黒色になります。 田中
黒色



同時発言者数が１人に設定されている場合

2人目のメンバーターミナルユニット**PM-T11**のマイクが入になると、最初にマイクが入ったメンバーターミナルユニット **PM-T11** のマイクが切れます。

同時発言者数が３人、６人に設定されている場合

マイクが入っているメンバーターミナルユニット**PM-T11**が同時発言者数の設定と同数になるとそれ以上のマイクは入りません。

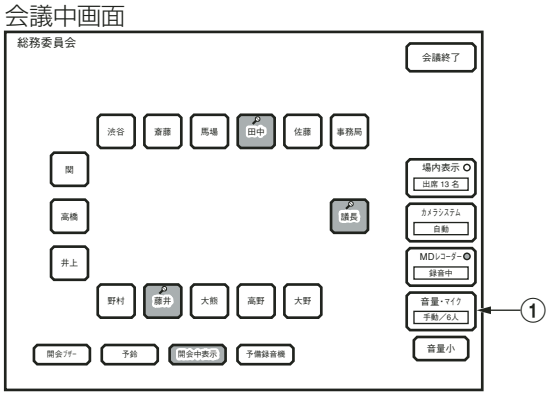
マスターターミナルユニット **PM-T10** は、同時発言者数とは関係なく、マイクを入れることができます。

3.4 音量を調節するには

■ 音量画面の使いかた

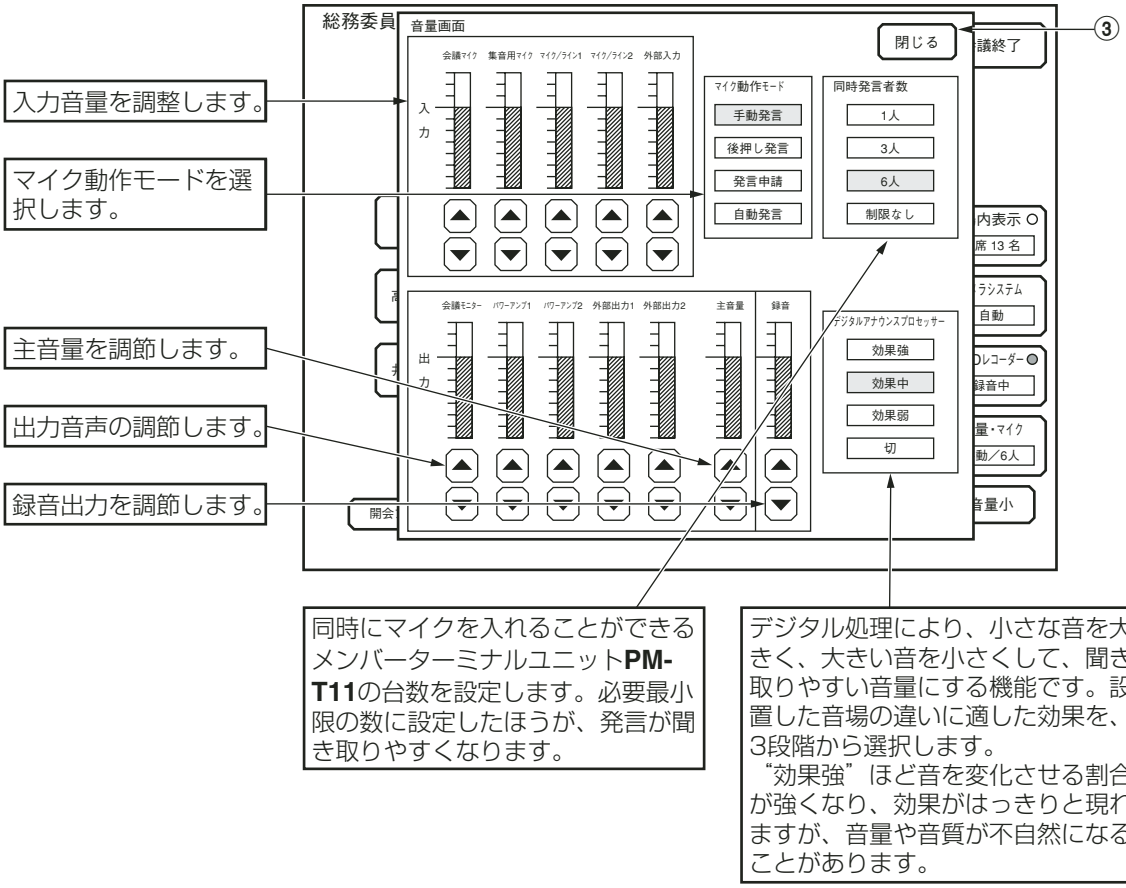
① 音量・マイク 手動／6人 ボタンを押します。

会議中画面



② **音量画面**が表示されます。
入力音量、出力音量、主音量、録音音量、マイク動作モード、同時発言者数、デジタルアナウンスプロセッサーを調節します。

音量画面



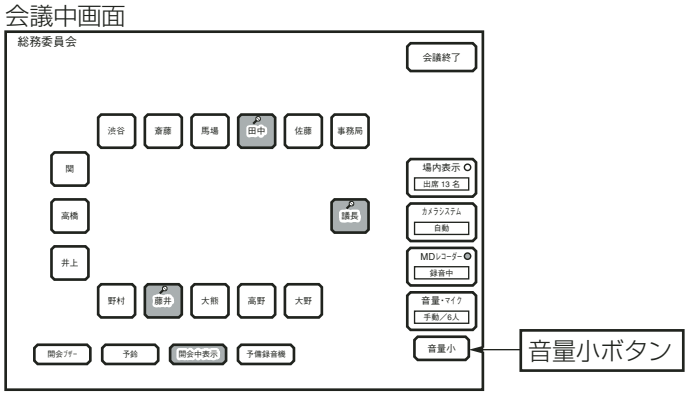
③ 調整が終ったら 閉じる を押します。

3.4 音量を調節するには（つづき）

■ 音量小 ボタンの使いかた

会議中にハウリングが発生した場合など、会議中画面の右下にある **音量小** ボタンで音量を一度に下げることができます。

会議中画面



音量小 ボタンを押すことで、録音出力以外の各出力音量の音量が下がります。
ボタンが押された後は、**音量元に戻す** と表示が変わり、再度このボタンを押すと音量が元の値に戻ります。

3.5 外部機器を制御するには

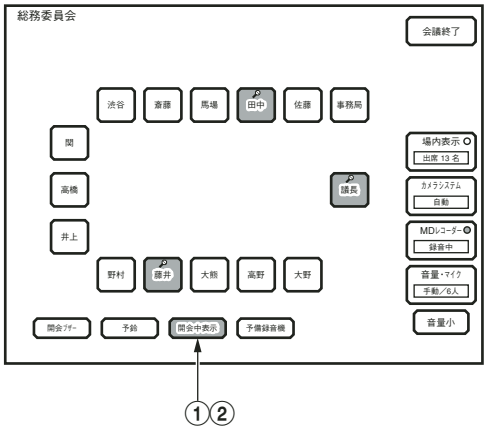
外部機器を４つまで制御することができます。例えば、開会中表示灯などを動作させることができます。

例）開会中表示を制御する場合

① **開会中表示** を押します。
ボタンの色が変化し、閉会中表示が点灯します。

② もう一度、**開会中表示** を押します。
ボタンの色が元に戻り、開会中表示が消灯します。

会議中画面

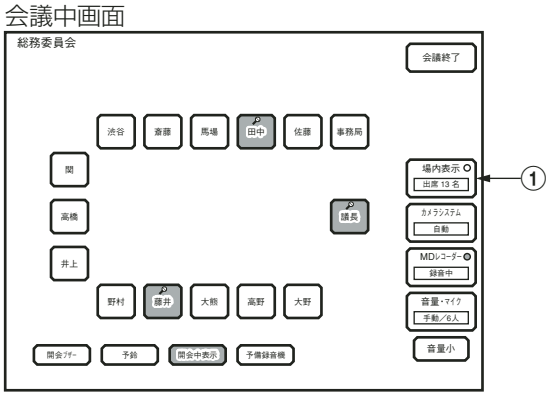


3.6 発言残時間を表示するには

3.6.1 発言残時間の減算を開始するには

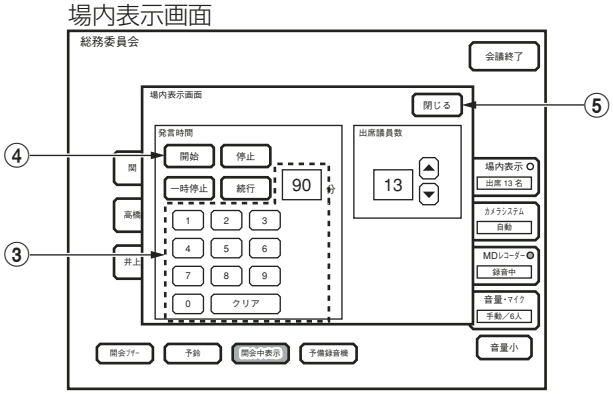
① 場内表示 出席 13 名 を押します。

会議中画面



② **場内表示画面**が表示されます。

場内表示画面



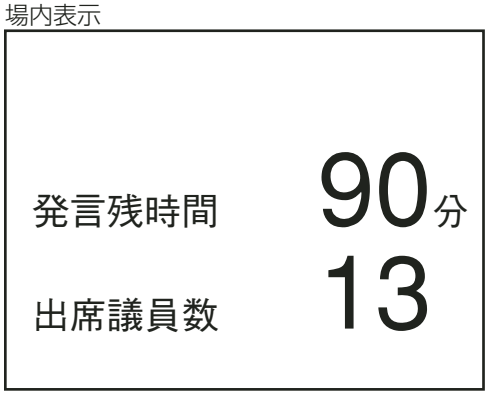
③ 時間を入力します。

④ 開始 を押します。
場内表示装置にて、発言残時間の表示を開始します。

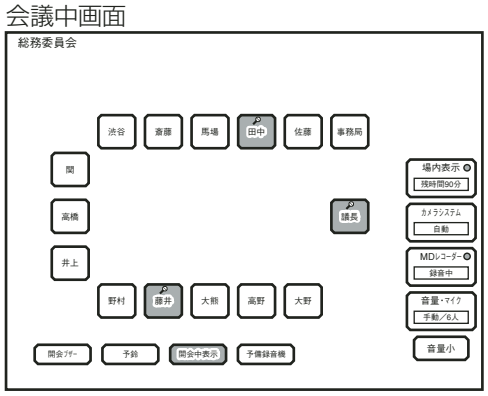
⑤ 閉じる を押します。
場内表示画面を閉じます。

場内表示
残時間90分
の右上のランプが緑色に点滅します。

場内表示



会議中画面



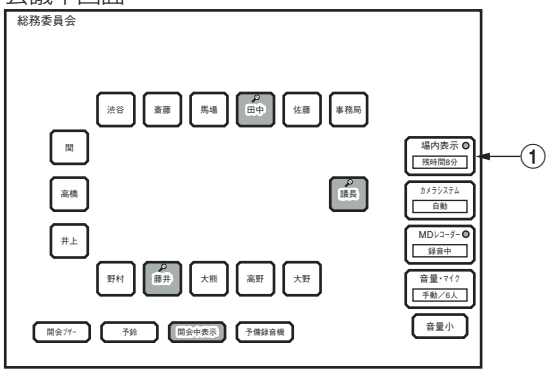
発言残時間がなくなると超過時間を表示します。
0秒～59秒の超過は“発言残時間　0分”、60秒～119秒の超過は“発言超過　1分”と表示します。

場内表示

3.6.2 発言残時間の減算を終了するには

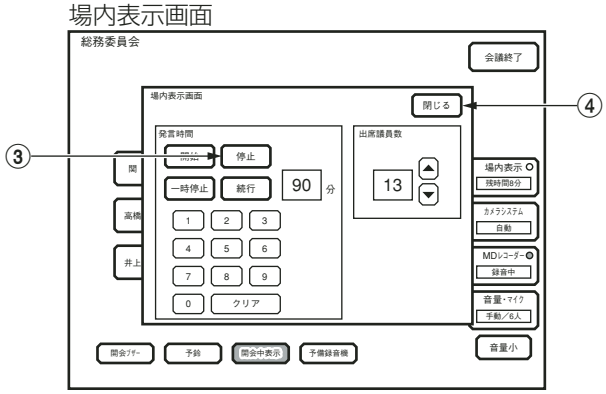
① 場内表示 残時間8分 を押します。

会議中画面



② **場内表示画面**が表示されます。

場内表示画面



③ 停止 を押します。

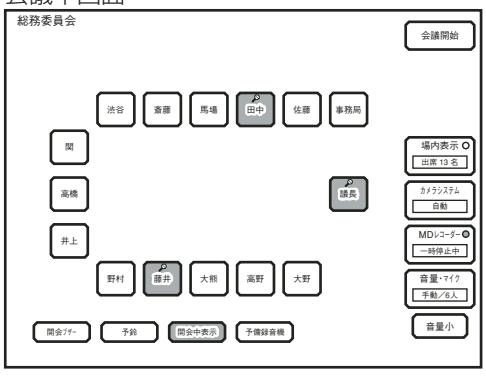
発言残時間の表示を停止します。
場内表示装置から発言残時間の表示が消えます。

④ 閉じる を押します。

場内表示画面を閉じます。

場内表示

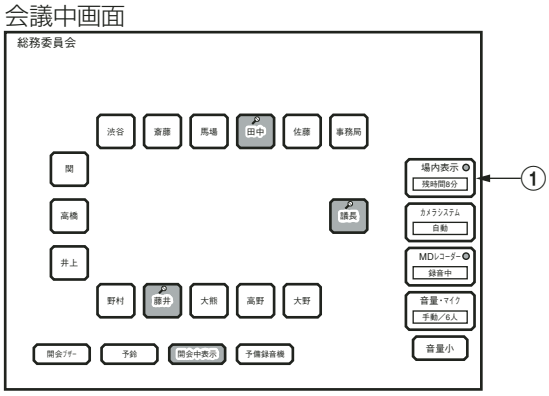
会議中画面



3.6.3 発言残時間の減算を一時停止／続行するには

① 場内表示 残時間8分 を押します。

会議中画面



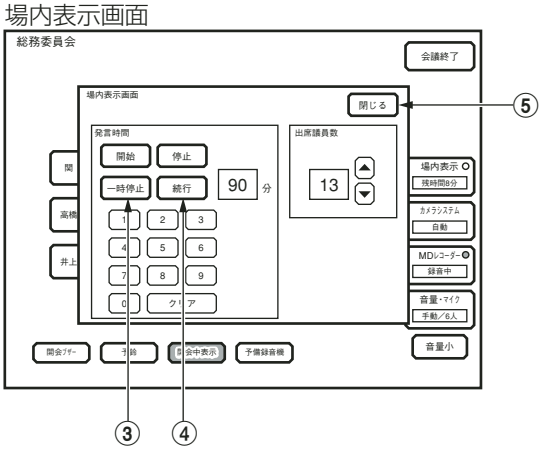
② **場内表示画面**が表示されます。

③ 一時停止 を押します。
発言残時間表示の減算が一時停止します。

④ 続行 を押します。
一時停止していた、発言残時間表示の減算が再開されます。

⑤ 閉じる を押します。
場内表示画面を閉じます。

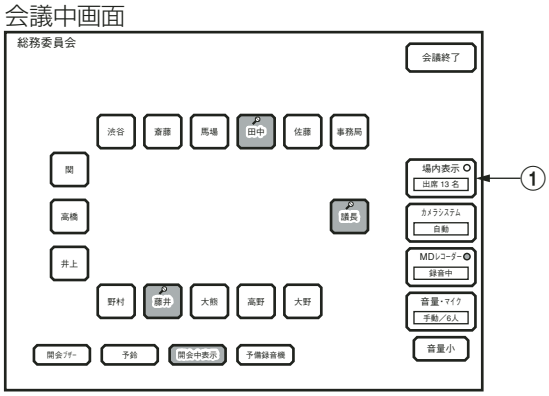
場内表示画面



3.7 出席議員数を変更するには

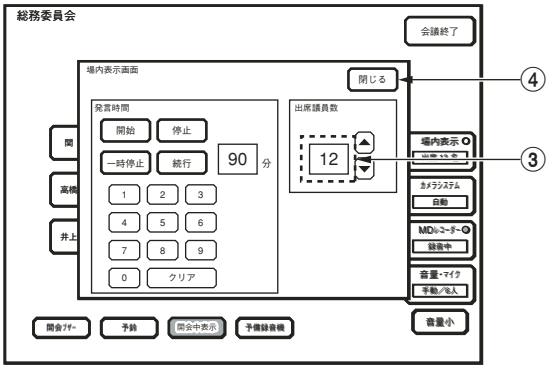
① 場内表示 出席 13 名 を押します。

会議中画面



② **場内表示画面**が表示されます。

場内表示画面



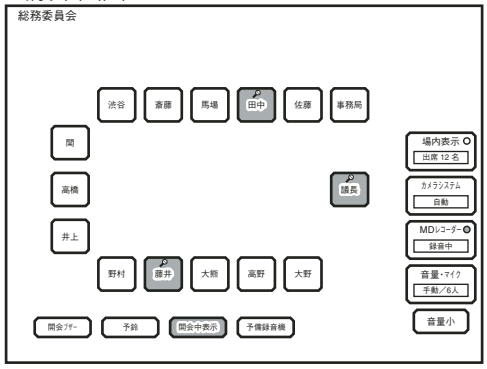
③ 表示する出席議員数を変更します。

④ 閉じる を押します。

場内表示画面を閉じます。このとき場内表示装置の出席議員数が変更されます。

場内表示

会議中画面



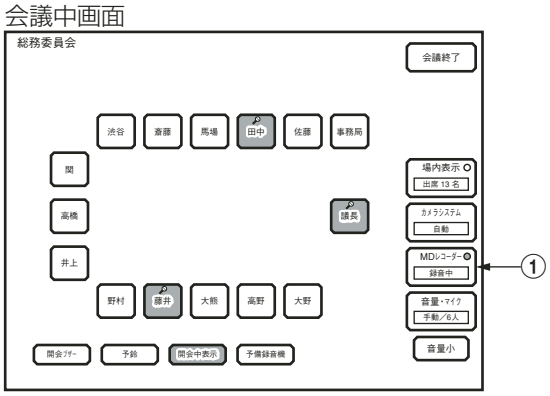
3.8 MD レコーダー PM-R30 の動作について

■ MD レコーダー **PM-R30** の操作のしかた

① MDレコーダー 録音中 を押します。

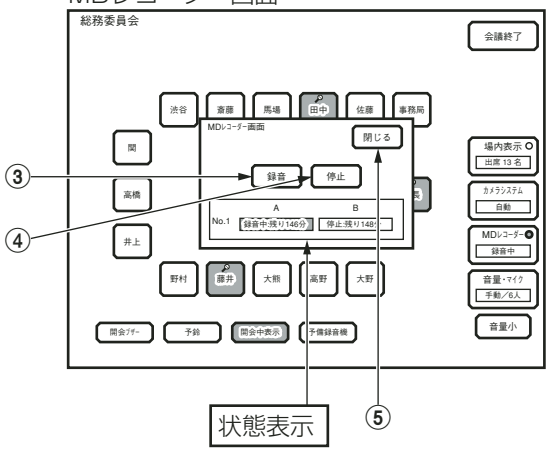
② **MD レコーダー 画面**が表示されます。

会議中画面



③ 録音 を押します。
録音が開始されます。

MDレコーダー画面



④ 停止 を押します。
録音が停止されます。

⑤ 閉じる を押します。
MD レコーダー画面を閉じます。

3.8 MD レコーダー PM-R30 の動作について（つづき）

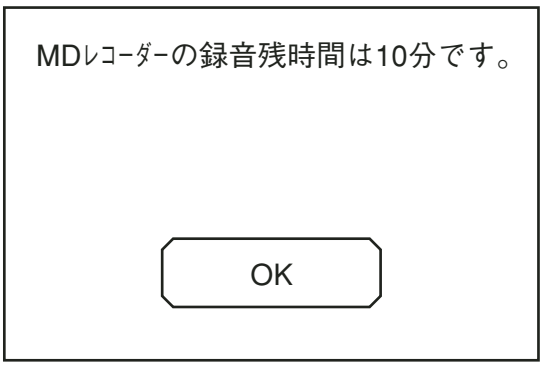
■ MD レコーダ画面の状態表示について

表示と MD レコーダー **PM-R30** の関係は、次のようになります。

表示	MDの状態
停止：148分	停止または一時停止中です。 148分間録音できます。
録音中：50分	録音中です。 50分間録音できます。
ディスク記録不可	挿入されているディスクは、記録ができません。 イジェクトして、ブランクディスクと交換してください。
ディスクなし	ディスクが挿入されていません。 ブランクディスクを挿入してください。
ディスク異常	ディスクが異常です。 他のブランクディスクと交換してください。
録音済	ディスクが録音済みです。 必要に応じて、ディスクを入れ替えてください。
TOC読み書き中	TOCの読み書き中です。 TOCの読み書き中は、操作できません。
MDレコーダー通信異常	MDレコーダー**PM-R30**との通信に異常が発生しました。 お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。
MDメカ通信異常	MDレコーダー**PM-R30**に異常が発生しました。 お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口にご相談ください。

■録音残時間が少なくなったら

録音残時間が 10 分未満になると、次のような表示が出ます。下記のように対処してください。



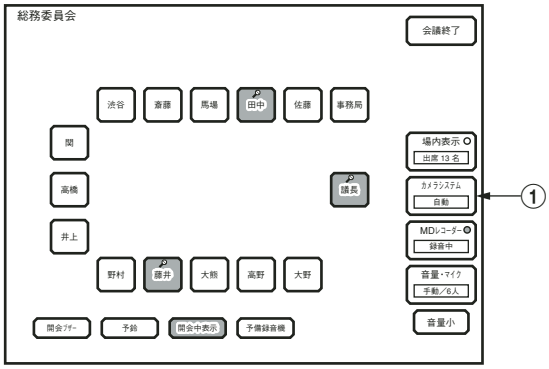
ディスク状態表示ランプが点灯していないディスクドライブに、ブランクディスクを入れてください。
または、ディスク状態表示ランプが赤色になっているディスクドライブのイジェクトボタンを押して録音済みディスクを取り出し、ブランクディスクを入れてください。

OK を押すと表示が消えます。

3.9 自動追尾カメラシステムの動作について

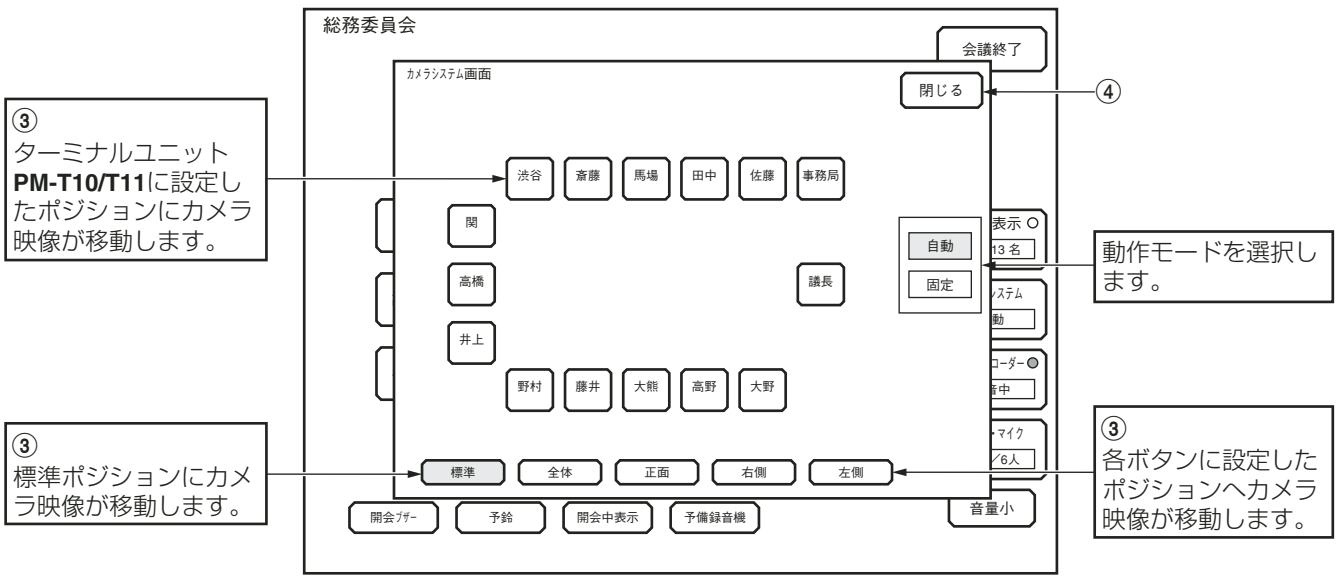
① カメラシステム 自動 を押します。

会議中画面



② **カメラシステム画面**が表示されます。

カメラシステム画面



③ 自動追尾カメラのポジション移動 を行います。

・各ターミナルユニット **PM-T10/T11** に連動させたポジションへ移動させる場合
ユニット表示を押します。

・標準に設定したポジションへ移動させる場合

標準 ボタンを押します。

・カメラシステム画面の下のボタンに設定したポジションへ移動させる場合
ポジションを設定したボタンを押します。

④ **閉じる** を押します。

カメラシステム画面を閉じます。

動作モード について

自動追尾カメラの動作モードには、自動と固定の 2 つがあります。

・自動モード
各ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクが入ると、設定したポジションへカメラ映像が移動します。

・固定モード
ターミナルユニット**PM-T10/T11**との連動動作は行わず、カメラシステム画面での操作によって、ポジションを変えます。

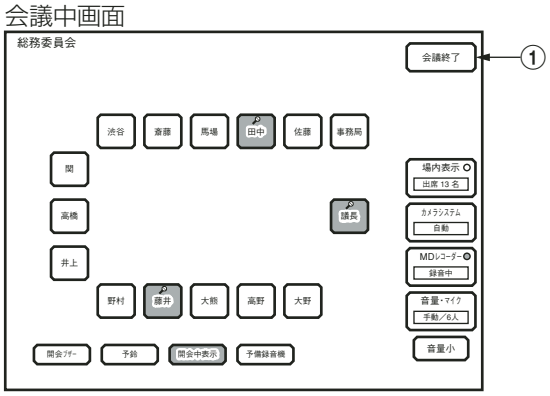
3.10 休憩に入るには／再開するには

MD レコーダー **PM-R30** の自動録音を設定している場合のみ、休憩で MD レコーダーの記録を自動的に一時停止に、また再開で録音開始の自動制御を行うことができます。
また、発言残時間の減算を行っている場合には、減算を一時停止にし、再開で、再び減算を始めます。

■休憩の入りかた

① **会議終了** を押します。

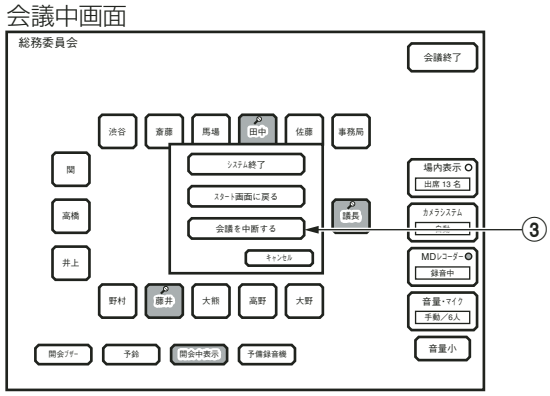
会議中画面



② ダイアログが表示されます。

③ **会議を中断する** を押します。
MD レコーダー **PM-R30** を一時停止にします。
発言残時間の減算を行っている場合は、減算を一時停止にします。
また、**会議終了** ボタンが **会議開始** にボタンに変わります。

会議中画面

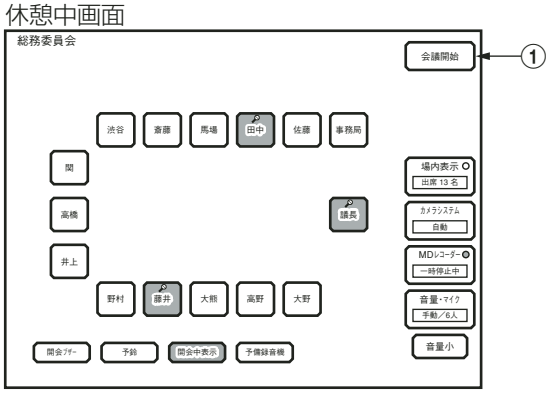


MD レコーダーの自動録音設定をしていない場合は、ダイアログ上に **会議を中断する** のボタンは表示されません。

■再開するには

① **会議開始** を押します。
MD レコーダー **PM-R30** の録音を再開します。
また、発言残時間の減算が一時停止されている場合は、再び減算が再開されます。

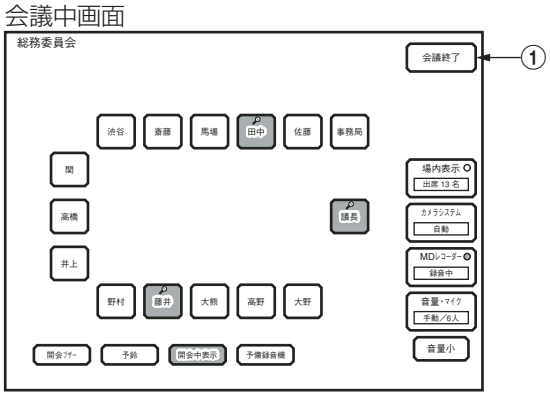
休憩中画面



3.11 会議を終了するには／会議記録ファイルを保存するには

① **会議終了** を押します。

会議中画面



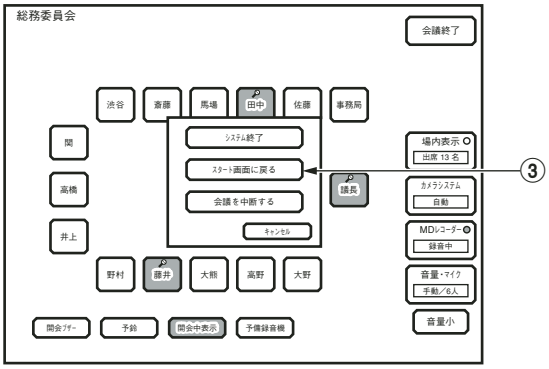
② ダイアログが表示されます。

③ **システム終了** を押します。

会議を終了し、システムコントロール用 PC の電源を切ります。
場内表示用 PC も同時に電源を切ります。

システムコントロール用 PC の電源を切らず、スタート画面に戻る場合は、**スタート画面に戻る** を押します。

会議中画面

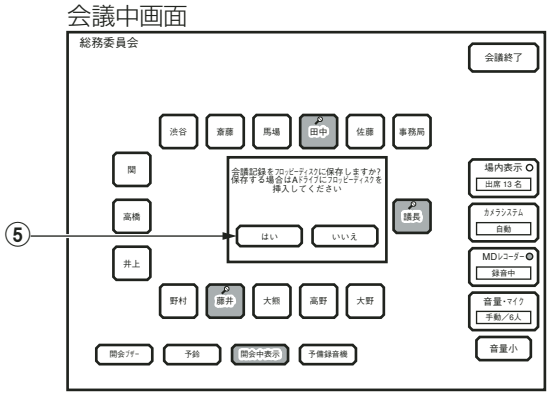


④ ダイアログ が表示されます。

⑤ フロッピーディスクをディスクドライブに挿入し、**はい** を押します。

会議終了時、会議の記録である会議記録ファイルがフロッピーディスクに保存されます。

会議中画面



3.11 会議を終了するには／会議記録ファイルを保存するには（つづき）

■会議記録ファイルについて

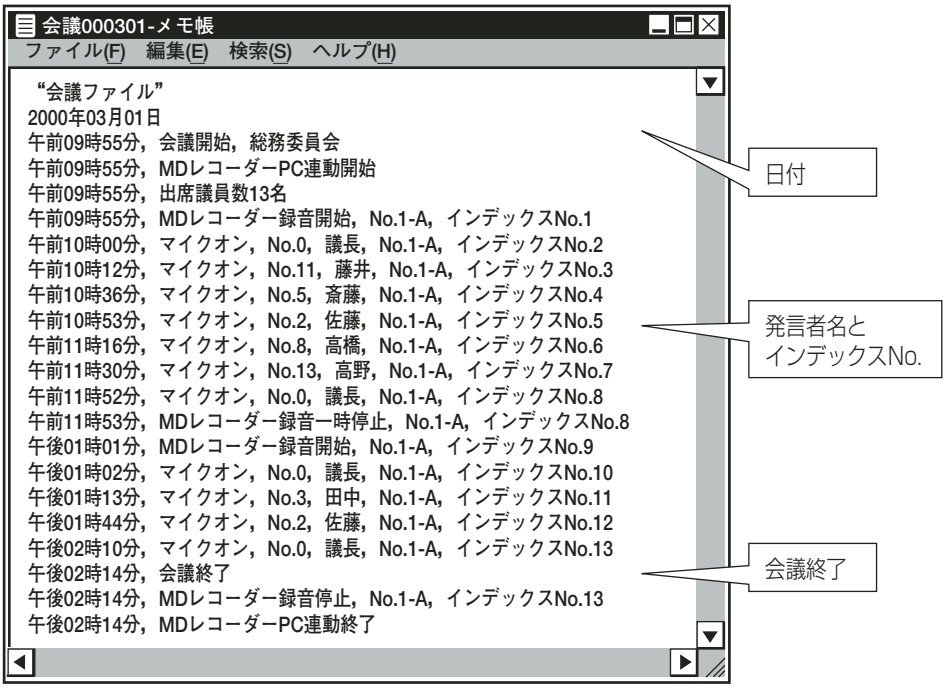
・開会した時刻、発言者とその時刻などが記録されます。
・会議記録は、1 回の会議に 1 つ作成されます。
・ファイルはテキスト形式で出力されます。
・ファイル名は以下のようにつけられます。

会議 000301_2（.TXT）
- 000301：ファイルが作成された日付（例：2000年3月1日）
- 2：その日に起動回数

■データ内容

記録内容	動作内容
時刻,「会議開始」,会議名	会議を開始する。
時刻,「MDレコーダーPC連動開始」	MDレコーダー**PM-R30**のPC連動動作を開始する。 録音は開始されません。
時刻,出席議員数	出席議員数を記録する。
時刻,「MDレコーダー録音開始」,MDレコーダーNo.,インデックスNo.	MDレコーダー**PM-R30**が録音を開始する。
時刻,「マイクオン」,ユニットNo.,ユニット表示名,MDレコーダーNo.,インデックスNo.	ターミナルユニット**PM-T10/T11**のマイクが入る。 発言者名,MDレコーダーNo.,インデックスNo.を記録します。
時刻,「MDレコーダー一時停止」,MDレコーダーNo.,インデックスNo.	MDレコーダー**PM-R30**が一時停止する。
時刻,「MDレコーダー録音停止」,MDレコーダーNo.,インデックスNo.	MDレコーダー**PM-R30**が録音を停止する。
時刻,「MDレコーダー切替」,MDレコーダーNo.,インデックスNo.	録音しているMDを切り替える。 録音を開始したMDレコーダーNo.とインデックスNo.を記録します。
時刻,「MDレコーダーPC連動終了」	MDレコーダー**PM-R30**のPC連動動作を終了する。 録音は停止されます。
時刻,「会議終了」	会議を終了する。

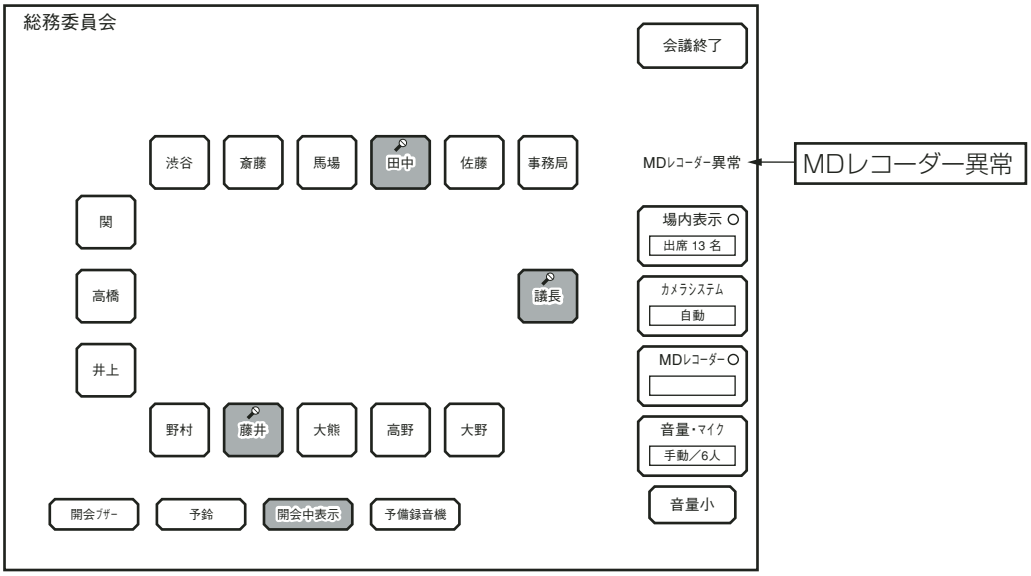
■会議記録ファイル 例



3.12 エラーメッセージと対処法

画面の操作中に以下のようなエラーメッセージが表示される場合があります。指示にしたがって対処してください。
なお、（3）～（7）のメッセージが表示された場合は、機器の不良や接続ケーブルの不良が考えられます。
お買い上げ販売店または、ビクターサービス窓口へご相談下さい。

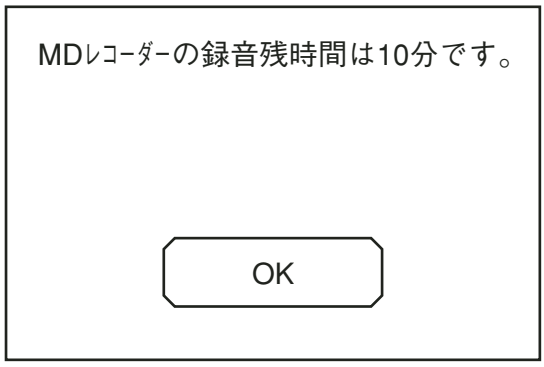
（1）



録音を開始したのに開始できなかった場合や、録音中に録音できなくなった場合または、MD レコーダー **PM-R30** と通信できなくなった場合に表示されます。MD レコーダー画面を開いてください。

MD の状態がディスク記録不可、ディスクなし、録音済、ディスク異常の場合はブランクディスクと入れ替えてください。何も表示されない場合や表示が MD レコーダー通信異常、MD メカ通信異常の場合は、お買い上げ販売店または、ビクターサービス窓口へご相談ください。

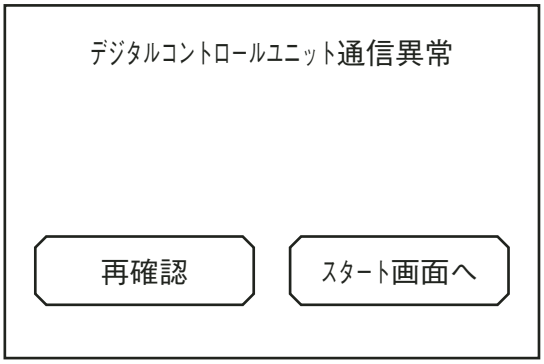
（2）



録音残時間が 10 分未満になると、表示されます。
録音済のディスクをブランクディスクと交換してください。
ディスクを交換後、OK を押して画面を閉じ、MD レコーダー画面を開いて、録音残時間が十分であるかを確認してください。

3.12 エラーメッセージと対処法（つづき）

(3)

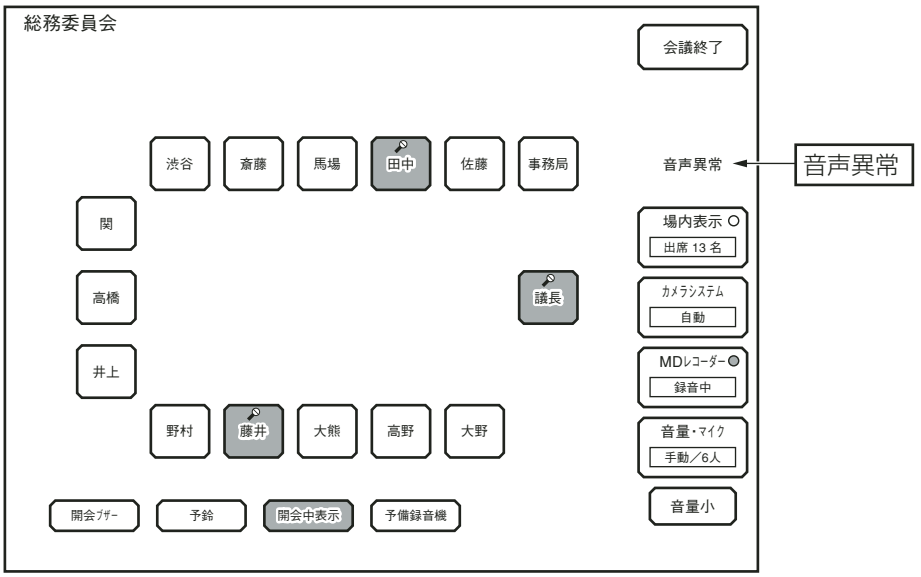


デジタルコントロールユニット **PM-M110** と通信異常のときに表示されます。

再確認 を押すともう一度デジタルコントロールユニット **PM-M110** との通信を確認します。

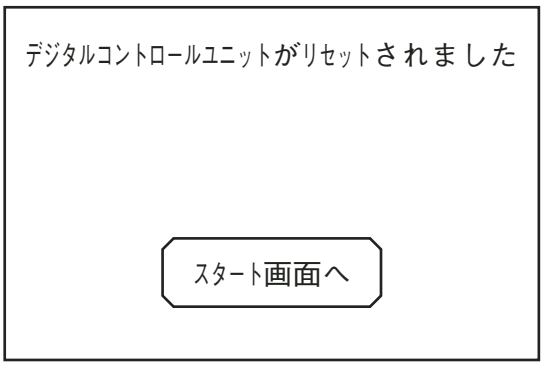
再確認をしても復帰しない場合は、**スタート画面へ** を押し、スタート画面に戻ることができます。

(4)



デジタルコントロールユニット **PM-M110** 内部のデジタルミキサー部が異常の場合または、デジタルミキサー部との通信異常の場合に表示されます。

(5)

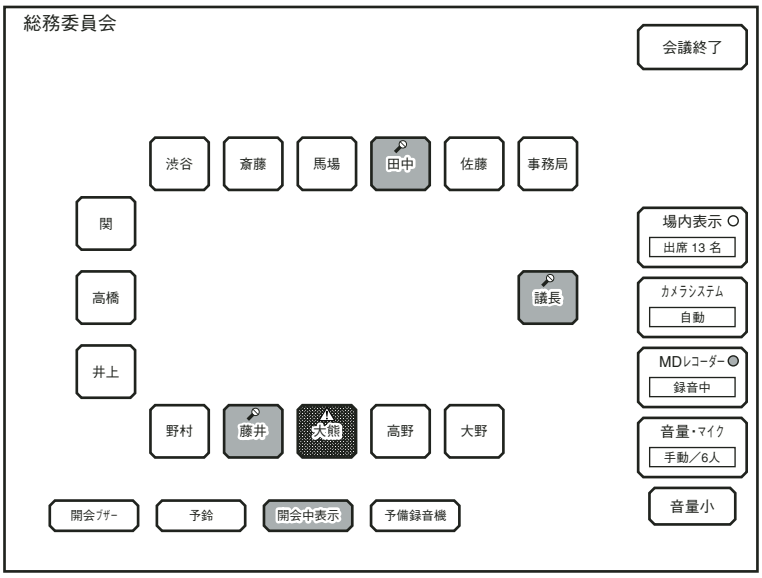


デジタルコントロールユニット **PM-M110** がリセットされたときに表示されます。デジタルコントロールユニット **PM-M110** と状態を一致させるため一旦スタート画面に戻る必要があります。

スタート画面へ を押してスタート画面に戻り、再度、会議選択ボタンを押してください。

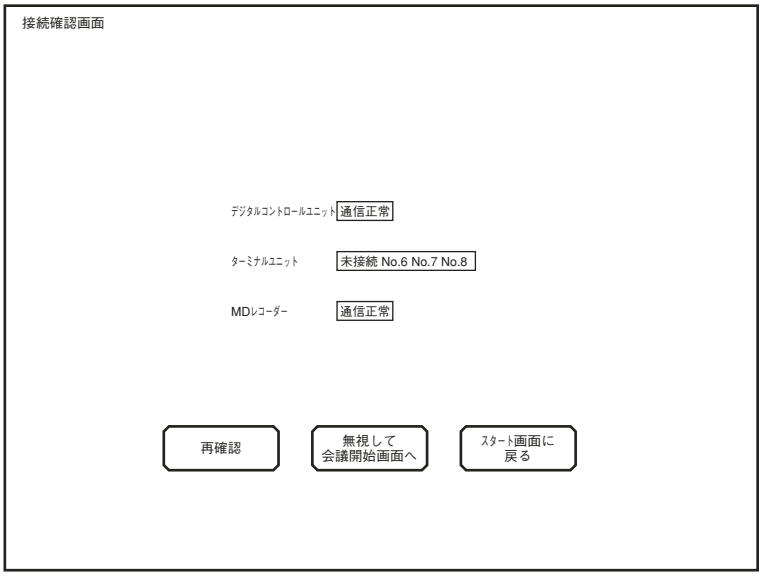
3.12 エラーメッセージと対処法（つづき）

（6）



デジタルコントロールユニット **PM-M110** とターミナルユニット **PM-T10/T11** 間で通信異常のとき、ユニット表示が赤色になります。通信異常になったターミナルユニット **PM-T10/T11** の操作はできません。

（7）



デジタルコントロールユニット**PM-M110**と通信異常のとき、MDレコーダー**PM-R30**と通信異常のとき、デジタルコントロールユニット **PM-M110** とターミナルユニット **PM-T10/T11** 間で通信異常のときに表示されます。

再確認 を押すと、再度確認を行います。

スタート画面に戻る を押すとスタート画面に戻ります。

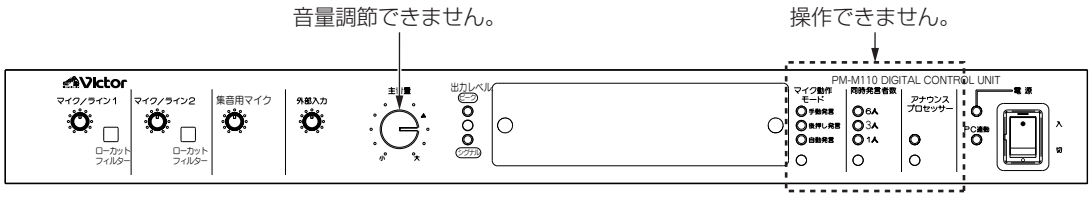
無視して会議開始画面へ を押すと会議を開始します。

（7）PC の本体のエラーについては PC に添付している**取扱説明書**をご覧ください。

4. デジタルコントロールユニット PM-M110 の使いかた

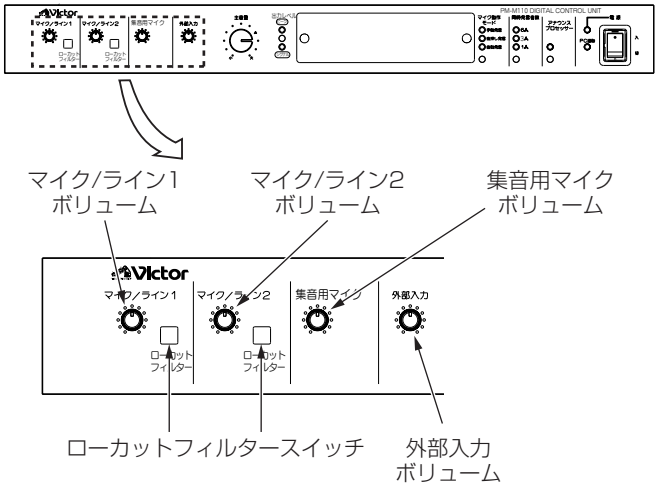
4.1 アドバンストシステムでの動作について

アドバンストシステムでは、マイク動作モードの切替や音量の調節は操作画面（会議コントロールソフト）で行います。
そのため、以下のボリュームやボタンは操作できません。



4.2 音量の調節

マイク／ライン 1、2、集音用マイク、外部入力を使用するときは、十分な音量でハウリングのないようにボリュームを調節します。
マイク／ライン 1、2 入力にマイクロホンを接続して使用する場合はローカットフィルタースイッチを入れると、より聞きやすい音に補正します。

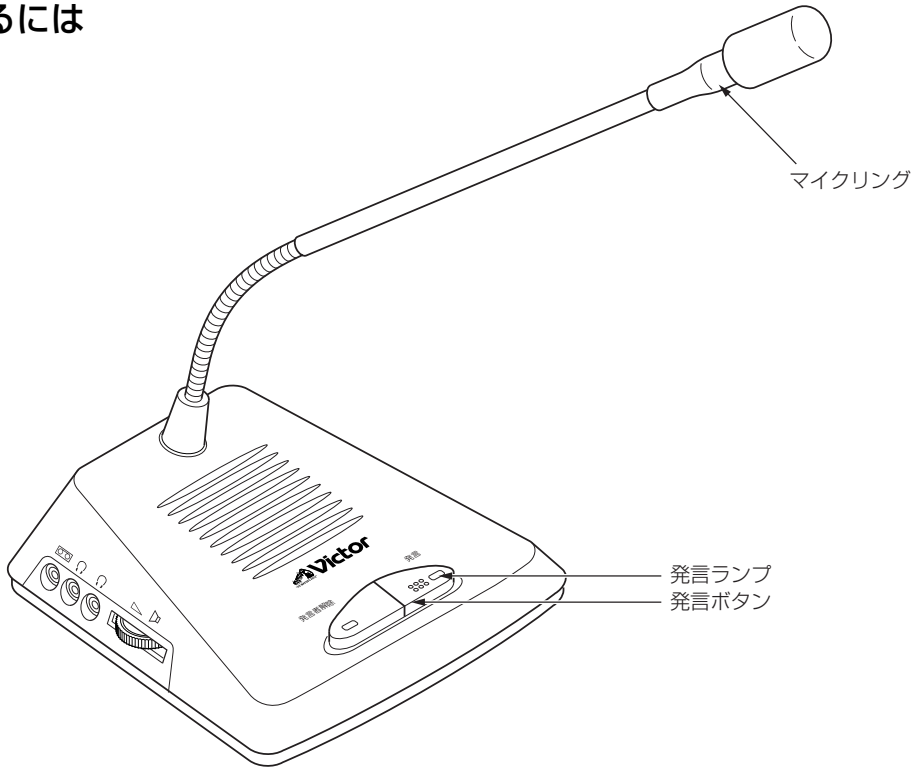


切 ：標準

入 ：低域を低減し、聞きとりやすい音へ補正します。

5. マスターターミナルユニット PM-T10 の使いかた

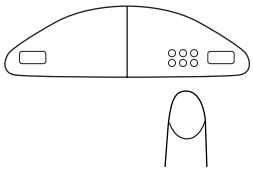
5.1 発言するには



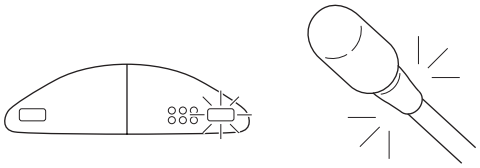
■ 発言ボタンを押して発言する場合

自動発言モードの場合は、音声を感知してマイクが入ります。

① 発言ボタンを押します。



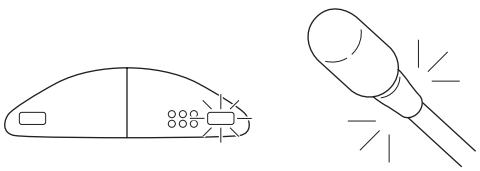
② 発言ランプが赤色から緑色に変わり、マイクリングが点灯することを確認します。



③ マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯し、マイクリングが点灯しているときに発言ボタンを押すとマイクが切れます。

■ 操作画面（会議コントロールソフト）の操作により発言を許可した場合

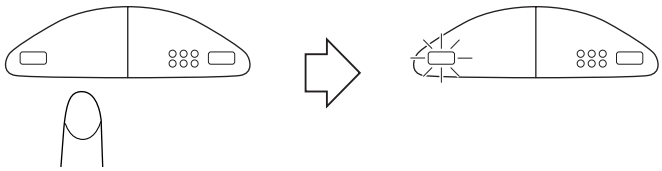
① 発言ランプが緑色になり、マイクリングが点灯することを確認します。



② マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯し、マイクリングが点灯しているときに発言ボタンを押すとマイクが切れます。

5.2 現在の発言を終了させるには

① 発言者解除ボタンを押します。
発言者解除ランプが３秒間、緑色に点灯し、モニタースピーカーから“ポーン”と音がします。



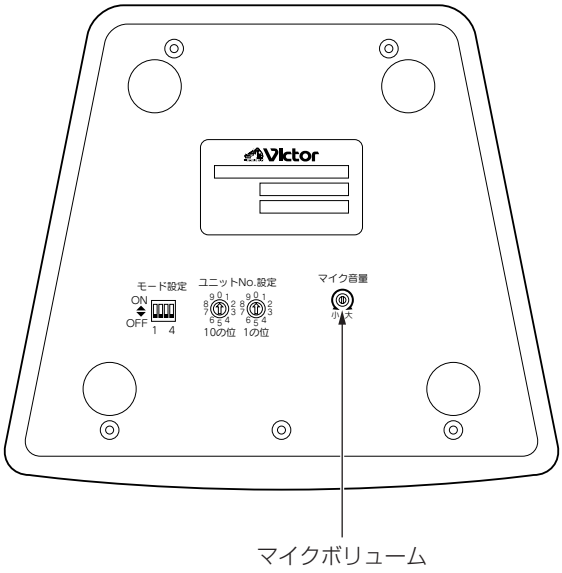
② 議長以外の発言が終了します。
（全てのメンバーターミナル **PM-T11** のマイクが切れます。）

> 発言者解除ボタンを押すと、直ちに議長以外の全てのマイクが切れます。
> 取り扱いに十分ご注意ください。

5.3 マイクの音量を調節するには

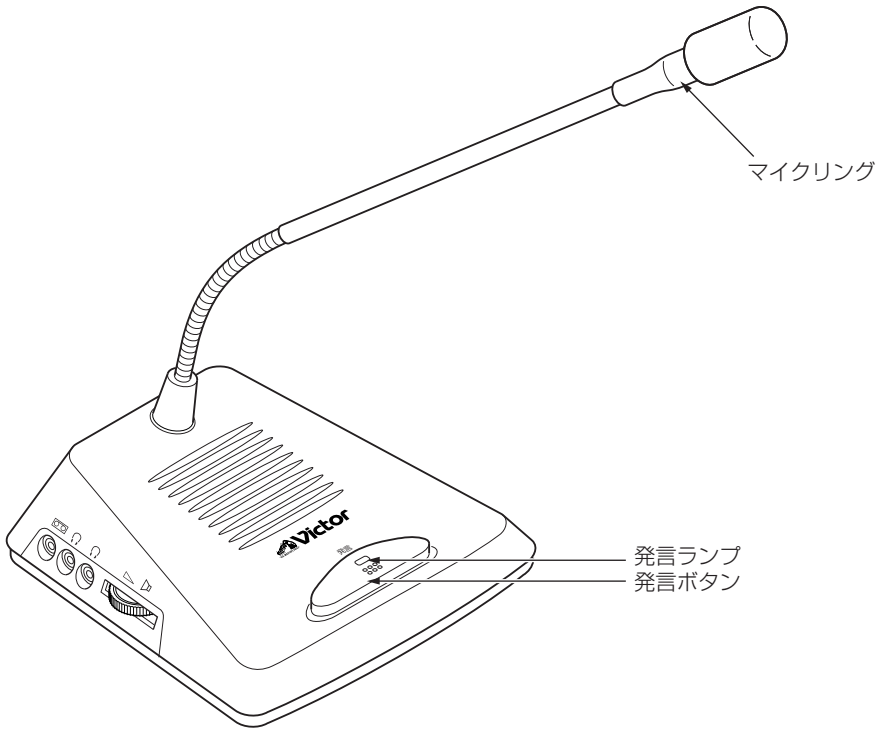
マスターターミナルユニット **PM-T10** のベース裏面部のマイクボリュームで調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用します

マスターターミナルユニット **PM-T10** ベース裏面部



6. メンバーターミナルユニット PM-T11 の使いかた

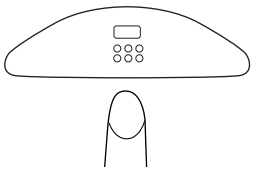
6.1 発言するには



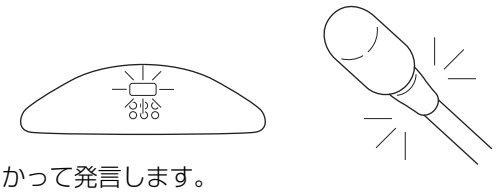
■ 発言ボタンを押して発言する場合

マイク動作モードが“自動発言モード”の場合は、音声を感知してマイクが入ります。

① 発言ボタンを押します。
マイク動作モードが“発言申請モード”の場合は、発言ランプが赤色に点灯し発言申請中になります。



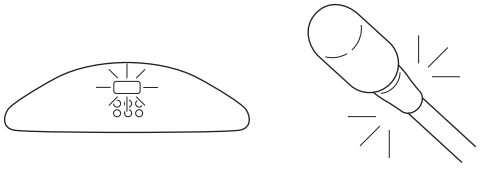
② 発言ランプが赤色から緑色に変わり、マイクリングが点灯することを確認します。
発言ランプが約 1 秒間、赤色に点滅して消灯する場合は発言者制限のため、発言が行えません。



③ マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯し、マイクリングが点灯しているときに発言ボタンを押すとマイクが切れます。

■ 操作画面（会議コントロールソフト）の操作により発言を許可した場合

① 発言ランプが緑色になり、マイクリングが点灯することを確認します。

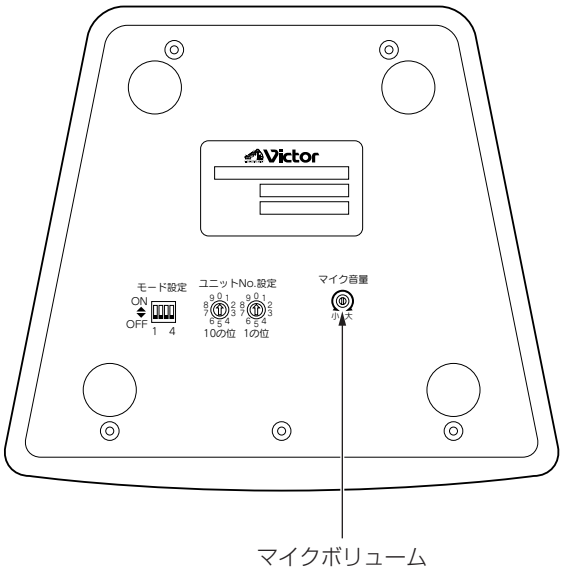


② マイクに向かって発言します。
発言ランプが緑色に点灯し、マイクリングが点灯しているときに発言ボタンを押すとマイクが切れます。

6.2 マイクの音量を調節するには

メンバーターミナルユニット **PM-T11** のベース裏面部のマイクボリュームで調節します。
調節するときは、デジタルコントロールユニット **PM-M110** に添付の調節用ドライバーを使用します

メンバーターミナルユニット **PM-T11** ベース裏面部



マイクボリューム

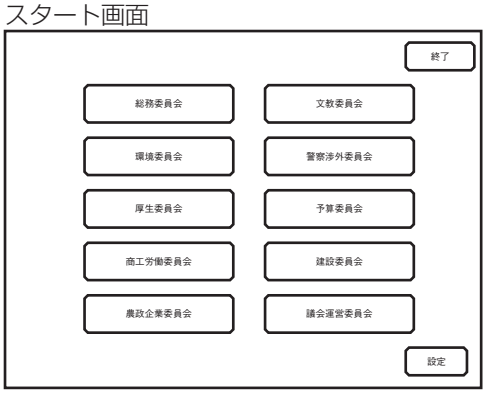
7. MD レコーダー PM-R30 の使いかた

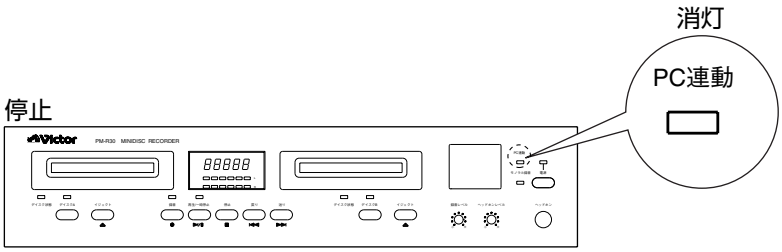
7.1 自動録音時の動作について

自動録音に設定されていると、会議開始、休憩、会議終了に連動して MD レコーダー **PM-R30** が自動的に動作します。

① 電源を入れます。
スタート画面が表示されます。

スタート画面

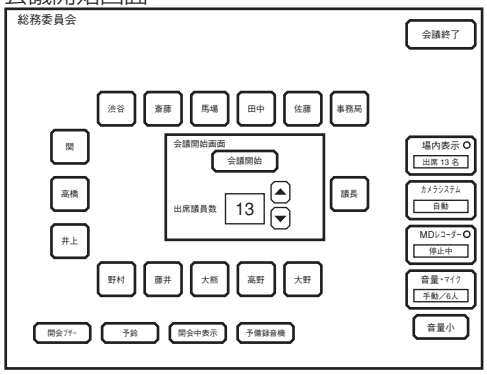


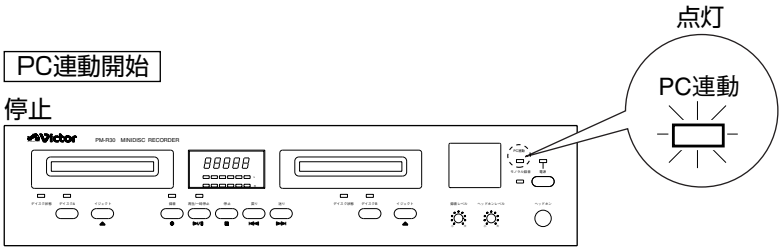


全てのボタンの操作ができます。

② 会議選択ボタン を押します。
会議開始画面が表示されます。

会議開始画面

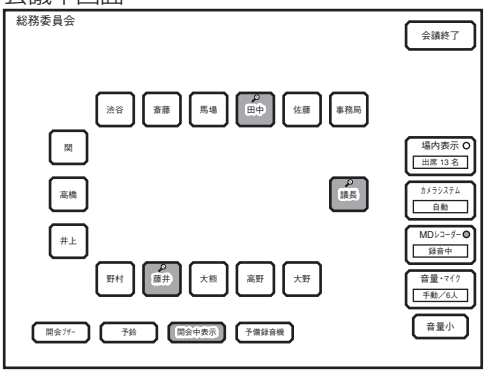


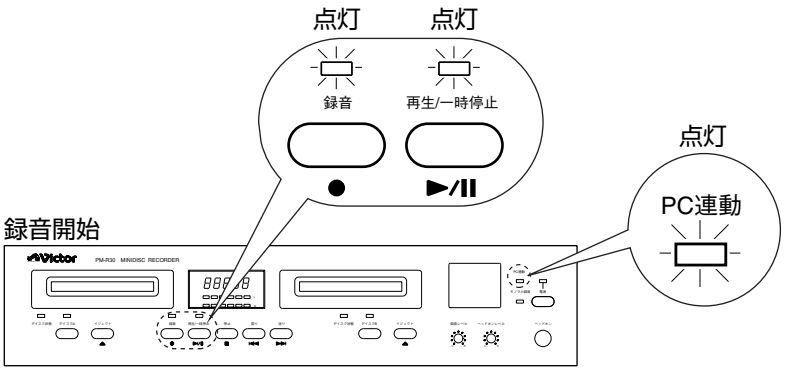


イジェクトボタンのみ操作できます。

③ 会議開始 を押します。
会議中画面になります。

会議中画面





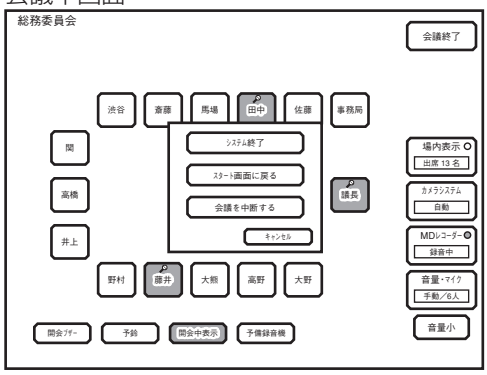
停止中のディスクドライブのイジェクトボタンのみ操作できます。

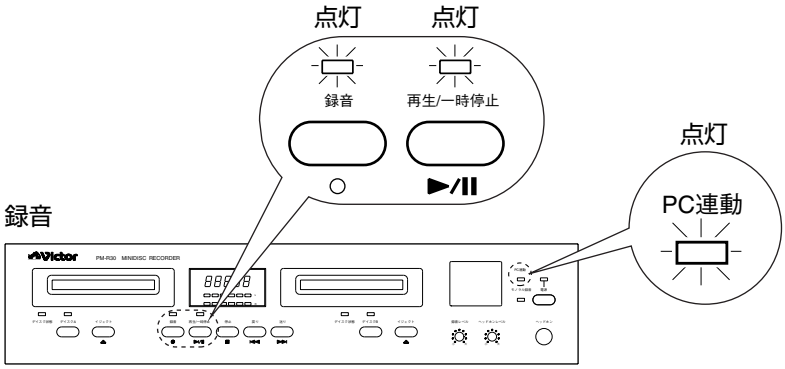
MD レコーダー画面にて録音、停止を行うことができます。

7.1 自動録音時の動作について（つづき）

④ 休憩に入るため、**会議終了** を押します。

会議中画面

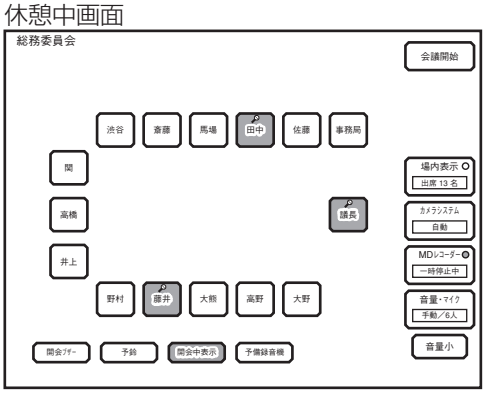


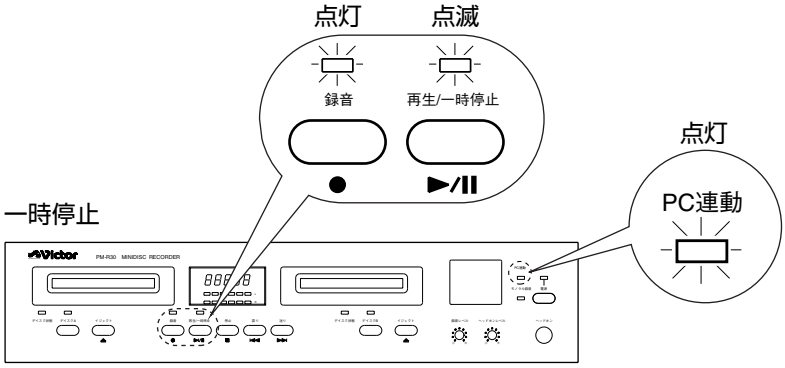


停止中のディスクドライブのイジェクトボタンのみ操作できます。

⑤ **会議を中断する** を押します。
休憩になります。

休憩中画面

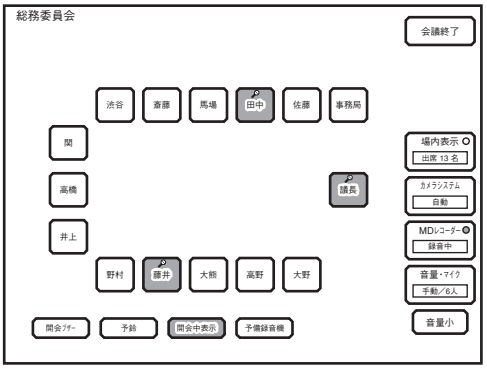


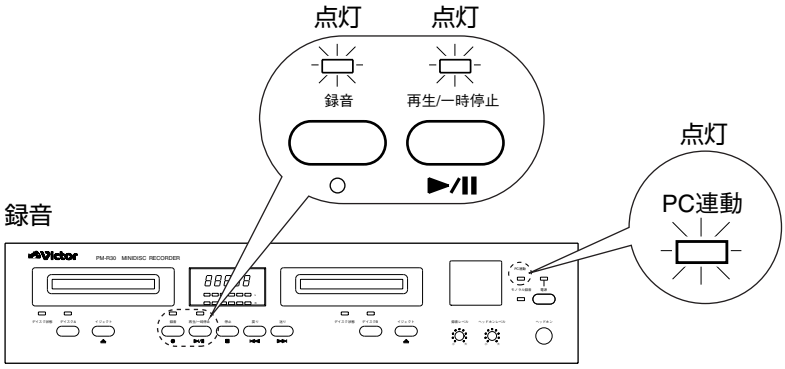


停止中のディスクドライブのイジェクトボタンのみ操作できます。（一時停止中のディスクドライブのイジェクトボタンは操作できません。）

⑥ **会議開始** を押します。

会議中画面



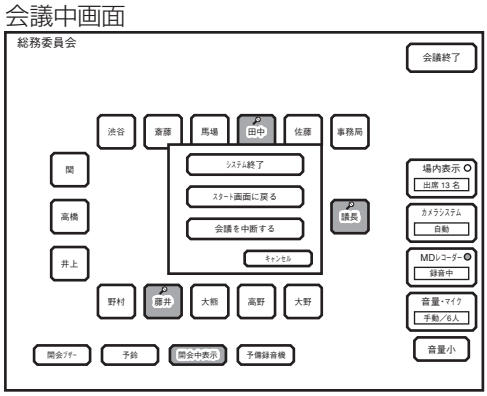


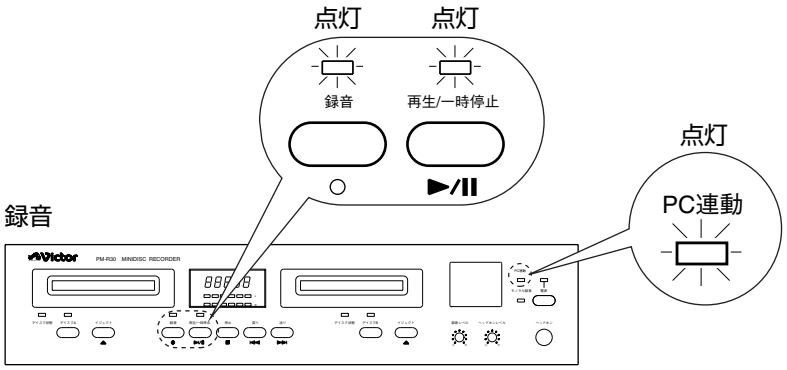
停止中のディスクドライブのイジェクトボタンのみ操作できます。

7.1 自動録音時の動作について（つづき）

⑦ 会議を終了するため、**会議終了** を押します。

会議中画面

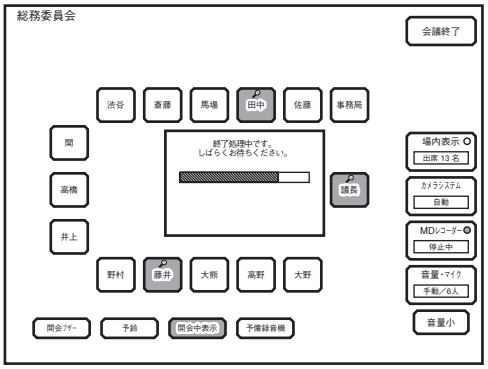


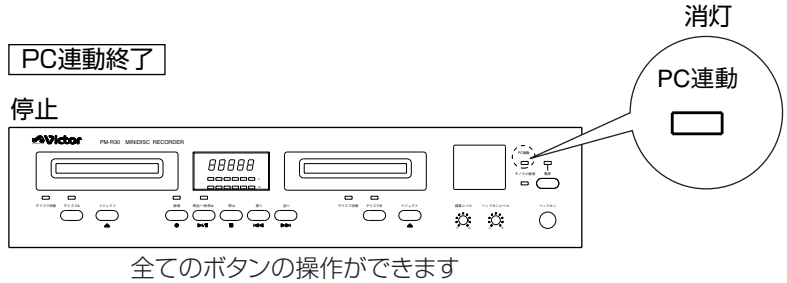


停止中のディスクドライブのイジェクトボタンのみ操作できます。

⑧ **システム終了** を押します。
会議を終了し、PC の電源を切ります。

終了処理中画面





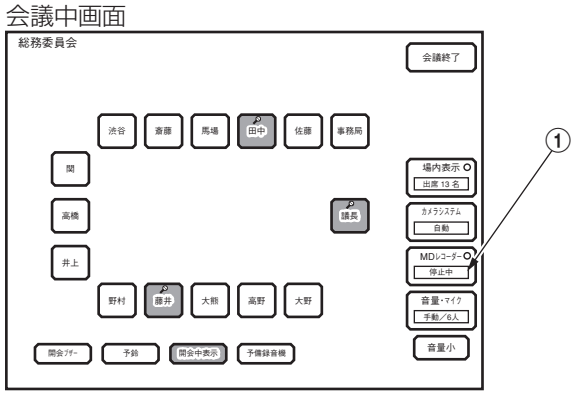
全てのボタンの操作ができます

・録音番号（インデックス No.）の最大数は 254 です。255 番目のインデックスが打たれると録音番号 254（インデックス No.254）のディスクは停止し、新しいディスクが録音番号 1（インデックス No.1）で録音開始します。
・自動録音／手動録音の設定を変更したい場合は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご相談ください。

7.2 手動による録音のしかた

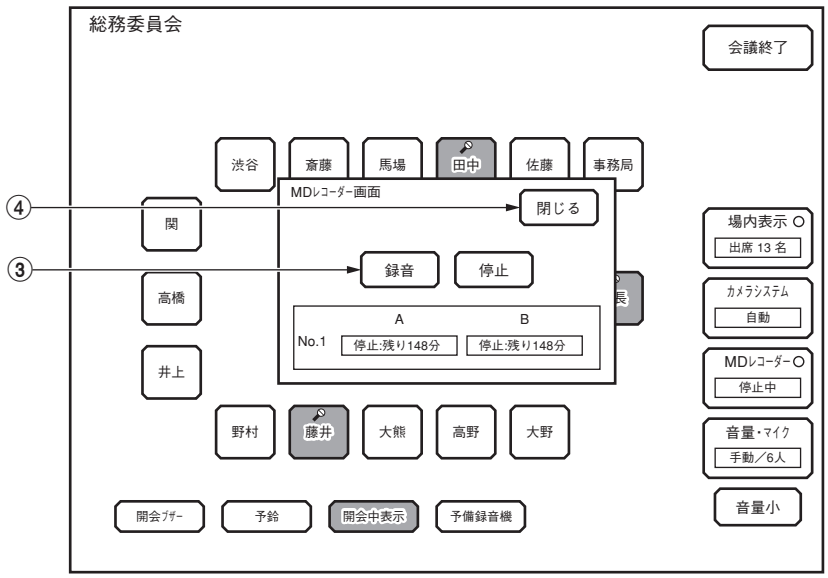
① MDレコーダー 停止中 を押します。

会議中画面



② **MD レコーダー画面**を表示します。

MDレコーダー画面



③ **録音** を押します。
MD レコーダーの録音が開始されます。

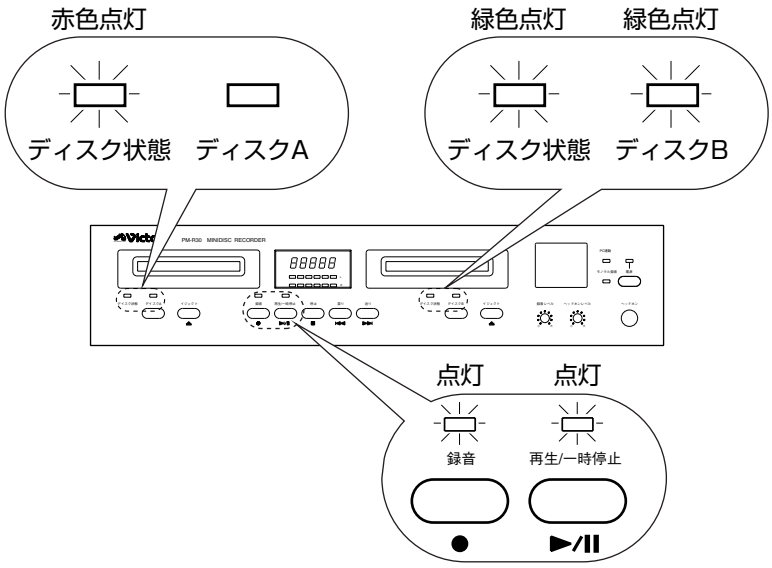
④ **閉じる** を押します。
MD レコーダー画面を閉じます。

・録音を停止するには **停止** を押します。
・録音番号(インデックス No.)の最大数は 254 です。255 番目のインデックスが打たれると録音番号 254(インデックス No.254)のディスクは停止し、新しいディスクが録音番号 1(インデックス No.1)で録音開始します。
・自動録音に設定されている場合には、手動により停止していても休憩後の会議開始の操作で録音になります。
・手動録音に設定されている場合でも、会議終了の操作で停止になります。
・自動録音／手動録音の設定を変更したい場合は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご相談ください。

7.3 録音済みディスクの交換

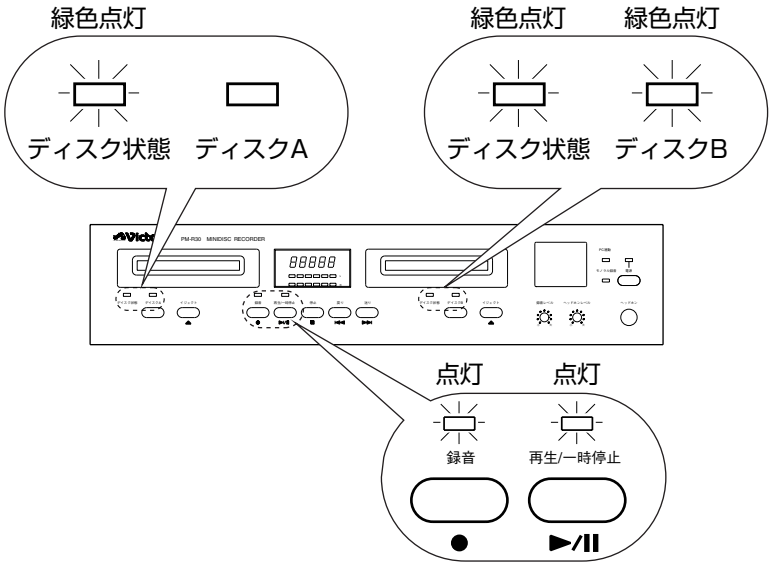
録音がおこなわれたディスクはディスク状態ランプが赤色に点灯します。

① ディスク状態ランプが赤色に点灯しているディスクドライブのイジェクトボタンを押し、ディスクを取り出します。



ディスクAは録音済です。
ディスクBは録音中です。
ディスクAのみ交換できます。

② ブランクディスクを挿入し、ディスク状態ランプが緑色に点灯することを確認してください。



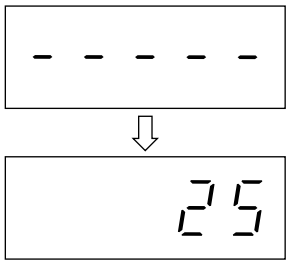
7.4 再生と消去のしかた

ご注意
PC 連動ランプが点灯しているときは操作はできません

■ 再生のしかた

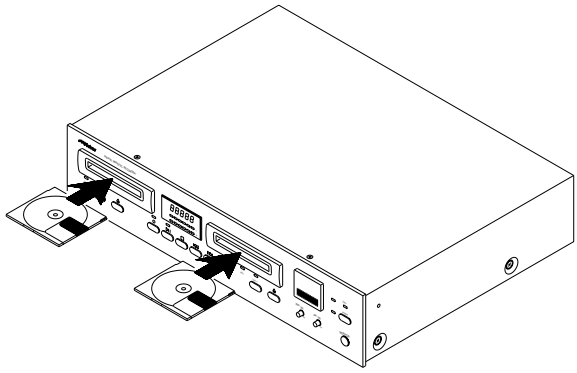
① ディスクを入れる

ディスクに書いてある矢印の方向に矢印のある面を上にしてディスクドライブA側またはB側に差し込みます。ディスクは自動的に中に引き込まれます。



点滅（TOC 読み込み中）

トータル録音番号数（インデックス No.）が表示されます。



② 再生／一時停止ボタンを押す。

ボタン上のランプ(緑)が点灯し再生をはじめます。途中で再生を停止するときは停止ボタンを押します。

一時停止するときは再生／一時停止ボタンを押します。

ボタン上のランプ(緑)が点滅します。もう一度押すと停止したところから再生が始まります。

録音番号の頭出し

次の録音番号の頭出しは送りボタンを 1 回押します。1 回押すたびに録音番号が 1 つ増えます。

聞いている録音番号の頭出しは戻しボタンを 1 回押します。

早送り・早戻し

MD 再生中に操作します。

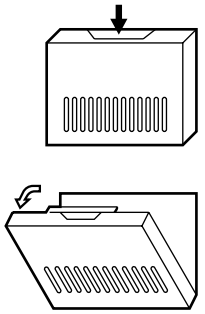
早送りは送りボタンを押し続けます。早戻しは戻しボタンを押し続けます。

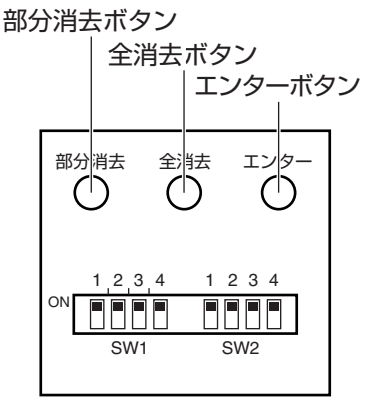
7.4 再生と消去のしかた（つづき）

■ 消去のしかた（ポケットカバーをはずします）

ご注意

・PC連動ランプが点灯しているときは手動操作はできません。再生専用ディスクや消去防止状態になっているディスクは消去できません。
・一度消去した録音は戻すことが出来ません。大切な録音の入ったディスクは消去防止つまみを録音禁止側にずらしておいてください。
・部分消去、全消去とも各操作の後にイジェクト操作を行うことで消去作業が完了します。

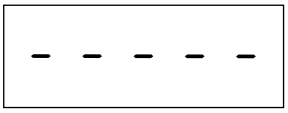




部分消去

指定した録音番号を消去するときに使用します。

① 停止時に送りまたは戻しボタンで消去したい録音番号を選んで部分消去ボタンを押します。中止するときは停止ボタンを押してください。
② 録音番号が点滅している状態でエンターボタンを押します。
③ 終わったらイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。
ディスクが出てくる前に TOC の修正を行います。ディスクに記録中は

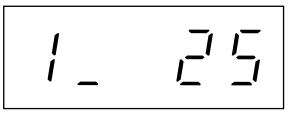


の表示が点滅します。

全消去

ディスクに録音されている内容を全て消去し、ブランクディスクにします。

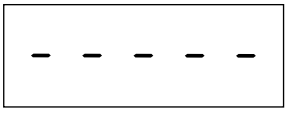
① 停止時に全消去ボタンを押すと



が点滅して表示されます。

録音番号 1 から最大録音番号を表示します。
中止するときは停止ボタンを押してください。

② エンターボタンで実行します。
③ 終わったらイジェクトボタンを押してディスクを取り出してください。
ディスクが出てくる前に TOC の修正を行います。ディスクに記録中は



の表示が点滅します。

※部分消去ボタン、全消去ボタンを押して10秒以内にエンターボタンを操作しないと録音番号が点滅から点灯になり消去作業がキャンセルされます。消去作業がキャンセルされた場合、もう一度最初から消去作業を行なってください。

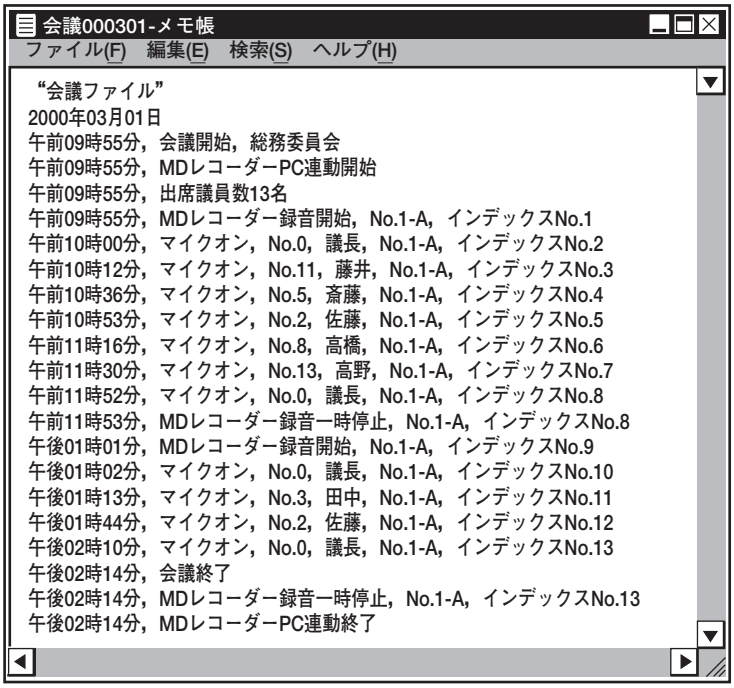
7.5 会議記録ファイルについて

MD レコーダー **PM-R30** は、操作画面（会議コントロールソフト）の操作に合わせて、録音番号（インデックス No.）を記録します。
録音番号（インデックス No.）の記録は、次の操作で行われます。

・録音を開始したとき
・ターミナルユニット **PM-T10/T11** のマイクが入ったとき

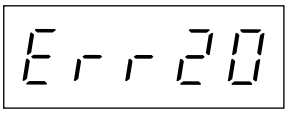
会議記録ファイルには、上記操作が行われたときの録音番号（インデックス No.）が書き込まれます。

会議記録ファイルの例

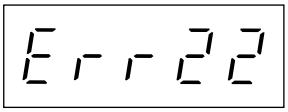


＊ 録音番号（インデックス No.）は 254 までです。

7.6 エラーメッセージとその対処法



Err20... ディスクエラー
ディスクを交換してください。



Err22... 録音中に異常が発生
停止ボタンを押して停止してからイジェクトボタンを押してディスクを取り出し、もう 1 度操作しなおしてください。

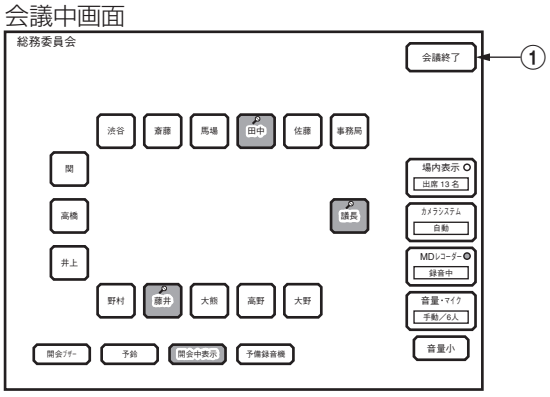
再操作後、または電源を入れなおしてもErr（エラー）を表示する場合はお買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご連絡ください。

8. デジタル会議システムの電源の切りかた

8.1 操作画面（会議コントロールソフト）を終了する

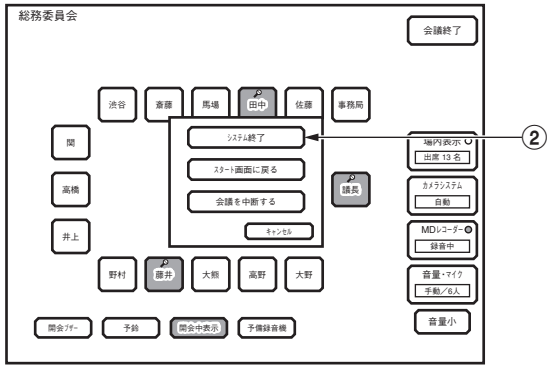
① 会議終了 を押します。

会議中画面



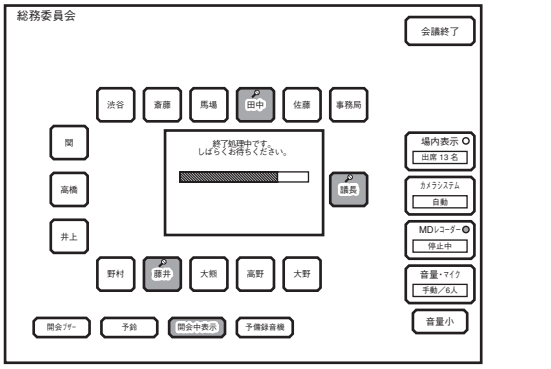
② システム終了 を押します。

会議中画面



③ 会議が終了され、システムコントロール用 PC の電源が切れます。
場内表示用 PC も同時に、電源が切れます。

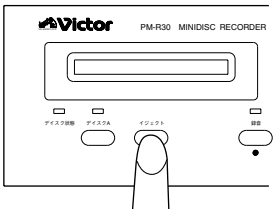
会議中画面



8.2 デジタル会議システムの電源の切りかた

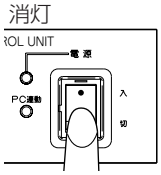
システムの機器構成や接続方法によって、電源の切り方が異なる場合があります。
お買い上げ販売店とご相談のうえ操作してください。

① MD レコーダー **PM-R30** のイジェクトボタンを押し、ディスクを取り出します。

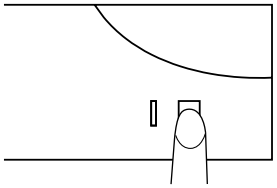


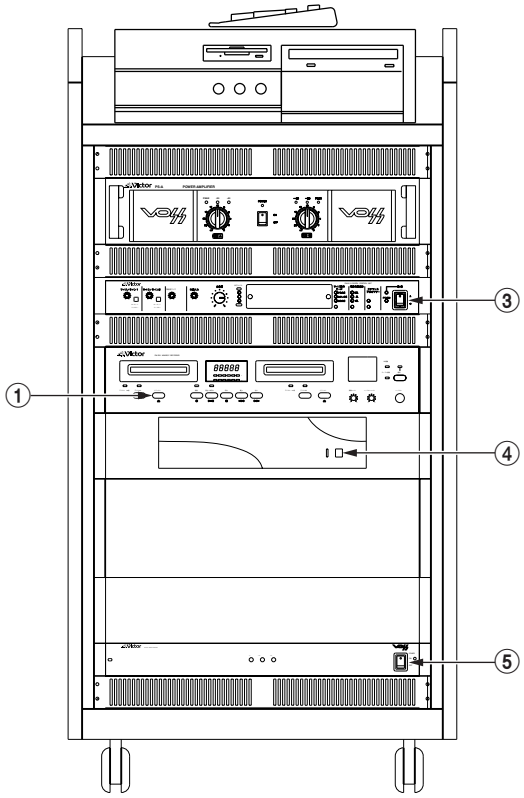
② パワーアンプや周辺機器の電源を切ります。

③ デジタルコントロールユニット**PM-M110**の電源スイッチを**切**にします。
デジタルコントロールユニット**PM-M110** 、ターミナルユニット **PM-T10/T11** の電源が切れます。

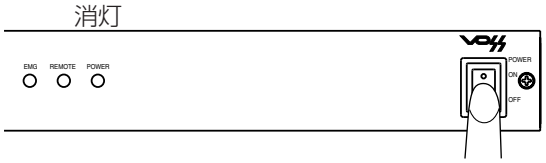


④ 無停電電源装置（**UPS**）の電源を切ります。





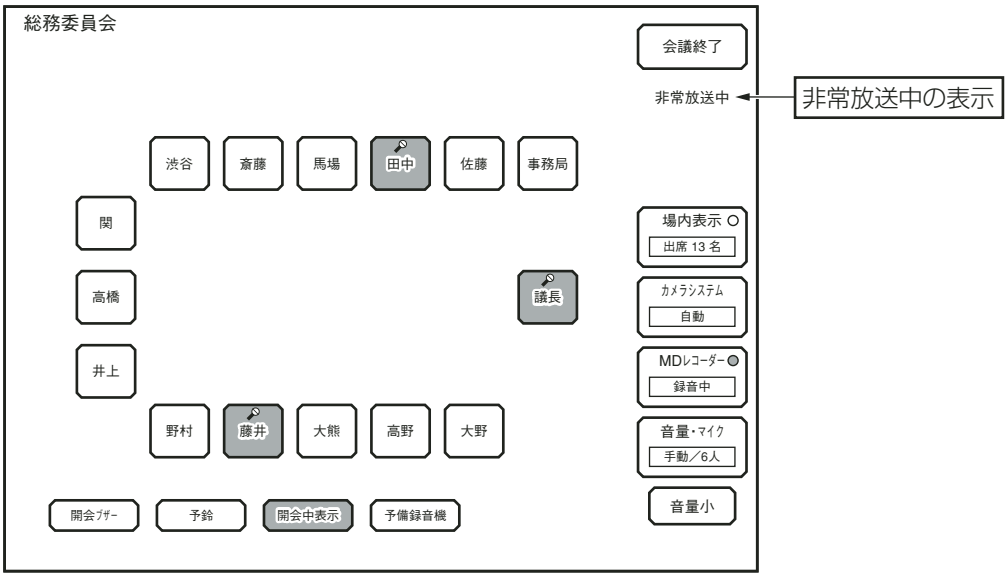
⑤ パワーコントローラー **PS-P32-B** の電源を切ります。



9. 非常放送時には

非常放送の信号を受け取ると、画面右上に非常放送中と表示されます。
機器の操作は、通常通り行うことができます。
非常放送が終了すると、非常放送中の表示は消えます。

会議中画面



非常放送中の音声出力について

非常時に非常放送を優先させるために録音出力以外の出力音量を遮断します。
ただし、設定によっては遮断しないことも可能です。
設定を変更したい場合は、お買い上げ販売店またはビクターサービス窓口へご相談ください。

主な仕様

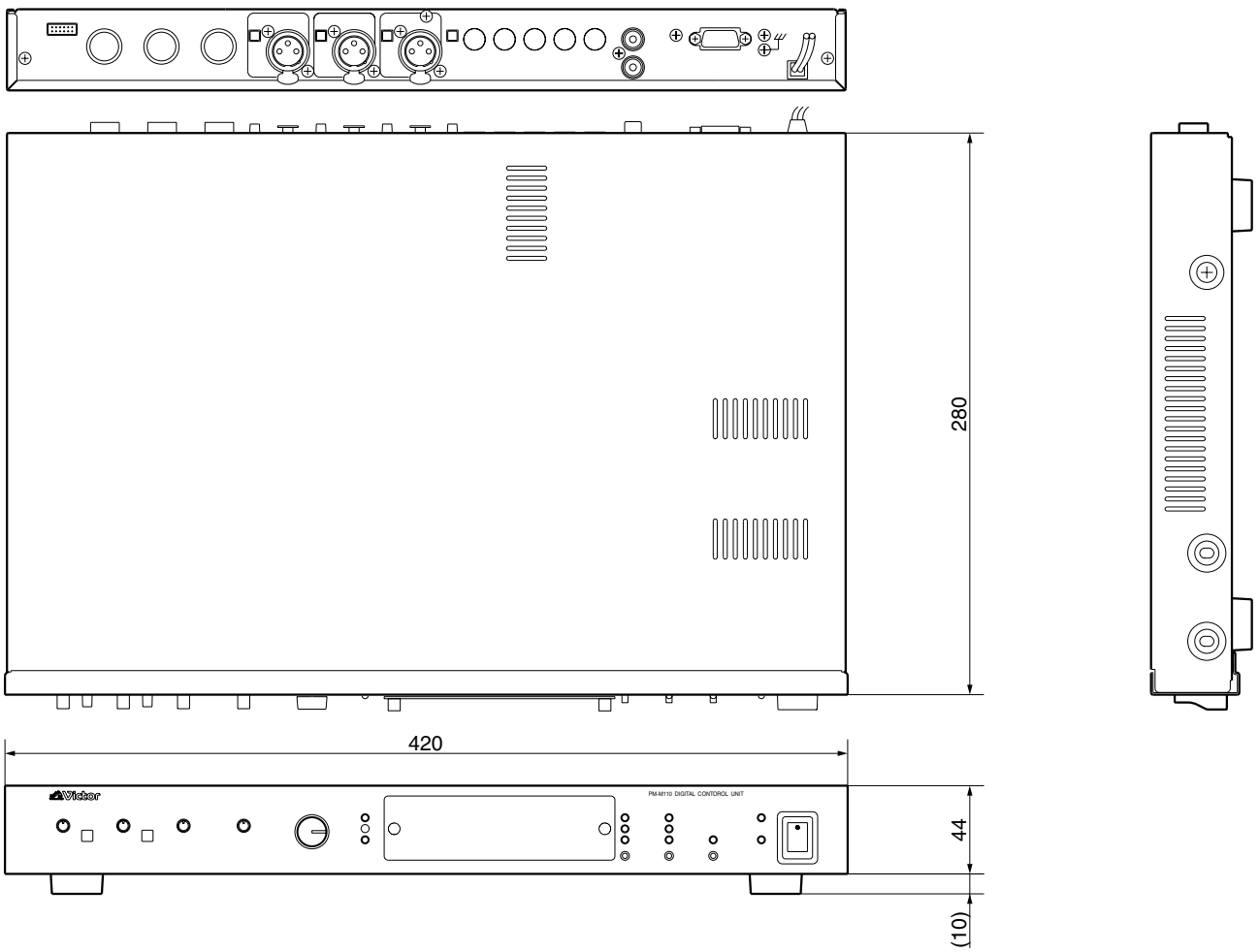
本機の仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります

1. デジタルコントロールユニット PM-M110

■定　格

会議ライン入力	丸型専用コネクター×3（3ライン接続対応）
ＤＣ電源出力	+24V,0V
マイク音声入力	H,C +4dBs/10kΩ（電子平衡）
モニター音声出力	H,C +4dBs/100Ω（電子平衡）
シリアル通信入出力	RS-485 準拠
操作パソコンコネクター	D-sub 9ピンコネクター RS-232C準拠
マイク／ライン入力	キャノンXLR-3-31タイプコネクター×2 -60dBs/2kΩ[マイク]、-10dBs/10kΩ[ライン] （電子平衡、LCF付き）
集音マイク入力	キャノンXLR-3-31タイプコネクター -60dBs/2kΩ（電子平衡） ファンタム電源（12V）出力可
外部入力	φ6.3 ジャック -10dBs/10kΩ（電子平衡）
録音出力	RCAピンジャック（L,R）×2 -10dBs/100Ω（不平衡）
パワーアンプ出力	φ6.3 ジャック×2 +4dBs/100Ω（電子平衡）
外部出力１	φ6.3 ジャック +4dBs/100Ω（電子平衡）
外部出力２	φ6.3 ジャック -10dBs/100Ω（電子平衡）
外部制御端子	角型12ピンコネクター DC24V/100mA、E、 外部制御出力×４ （オープンコレクター、100mA以下）、 発言者連動出力×4 （オープンコレクター、100mA以下） RB＋, RB－
デジタル信号処理部	デジタルアナウンスプロセッサ内蔵 （エキスパンダ、コンプレッサ、リミッタ機能付） デジタルハウリングサプレッサ内蔵 自動マイク･スピーカー点検機能内蔵
周波数特性 （1kHz基準）	100Hz～15000Hz +1dB/-3dB
電源	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	120W
外形寸法	幅420mm ×高さ44mm ×奥行280mm（突起物含まず）
仕上げ	黒色塗装仕上
質量	3.6kg
付属品	ラックマウント金具×２ （EIA19インチラック取り付け可能） M4 ねじ×４、M5 ねじ×４ 取扱説明書×１ 設置説明書×１ 外部制御ケーブル×１ 調節用ドライバー×３

■外観寸法図　単位：mm



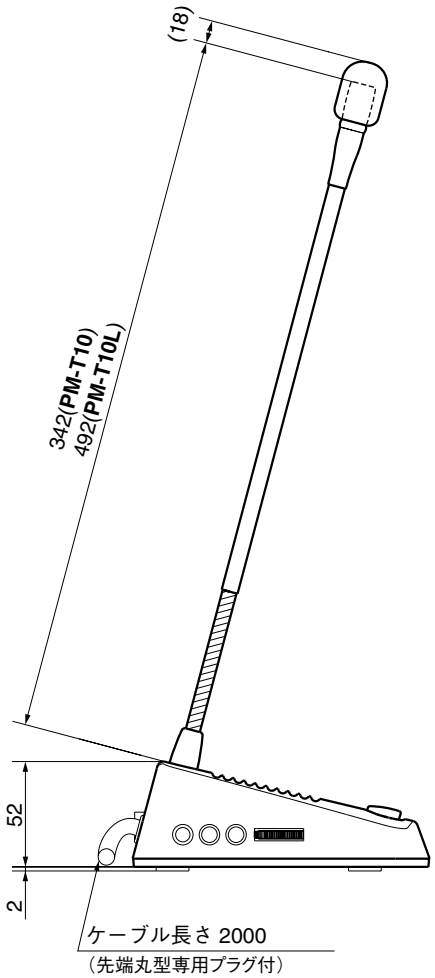
2. マスターターミナルユニット PM-T10/T10L

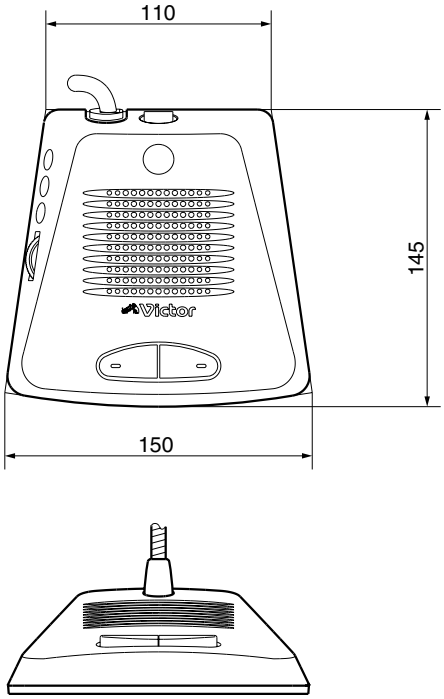
■定　格

操作ボタン	発言ボタン、発言者解除ボタン
表示ランプ	発言表示、発言者解除表示
マイク	バックエレクトレットコンデンサー型、単一指向性、ランプ付き
マイク感度	-47dB（0dB=1V/Pa,1kHz）
会議ライン出力	丸型専用プラグ付ケーブル 2m
会議ライン入力	丸型専用コネクター
DC電源	+24V、0V（デジタルコントロールユニット **PM-M110** より受電）
マイク音声	H、C（電子平衡） 入力:+4dBs/5kΩ、出力:+4dBs/100Ω
モニター音声	H、C（電子平衡） +4dBs/30kΩ入力（入力-出力間はスルー）
シリアル通信	RS-485 準拠

オーディオ部	
マイクアンプ入力	-60dBs/1kΩ、不平衡 （半固定ボリューム付）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック×2、3mW
録音出力	ステレオミニジャック、0dB/600Ω
モニター	0.1W
音量調節器	付（ヘッドホン出力、モニター音量共用）
周波数特性 （1kHz基準）	マイク入力: 50Hz -6dB±2dB、15000Hz -1dB±2dB ヘッドホン出力、録音出力、モニター: 100Hz～10000Hz 0dB±2dB
電源	DC24V、70mA （デジタルコントロールユニット **PM-M110** より受電）
外形寸法	幅150mm×高さ400mm×奥行145 mm（**PM-T10**） 幅150mm×高さ550mm×奥行145 mm（**PM-T10L**）
仕上	ダークグレー （日塗工YN-30（1999年版）近似） （マンセルN3近似） マイク部:黒色（亜鉛メッキ）
質量	0.65kg
付属品	風防×1

■ 外観寸法図　単位:mm



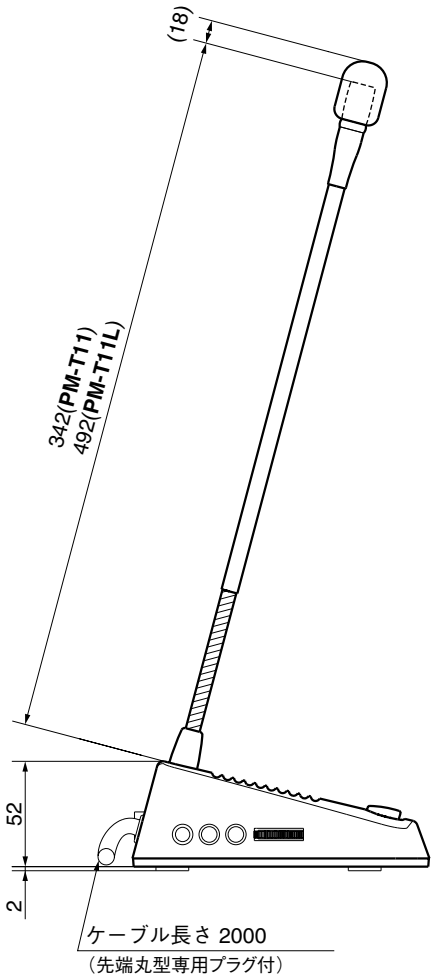


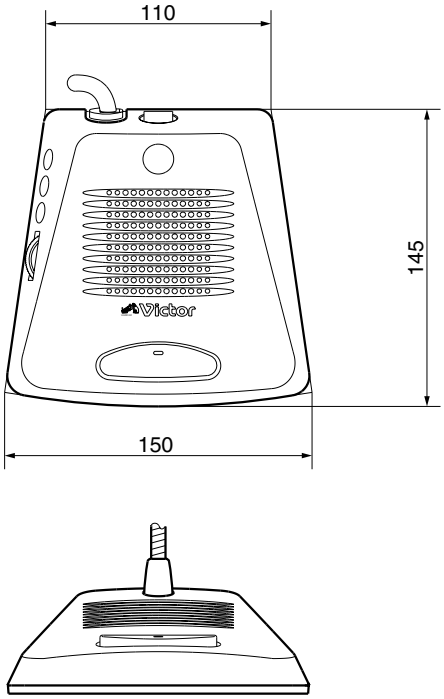
3. メンバーターミナルユニット PM-T11/T11L

■定　格

操作ボタン	発言ボタン
表示ランプ	発言表示
マイク	バックエレクトレットコンデンサー型、単一指向性、ランプ付き
マイク感度	-47dB（0dB=1V/Pa,1kHz）
会議ライン出力	丸型専用プラグ付ケーブル2m
会議ライン入力	丸型専用コネクター
DC電源	+24V、0V（デジタルコントロールユニット **PM-M110** より受電）
マイク音声	H、C（電子平衡） 入力:+4dBs/5kΩ、出力:+4dBs/100Ω
モニター音声	H、C（電子平衡） +4dBs/30kΩ入力（入力-出力間はスルー）
シリアル通信	RS-485準拠
オーディオ部	
マイクアンプ入力	-60dBs/1kΩ、不平衡 （半固定ボリューム付）
ヘッドホン出力	ステレオミニジャック×2、3mW
録音出力	ステレオミニジャック、0dB/600Ω
モニター	0.1W
音量調節器	付（ヘッドホン出力、モニター音量共用）
周波数特性 （1kHz基準）	マイク入力: 50Hz -6dB±2dB、15000Hz -1dB±2dB ヘッドホン出力、録音出力、モニター: 100Hz～10000Hz 0dB±2dB
電源	DC24V、70mA （デジタルコントロールユニット **PM-M110** より受電）
外形寸法	幅150mm×高さ400mm×奥行145mm（**PM-T11**） 幅150mm×高さ550mm×奥行145mm（**PM-T11L**）
仕上	ダークグレー （日塗工YN-30（1999年版）近似） （マンセルN3近似） マイク部:黒色（亜鉛メッキ）
質量	0.65kg
付属品	風防×1

■外観寸法図　単位:mm



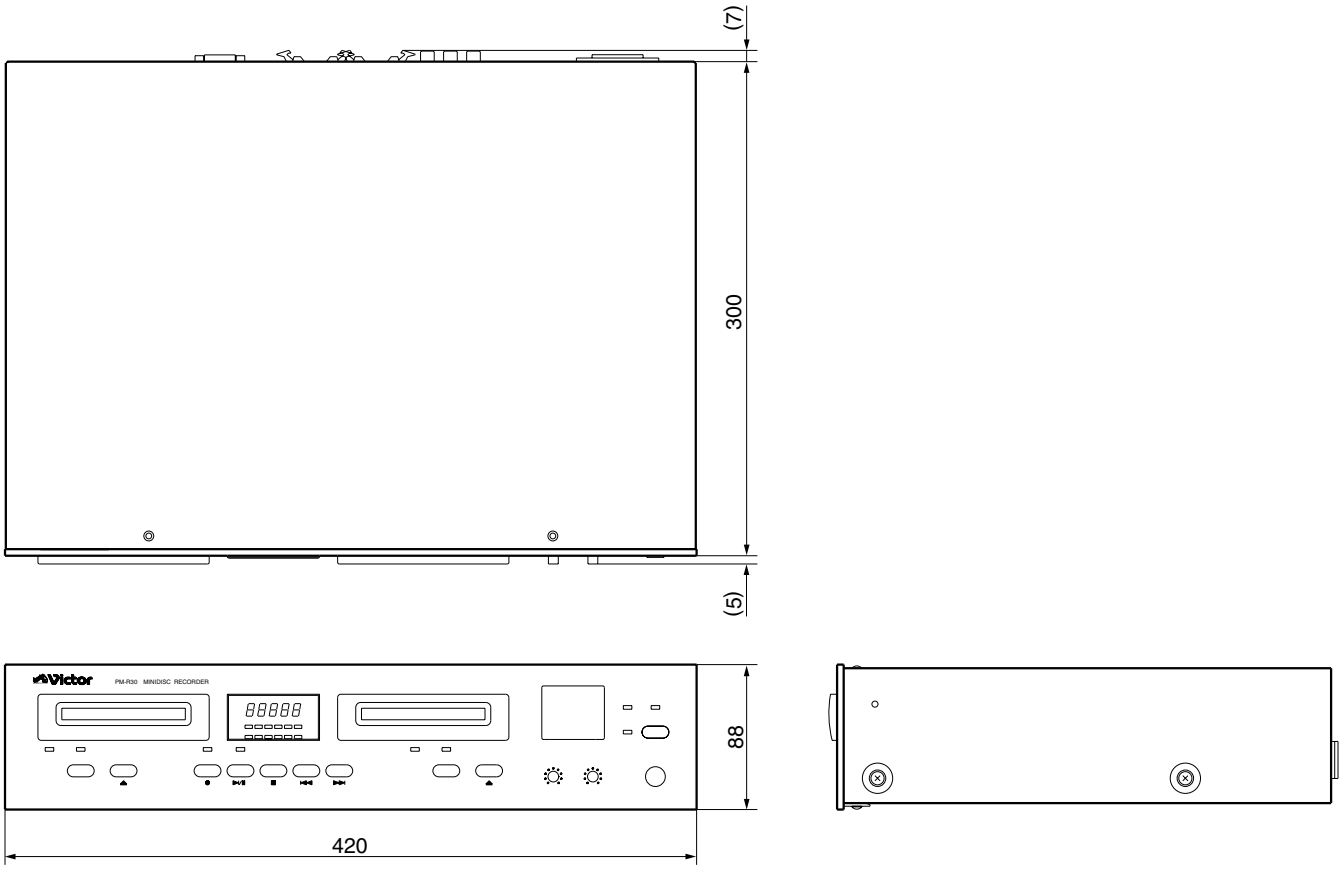


4. MD レコーダー　PM-R30

■定　格

形　　式	ミニディスクデジタルオーディオシステム
記 録 方 式	磁界変調オーバーライト方式
信号読取方式	非接触光学方式
サンプリング周波数	44.1kHz
音声圧縮方式	ATRAC 方式
チャンネル数	2チャンネル（L,R）またはモノラル
録 音 時 間	295分（74分タイプMD2枚使用、モノラル連続録音時）（ステレオ時は 74 分× 2 枚）
ダ ビ ン グ	本機内では不可
周波数特性（1kHz基準）	20Hz ～ 20000Hz −1 ± 3dB
S　N　比	80dB 以上
ワウフラッター	測定限界（±0.001%W,PEAK）以下
入 力 端 子	RCA ピンジャック（入力L,R、順送り出力L,R）− 10dBs/5k Ω（不平衡）
出 力 端 子	RCA ピンジャック（L,R）− 6dBs/100 Ω（不平衡）
ヘッドホン出力	3mW
パソコンとの接続	D-sub9 ピンコネクター（RS-232C 準拠）
MDレコーダーとの接続	10ピンコネクター（RS-485準拠）
電　　源	AC100V50Hz/60Hz
消 費 電 力	15W（電気用品取締法基準）
使用温度範囲	5℃～ 35℃
外 形 寸 法	幅 420mm ×高さ 88mm ×奥行 300mm（突起物含まず）
仕　上　げ	黒色アルマイト仕上（マンセルN1近似）
質　　量	5.9kg
付 属 品	RCA ピンケーブル× 1 フラットケーブル（10P）× 1 電源コード× 1 ラックマウント金具× 2（EIA19インチラック取り付け可能） M4 ねじ× 4、M5 ねじ× 4

■外観寸法図　単位：mm

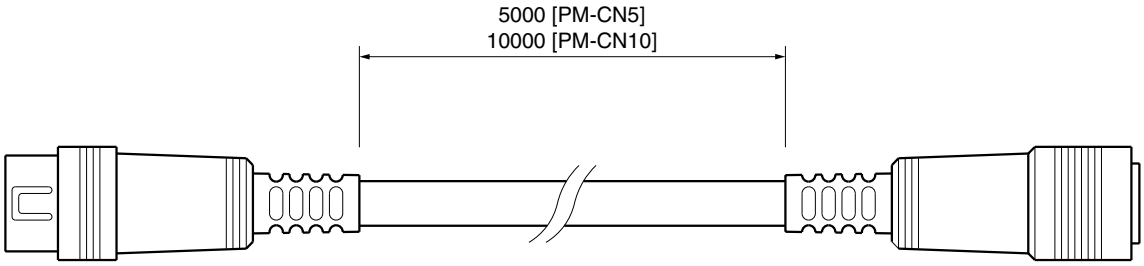


5. 延長ケーブル PM-CN5/CN10

■ 定　格

機種名	ケーブル長（L）
PM-CN5	5m
PM-CN10	10m

■ 外観寸法図　単位：mm

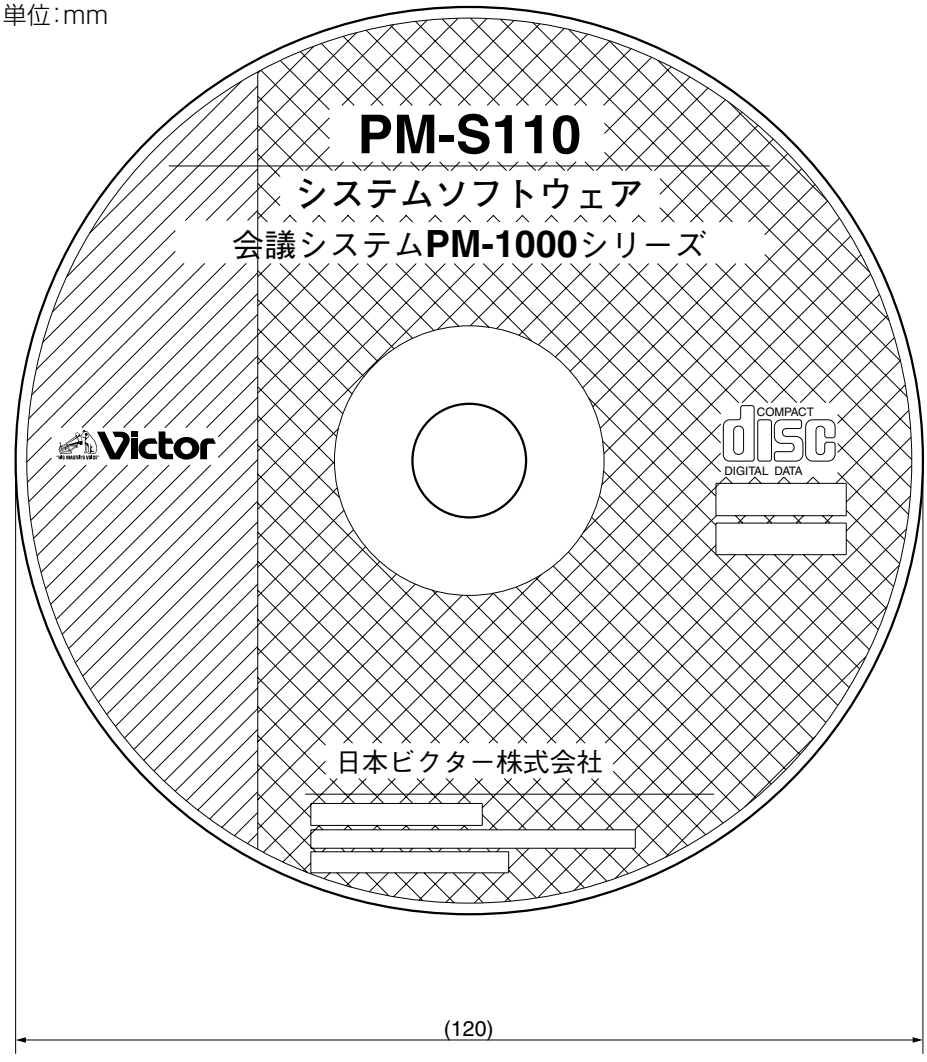


6. システムソフトウェア PM-S110

■ 記録媒体

CD-ROM

■ 外観寸法図　単位：mm



保証とアフターサービス

保　証　書（別添）

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。
「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保 証 期 間

お買い上げの日から１年間

補修用性能部品の最低保有期間

本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は、通産省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談は、お買い上げの販売店または別紙の「ビクターサービス窓口案内」をご覧のうえ最寄りのサービス窓口にお問い合わせください。

修理を依頼されるときは　出張修理

異常のあるときは、お手数でももう一度、各部の接続、つまみの位置についてお調べください。
それでも具合が悪いときは、電源プラグを抜いて使用を中止し、お買い上げの販売店またはビクターサービス窓口に修理をご依頼ください。

保 証 期 間 中 は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	デジタル会議システム
型　　名	PM-1000シリーズ
お買い上げ日	年　　月　　日
故 障 の 状 況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください。
お　名　前	
電 話 番 号	
訪問ご希望日	

修 理 料 金 の 仕 組 み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
＋	
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
＋	
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

便利メモ	お買い上げ店　名	☎（　　）　–

最寄りのビクターサービス窓口	☎（　　）　–

廃棄について、省エネについて

この商品を廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適正に処理してください。
長時間ご使用にならない場合は、省エネルギーのため電源を切ってください。

PM-1000 シリーズ　デジタル会議システム

お客様ご相談センター

東　　京

☎ **(03)5684-9311**［代表］

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

大　　阪

☎ **(06)6765-4161**［代表］

〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

Victor　JVC

日本ビクター株式会社

プロシステム事業部

〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　電話（0426）60-7243［ダイヤルイン］

© 2000 VICTOR COMPANY OF JAPAN, LTD.

SS961524-002